SONY

4-649-773-**01** (1)

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター

PCV-LX80/BPK

PCV-LX70/BPK

i.LINK™ S400

MEMORY STICK™

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

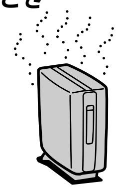
7～13ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意　火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　水ぬれ禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　アース線を接続せよ　プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のCD-RWドライブが搭載されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータのモデム基板は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。
認証機器名：F-1156I/A3
認証番号
　電話回線：A00-0713JP
導入にあたっては、専用ドライバを必ず使用してください。
使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

目次

操作編

基本的な使いかた

VAIOを使いこなす

拡張編

周辺機器を接続する

本体を拡張する

次のページにつづく

セットアップ編

困ったときは

その他



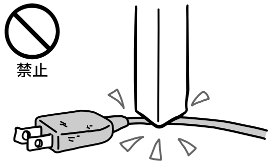
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

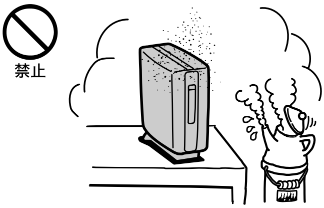
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

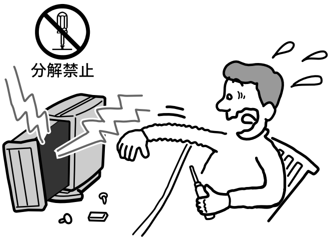


警告



下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

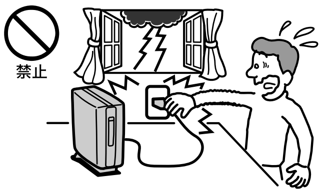
むやみに内部を開けない



- 内部には電圧の高い部分があり、ケースをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

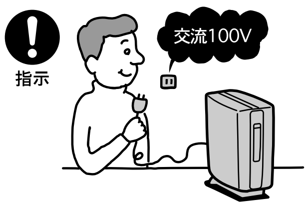
雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグに触らない

感電の原因になります。



本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機のNETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

禁止

通電中のディスプレイ画面に長時間触れない

通電中のディスプレイ画面に長時間皮膚が触れていると低温やけどの原因となることがあります。
通電中のディスプレイ画面には長時間触れないでください。

禁止

⚠警告　下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
デスクトップ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。安全アースを取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

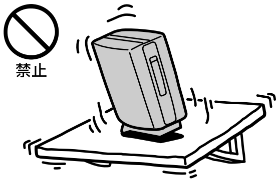
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや逆さまにしない。
- 本機を縦置きにするときは、付属の縦置きスタンドを使用する。



⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。後面パネルのリリースバーを持って運搬しないでください。また、前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。
付属のディスプレイを運搬するときは、両手で画面の側部を持つか、スタンド首の左右を持って運んでください。スタンドベースの前部および後部は持たないでください。



製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



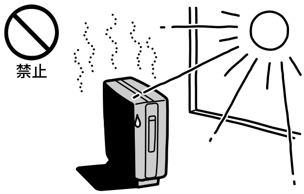
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



製品の設置や移動時に机の上でずらさない

コンピュータとディスプレイを設置したり、移動させるときに机の上でずらさないでください。机が傷つく原因となります。



マニュアルの使いかた

本書は、以下の章で構成されています。
また、本機にどのようなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「ご確認ください」をご覧ください。

❑ 操作編

本機を初めてお使いになるときは、「基本的な使いかた」（28ページ）からお読みください。特にコンピュータを初めてお使いになる方は、「マウスを使う」（33ページ）や「キーボードを使う」（39ページ）、「文字を入力する」（45ページ）をお読みになり、コンピュータの基本的な使いかたをマスターすることをおすすめします。
一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」（91ページ）をご覧ください。

❑ 拡張編

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器やプリンタなどの周辺機器のつなぎかた、また本機の拡張のしかたについて説明しています。

❑ セットアップ編

ここでは、本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更する方法を説明しています。

❑ 困ったときは

本機の操作がわからなかったり、本機がうまく動作しないときにお読みください。トラブルの解決方法を説明しています。

❑ その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

本書で使われている本機のイラスト画面について

本書で使われている本機のイラストは断りがない限りPCV-LX80/BPKのものです。
また、本書で使われている画面は実際のものと異なる場合があります。

本機の使いかたがわからないときに

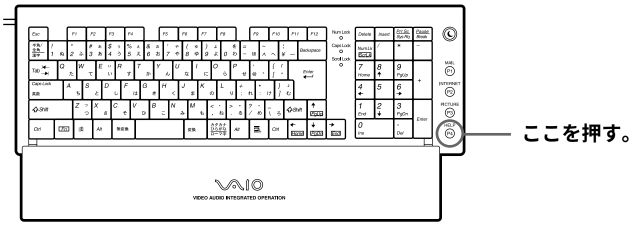
「サイバーサポート」ソフトウェアを使う

付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの画面でトラブルや質問を入力することで、この取扱説明書の内容、別冊の「はじめにお読みください」、本機の仕様や本機に付属のソフトウェアの一覧、本機に付属のソフトウェアの取扱説明書、BIOSセットアップメニューや内蔵モデムについての情報、Microsoft® Windows® 2000 Professional（以降、Windows 2000と略します。）のヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）の中から、その解決方法を自動的に検索できます。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動するには

キーボードの P4 キーを押す。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアが起動します。



「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 2000などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページでは、製品出荷後の最新情報を提供しています。
VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」ソフトウェアで検索できる情報を更新してください。
更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」ソフトウェアの画面左下の［最新のデータに更新］をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますのでご注意ください。
操作について詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。
また、この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）

この取扱説明書の内容など、以下の情報は、オンラインマニュアルとして本機のデスクトップ画面上でお読みいただけます。

オンラインマニュアルとは

本書や別冊の「はじめにお読みください」、ソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。PDF（Portable Document Format）のファイルで付属しています。

デスクトップ画面とは

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

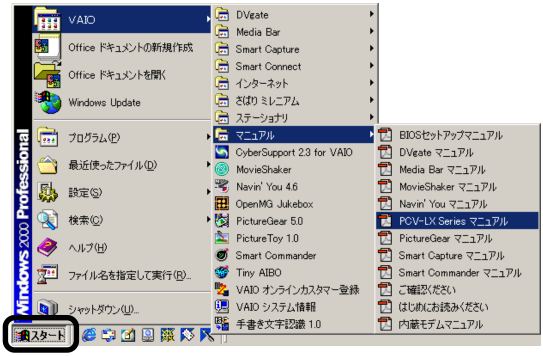
- オンラインマニュアル（この取扱説明書）
- 「はじめにお読みください」
- 「ご確認ください」（本機の主な仕様と付属のソフトウェアの情報）
- BIOSセットアップマニュアル（BIOSセットアップメニューの情報）
- 内蔵モデムマニュアル（本機に内蔵のモデムの情報）
- 以下のソニー製のソフトウェアの使いかた
  – 「DVgate」ソフトウェア
  – 「Media Bar」ソフトウェア
  – 「MovieShaker」ソフトウェア
  – 「Navin' You」ソフトウェア
  – 「PictureGear」ソフトウェア
  – 「Smart Capture」ソフトウェア
  – 「Smart Commander」ソフトウェア（PCV-LX80/BPKのみ）

オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、読みたいオンラインマニュアルをクリックする。

ここでは、この取扱説明書の内容を表示させてみます。

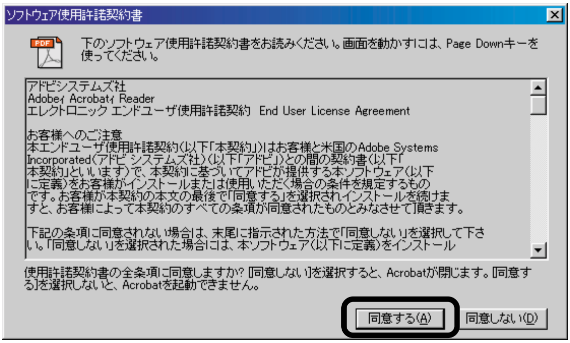


本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、この取扱説明書の内容が表示されます。

次のページにつづく

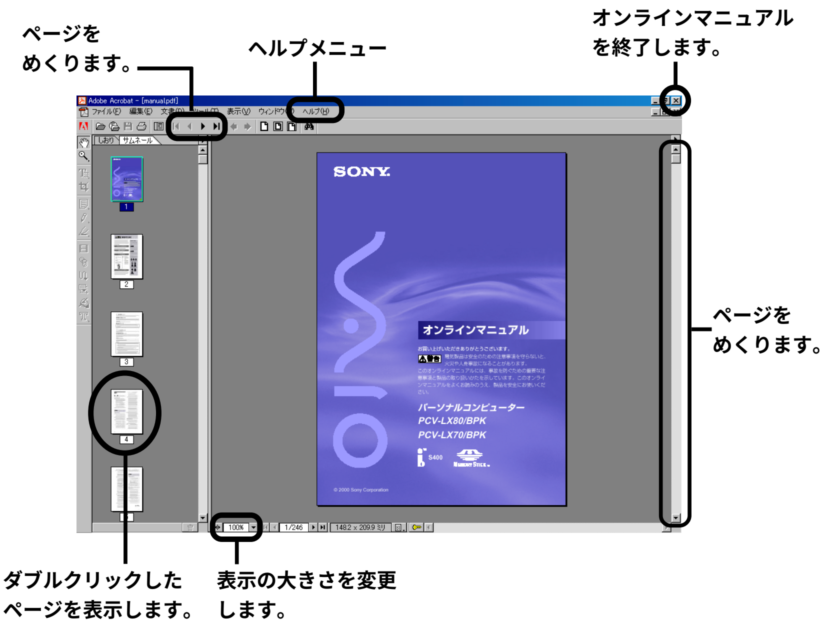
「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、 同意する(A) をクリックしてください。



オンラインマニュアルの見かた

サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときは、 をクリックし、それぞれのタブをクリックします。詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」の ヘルプ(H) をクリックしてヘルプをご覧ください。



Windows 2000のヘルプの使いかた

Windows 2000の操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows 2000のヘルプを見るには

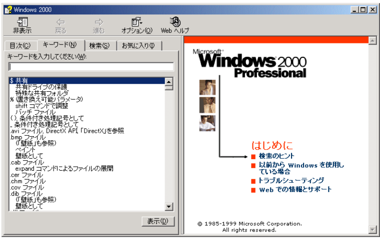
Windows 2000のヘルプを見るには本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはWindows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

ヘルプが表示されます。



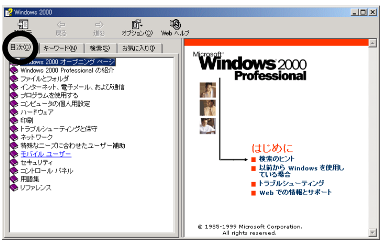
ヘルプの見かた

表示される「目次」、「キーワード」、「検索」のいずれかのタブをクリックして、知りたい情報を検索します。

「目次」で検索する

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を参照できます。

「目次」で検索するには、［目次］タブをクリックし、表示される項目にあるをクリックして知りたい情報を表示させます。

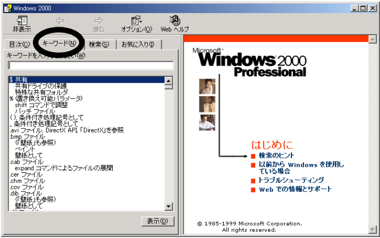


次のページにつづく

「キーワード」で検索する

入力した語句に該当する項目を表示させます。

「キーワード」で検索するには、［キーワード］タブをクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。



「検索」で検索する

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。

また、複数の語句を組み合わせることによりより効率良く検索することもできます。

「検索」で検索するには、［検索］タブをクリックし、表示される入力欄にキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。



各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書やオンラインマニュアルをご覧ください。

別冊の「ご確認ください」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

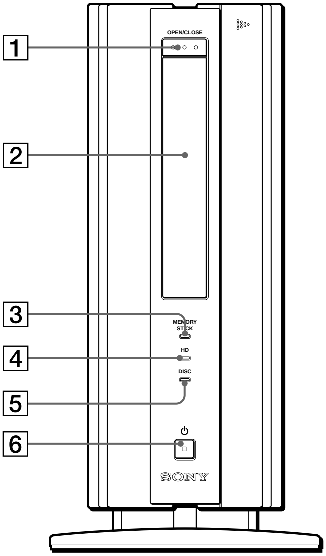
各部の名称と働き

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

キーボードの各部の名称と働きについては

「キーボードを使う」（39ページ）をご覧ください。

本機前面



1 **OPEN／CLOSEボタン（54ページ）**
CD-RWドライブのトレイを引き出したり、閉めたりするときに押します。

2 **CD-RWドライブ（54ページ）**
CD-ROMのデータを読み込んだり、CD-RWやCD-Rにデータを書き込めます。

3 **MEMORY STICK （メモリースティック）アクセスランプ**
“メモリースティック”のデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

ご注意

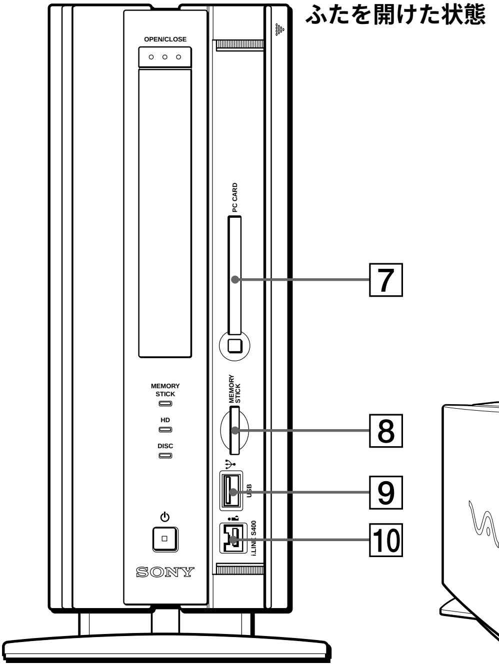
“メモリースティック”へのデータの書き込み中やデータの読み出し中に“メモリースティック”を取り出さないでください。

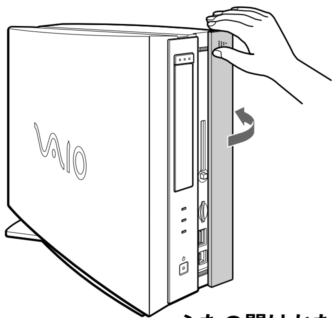
4 **HD（ハードディスク）アクセスランプ**
ハードディスクにアクセスしてデータを読み込んだり、書き込んだりするときにオレンジ色に点灯します。

5 **DISC（ディスク）アクセスランプ（57ページ）**
ディスクのデータを読み込んでいるときやデータを書き込んでいるときにオレンジ色に点灯します。

6 **⏻（電源）ボタンと電源ランプ（28ページ）**
本機とディスプレイの電源を入／切するときに押します。電源が入っている間は、電源ランプが緑色に点灯します。
本機動作中にこのボタンを押すと、スタンバイモードに入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。

次のページにつづく





7 **PC CARD（PCカード）スロット**（169ページ）

メモリカードなどのPCカードからデータを読み込んだり、SCSIカードでSCSIデバイスをつないだりします。

8 **MEMORY STICK（メモリースティック）スロット**（87、137ページ）

“ メモリースティック ”のデータを読み込んだり、書き込んだりします。

9 **USB（Universal Serial Bus）コネクタ**（78、157、158ページ）

USB規格に対応した機器をつなぎます。

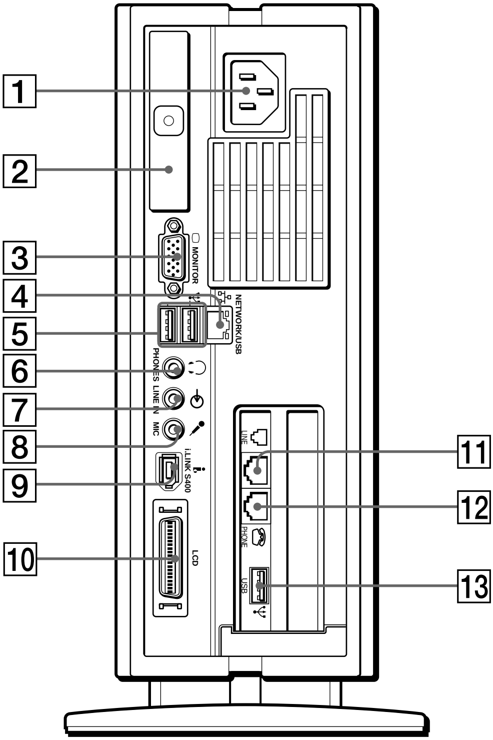
10 **i.LINK S400 コネクタ（4ピン）**（151ページ）

i.LINK対応機器をつなぎます。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。i.LINKについて詳しくは、152ページをご覧ください。

本機後面



1 **AC電源入力プラグ**
付属の電源コードをつなぎ、AC電源につなぎます。

2 **リリースレバー（165ページ）**
本機に拡張ボードやメモリを増設するとき、カバーを取りはずすときに使います。

3 **MONITOR（モニタ）コネクタ**
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-H200など、別売りのディスプレイをつなぎます。

4 **NETWORK（ネットワーク）コネクタ（159ページ）**
ネットワーク（LAN）とつなぎます。

ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。
お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

次のページにつづく

5 USB（Universal Serial Bus）**コネクタ**（78、157、158**ページ**）

USB規格に対応した機器をつなぎます。

6 PHONES（**ヘッドホン**）**コネクタ**

市販のステレオヘッドホンをつなぎます。

7 LINE IN（**ライン入力**）**コネクタ**

オーディオ機器をつなぎます。

8 MIC（**マイクロホン**）**コネクタ**（104**ページ**）

市販のモノラルマイクをつなぎます。

9 i.LINK S400 **コネクタ**（6**ピン**）（151**ページ**）

i.LINK対応機器をつなぎます。

10 LCD（**液晶ディスプレイ**）**コネクタ**

本機に付属の液晶ディスプレイをつなぎます。

ご注意

付属の液晶ディスプレイ以外のディスプレイをつなぐことはできません。

11 LINE（**電話回線**）**ジャック**

壁の電話回線とつなぎます。

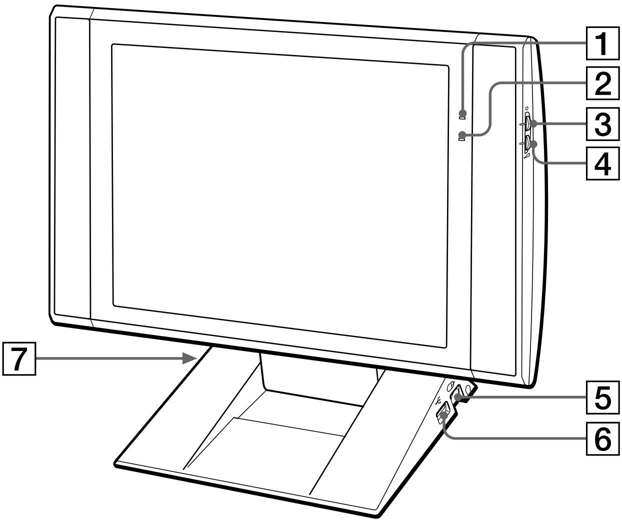
12 PHONE（**電話機**）**ジャック**

電話機をつなぎます。

13 USB（Universal Serial Bus）**コネクタ**（78、157、158**ページ**）

USB規格に対応した機器をつなぎます。

液晶ディスプレイ PCVA-15TXSA1（PCV-LX80/BPK）
PCVA-15QA1（PCV-LX70/BPK）



1 ⏻（電源）ランプ（28ページ）
本機とディスプレイの電源が入っている間、緑色に点灯します。
本機がスタンバイモードのときは、オレンジ色に点灯します。

2 （インフォメーション）ランプ（127、134ページ）
メール着信をお知らせするなど、本機内蔵のタイマー機能実行後の結果を赤色の点灯で表示します。

3 ☼（明るさ調節）ダイヤル
液晶ディスプレイの画面の明るさを調節します。

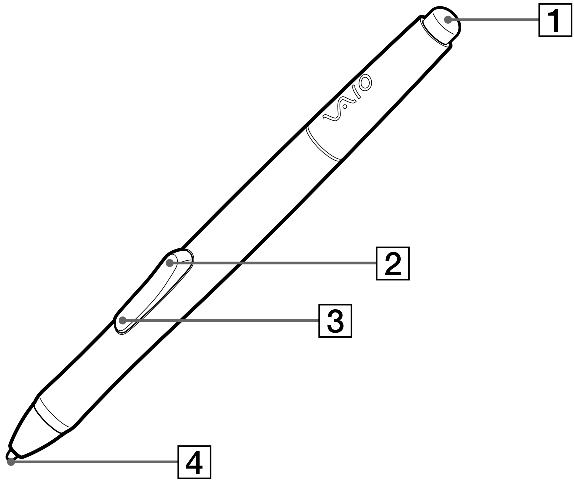
4 ◿（音量調節）ダイヤル
液晶ディスプレイのスピーカーの音量を調節します。

5 （マウス）コネクタ
付属のマウスをつなぎます。

6 Ψ（USB）コネクタ（78、157、158ページ）
USB規格に対応した機器をつなぎます。

7 （キーボード）コネクタ
付属のキーボードをつなぎます。

ペン（PCV-LX80/BPKのみ）



1 **テールスイッチ（101ページ）**
付属の「PictureToy」ソフトウェアや「手書き文字認識」ソフトウェアで絵や文字をかくときに消しゴムとして使います（お買い上げ時の設定）。
「Sonyタブレット」ソフトウェアで設定を変更することもできます。

2 **セカンドサイドスイッチ（97ページ）**
お買い上げ時の設定ではマウスの左ボタンのダブルクリックと同じ働きをします。「Sonyタブレット」ソフトウェアで設定を変更することもできます。

3 **サイドスイッチ（96ページ）**
お買い上げ時の設定ではマウスの右ボタンのクリックと同じ働きをします。「Sonyタブレット」ソフトウェアで設定を変更することもできます。

4 **ペン先（96ページ）**
付属の「PictureToy」ソフトウェアや「手書き文字認識」ソフトウェアで絵や文字をかくときに使います。また、マウスと同じようにデスクトップ画面上の（ポインタ）を動かすことができます。ペン先でディスプレイ画面を軽くたたいたときは、マウスの左ボタンのクリックと同じ働きをします。
「Sonyタブレット」ソフトウェアで設定を変更することもできます。

操作編

電源を入れる

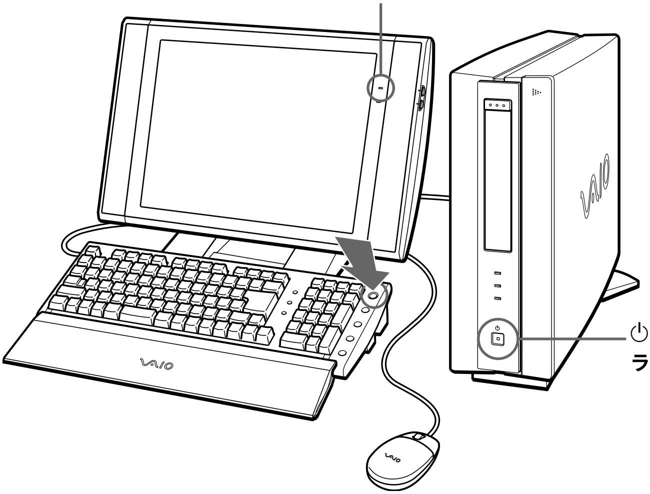
電源を入れる前に確認してください

- ディスプレイ、キーボード、マウスが正しく接続されているか。
- 電源コードがきちんと接続されているか。
- 別売りのUSBフロッピーディスクドライブPCVA-UFD1を本機に取り付けている場合、フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入ったままになっていないか。もし入っている場合はフロッピーディスクイジェクトボタンを押して取り出してください（80ページ）。

接続について詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

1 キーボードの ☾（電源／スタンバイ）キーを押す。

本機とディスプレイの電源が入り、本機とディスプレイの ⏻（電源）ランプが緑色に点灯し、Windows 2000が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 2000のセットアップ画面が表示されます。Windows 2000のセットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」をご覧ください。



2回目以降に電源を入れたときは「Windowsへログオン」画面が表示されます。

ちょっと一言

別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」にある手順14の「このコンピュータのユーザー」画面で「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択したときは、「Windowsへログオン」画面は表示されず、次ページの手順2の操作を行う必要はありません。

本機の ⏻（電源）ボタンでも電源を入れることができます

詳しくは「各部の名称と働き」（21ページ）をご覧ください。

ご注意

4秒以上 ⏻（電源）ボタンを押したままにすると、電源は切れてしまいます。

2 管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力して OK をクリックする。

Windows 2000が起動します。



ご注意

ユーザー名とパスワードは忘れないようにご注意ください。

電源を切る

本機とディスプレイの電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順に従って電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などが使えなくなったりすることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。



3 ▼ をクリックして、一覧の中から「シャットダウン」を選び、OK をクリックする。

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ご注意

本機の電源を切った後、10秒間は電源を入れないでください。

「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んでも電源が切れないときは

以下の操作を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出すには」（170ページ）の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは、取りはずす。

それでも電源が切れないときは、「困ったときは」の「電源」（203ページ）をご覧ください。

一時的に作業を中断するときは

次の操作で、一時的にシステム全体の動作を停止することができます（スタンバイモード）。このとき、本機前面の電源ランプはオレンジ色に点灯します。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。

- キーボードの（電源／スタンバイ）キーを押す。
- 「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んで表示される「Windowsのシャットダウン」画面でをクリックして「スタンバイ」を選ぶ。

通常の動作モードに戻すには、キーボードの（電源／スタンバイ）キーを押します。

本機には2つのスタンバイモードが用意されています。モードの切り換え操作について詳しくは、「省電力機能の設定を変更する」（195ページ）をご覧ください。

ご注意

- スタンバイモードは本機の電源が切れた状態ではなく、本機の電源の消費をおさえている状態です。スタンバイモードのときに、電源コードをコンセントから抜かないでください。作業を中断する前の状態に戻れなくなります。また、本機の故障の原因となることがあります。
- 付属の液晶ディスプレイは、本機より電源が供給されています。スタンバイモードに移行すると、ディスプレイの電源も自動的に切れます。

再起動する

本機の設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要がある場合があります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windowsのシャットダウン」画面が表示されます。

3 ▼ をクリックして、一覧の中から「再起動」を選び、 OK をクリックする。

「お待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

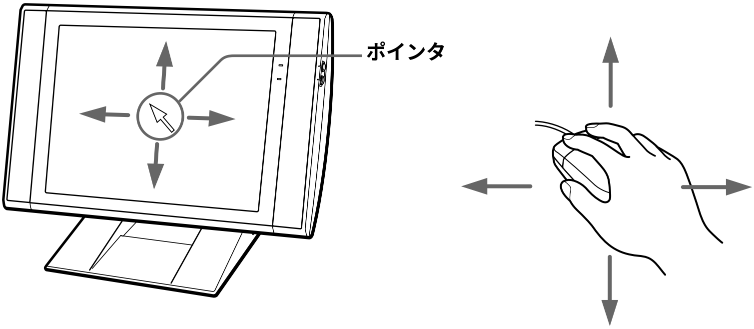
4 管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力して OK をクリックする。

ちょっと一言

別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」にある手順14の「このコンピュータのユーザー」画面で「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択したときは、手順4の操作を行う必要はありません。

マウスを使う

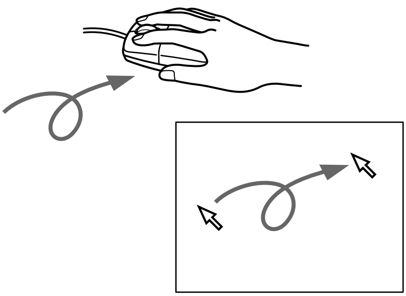
ここではマウスの使いかたを説明します。
マウスを動かすと、その動きに合わせて画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン／右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

マウスを動かす

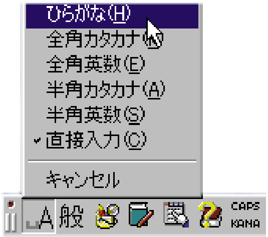
机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。



次のページにつづく

ポイントする

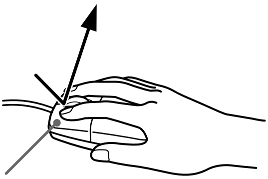
（ポインタ）を希望の位置に合わせることです。メニューを選ぶときなどに使います。



クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

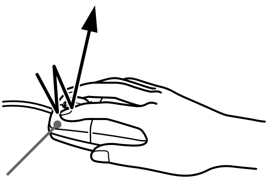
OK や キャンセル などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



ダブルクリックする

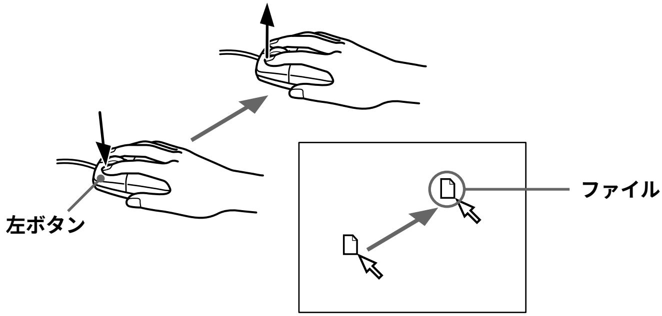
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

ソフトウェアを実行したり、作成した文書のファイルを開くときなどに使います。



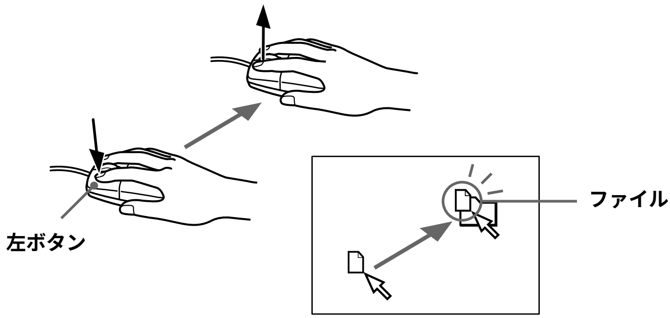
ドラッグする

左ボタンを押したまま希望の位置まで動かしてからボタンを離すことです。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。



ドラッグアンドドロップする

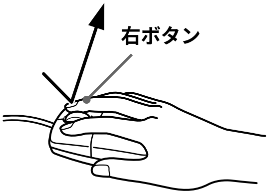
ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。
ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。

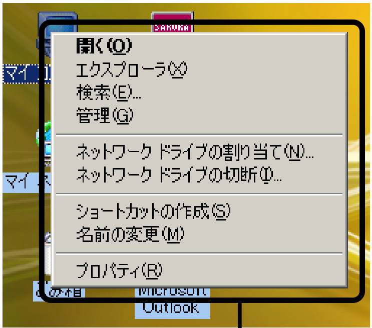


次のページにつづく

右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。
ショートカットメニューを使うと、メニューなどを開かずに、さまざまな機能を直接使うことができます。





デスクトップ画面左上の［マイコンピュータ］を右クリックしたときのショートカットメニュー

ホイールボタンの使いかた

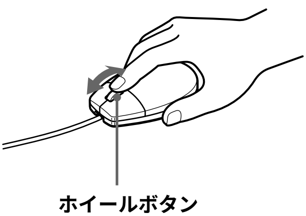
ホイールボタンを使うことによって、スクロール、オートスクロール、ズームなどの操作ができます。

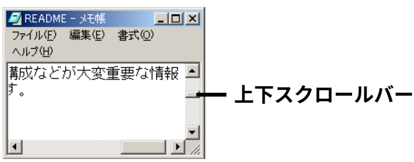
ご注意

お使いになるソフトウェアによっては動作が異なったり、機能しないものがあります。

スクロールする

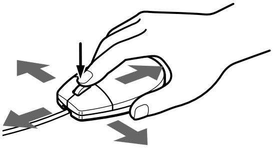
ウィンドウ上で上下スクロールバーが表示されているときに、ホイールボタンを転がすと、画面が上下して表示されていない情報を見ることができます。
また、上下スクロールバーをポイントし、ホイールボタンを転がして上下にスクロールすることもできます。

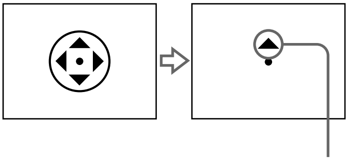




パンする

ホイールボタンを押しながらマウスを動かして、画面を上下左右に動かすことです。





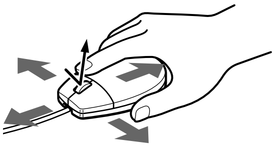
ちょっと一言

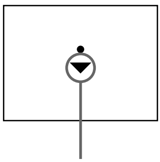
お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもパンすることができます。

オートスクロールする

ホイールボタンを押してすぐ離し、マウスを動かして自動的に画面を動かすことです。

カーソルを元に戻す場合は、ホイールボタンをもう1度押すか、左または右ボタンをクリックします。





ちょっと一言

お使いになっているソフトウェアによっては、斜めにもオートスクロールすることができます。

次のページにつづく

ズーム／データズームする

ズームする

キーボードの Ctrl（コントロール）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ画面を拡大したり縮小することです。

データズームする

キーボードの ⇧Shift（シフト）キーを押しながらホイールボタンを転がし、ウィンドウ上のデータを上または下の階層に切り換えることです。

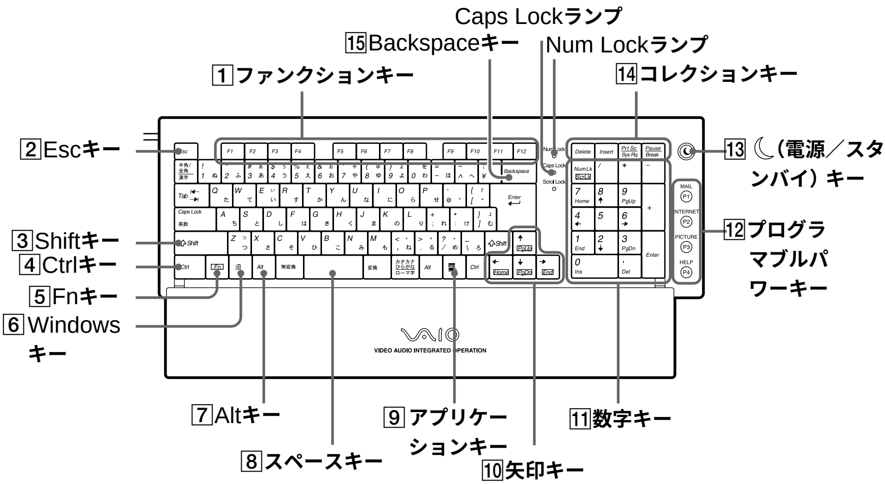
ご注意

お使いになるソフトウェアによって動作が異なったり、機能しないものがあります。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（45ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
1 ファンクションキー F1 〜 F12	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはWindows 2000のヘルプまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
2 Esc（エスケープ）キー Esc	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
3 Shift（シフト）キー ⇧Shift	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。数字キー左上のCaps Lock（キャプス・ロック）ランプがついている状態で、文字キーと同時に押した場合は、小文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。

次のページにつづく

なまえ	機能
4 Ctrl（コントロール）キー Ctrl	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはWindows 2000のヘルプまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例） Ctrl キーを押しながら、S と キーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
5 Fn（エフエヌ）キー Fn	キーボード上で□で囲まれている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 詳しくは「Fnキーとの組み合わせと機能」（43ページ）をご覧ください。
6 Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 2000の「スタート」メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくはWindows 2000のヘルプおよび「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（44ページ）をご覧ください。
7 Alt（オルト）キー Alt	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。 使用するソフトウェアなどによって働きが異なります。詳しくはWindows 2000のヘルプまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
8 スペースキー	文字を入力しているとき、このキーを押すと、スペースを挿入できます。
9 アプリケーションキー	マウスで右ボタンを押したときと同じ働きをします。

なまえ	機能
⑩矢印キー [↑ PgUp] [↓ PgDn] [← Home] [→ End]	画面上のカーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示するときなどに使います。Fnキーと組み合わせて使うと、PgUp（ページアップ）キーやPgDn（ページダウン）キーなどとして使えます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせと機能」（43ページ）をご覧ください。
⑪数字キー	[NumLk ScrLk]（ナム・ロック）キーを押し、数字キー左上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが点灯しているときは、数字を入力できます。消灯しているときは、矢印キーなど、キーの表面下側に印刷されている機能と同じ働きをします。
⑫プログラマブルパワーキー (P1) (P2) (P3) (P4)	これらのキーを押すだけで、好みのソフトウェアなどを起動します。詳しくは「好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）（120ページ）」をご覧ください。
⑬電源／スタンバイキー ⏾	本機とディスプレイの電源を入れます。（28ページ）また、本機の電源が入っているときに押すと、本機のシステム全体の動きが一時的に停止します（スタンバイモード）。
⑭コレクションキー	数字キー左上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯しているときは、数字キーの一部もコレクションキーとして使えます。
• Delete （デリート）キー [Delete]	画面のカーソル上の文字を消すときに押します。
• Insert （インサート）キー [Insert]	文字入力のモードを切り換えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとに、画面上のカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするかが切り換わります。

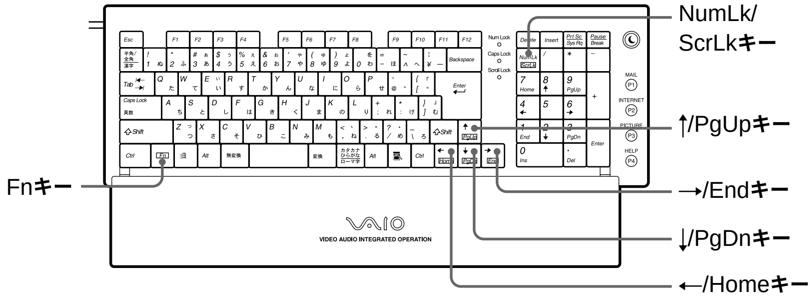
次のページにつづく

なまえ	機能
● Prt Sc／Sys Rq（プリントスクリーン／システムリクエスト）キー [Prt Sc/Sys Rq]	デスクトップ画面全体を画像として本機に取り込みます。[Alt]（オルト）キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブなウィンドウを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。
● Pause／Break（ポーズ／ブレイク）キー [Pause/Break]	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 [Ctrl]（コントロール）キーを押しながらこのキーを押すと、Breakキーとして働きます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
15 Backspace（バックスペース）キー [Backspace]	画面上のカーソルキーの左の文字を消すときに押します。

アクティブなウィンドウとは

デスクトップ画面上で表示されているウィンドウの中で最前面に表示されているウィンドウはタイトルバー（ウィンドウの上の部分）が青い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

Fnキーとの組み合わせと機能

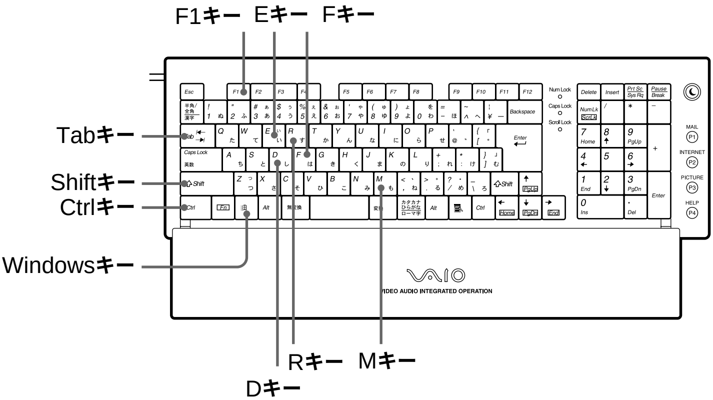


キー操作の表記

例：Fn＋NumLk ➡ Fnキーを押しながらNumLkキーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋NumLk ➡ ScrLk （スクロール・ロック）キー Fn ＋ NumLk/ScrLk	ScrLk（スクロール・ロック）キーとして働きます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Fn＋↑ ➡ PgUp （ページアップ）キー Fn ＋ ↑/PgUp	PgUp（ページアップ）キーとして働きます。 現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋→ ➡ End （エンド）キー Fn ＋ →/End	End（エンド）キーとして働きます。 行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋↓ ➡ PgDn （ページダウン）キー Fn ＋ ↓/PgDn	PgDn（ページダウン）キーとして働きます。 現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋← ➡ Home （ホーム）キー Fn ＋ ←/Home	Home（ホーム）キーとして働きます。 行の先頭にカーソルを移動します。

Windowsキーとの主な組み合わせと機能



キー操作の表記

例：⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windows 2000のヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	「マイコンピュータ」ウィンドウを表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」画面を表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「コンピュータ」の「検索」画面を表示します。
⊞ +D	表示されているすべての画面を最小化したり、元のサイズに戻したりします。
Shift+⊞ +M	⊞+Dで最小化したすべての画面を元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。 ［スタート］メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選んだときと同じです。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（39ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

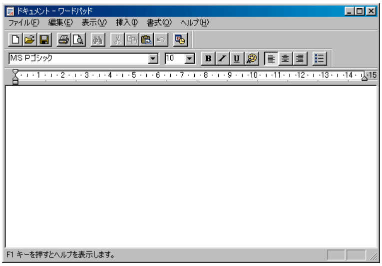
「スタート」メニューが表示されます。



次のページにつづく

2 メニューの［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IME」のツールバーを使って、入力文字を切り替える必要があります。



MS-IME ツールバー

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［␣A］をクリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。



2 メニューの［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。



［␣A］から［あ］に変わる。

MS-IMEツールバーが表示されていないときは
デスクトップ画面右下のタスクトレイにあるをクリックし、表示されたメニューの中から［ツールバーを表示］をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

タスクトレイとは
デスクトップ画面右下の部分のことです。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 2000の機能がここに表示されています。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

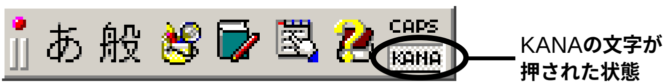
❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り替えるには

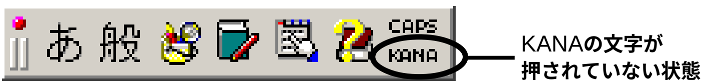
MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数（キャプス・ロック／英数）キーを押す。
ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。

かな入力



[KANA] をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら、Caps Lock 英数（キャプス・ロック／英数）キーを押す。

ローマ字入力

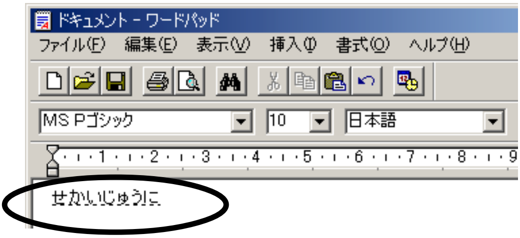


文字入力を練習する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったソニーVAIO」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。

かな入力の場合

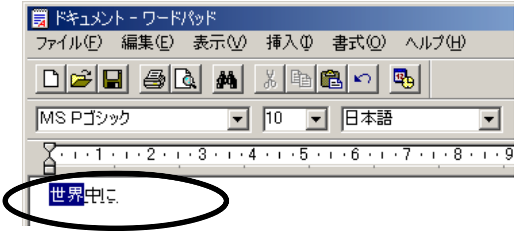
せ、か、い、し、゛（濁点)、ゅ（Shift(シフト) キーを押しながら「ゆ」を押します)、う、に、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）が文字の入力位置に動きます。

2 （スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。

間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、（スペース）キーを押します。

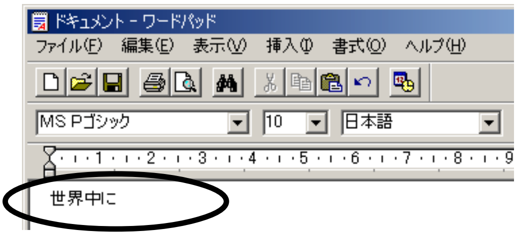


ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまで（スペース）キーを押しつづけます。

3 Enter（エンター）キーを押す。

変換が確定します。



間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

Backspace **（バック・スペース）キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

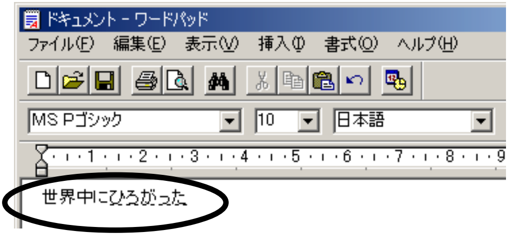
Delete **（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc **（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消します。

次のページにつづく

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

ちょっと一言

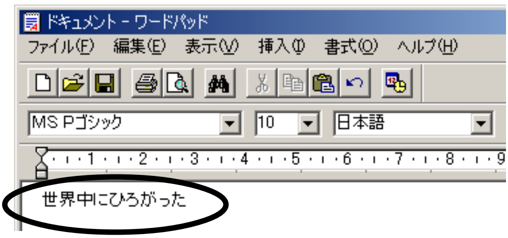
小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であればＴキーを2回押します。

かな入力の場合

ひ、ろ、か、゛（濁点)、っ（Shift（シフト）キーを押しながら「つ」を押します)、た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enter（エンター）キーを押す。



変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

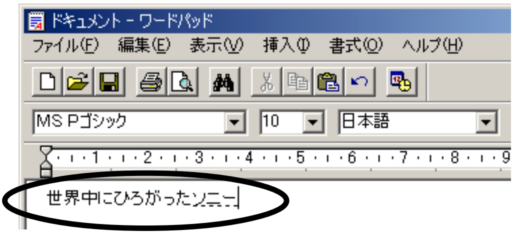
3 カタカナを入力する

1 MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。



2 「ソニー」の読みを入力する。



ローマ字入力の場合

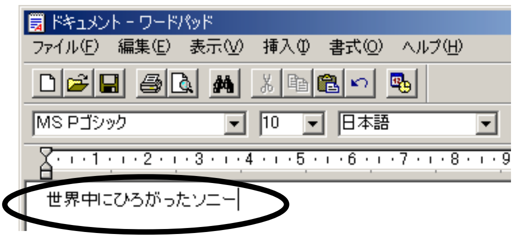
S、O、N、I、–（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

そ、に、ー の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enter（エンター）キーを押す。



変換する必要がないので、［　　］（スペース）キーを押す必要はありません。

次のページにつづく

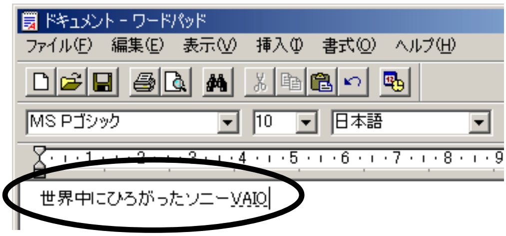
4 英字を入力する

1 **MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［半角英数］をクリックする。**

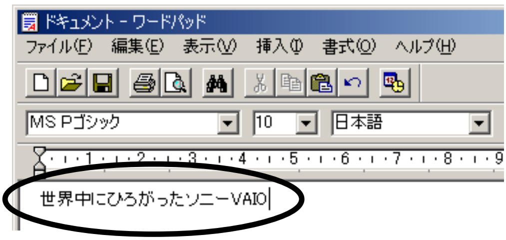
ツールバーの表示が［_A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。



2 **Shift（シフト）キーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**



3 **Enter（エンター）キーを押す。**



変換する必要がないので、　　（スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shift（シフト）キーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、Windows 2000のヘルプまたはMS-IMEのヘルプをご覧ください。

「～」や「~」を入力するには

- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（46ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで[ ]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら[~ へ]キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」（52ページ）または「直接入力」を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら[~ へ]キーを押します。

CD-ROMを使う

CD-ROMは、コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。大容量のデータを記録することができますが、読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを記録することはできません。
ここでは、CD-ROMの使いかたについて説明します。
CD-RWやCD-Rにデータを記録するときは、「CD-RW／CD-Rにデータを記録する」（61ページ）をご覧ください。

ご注意

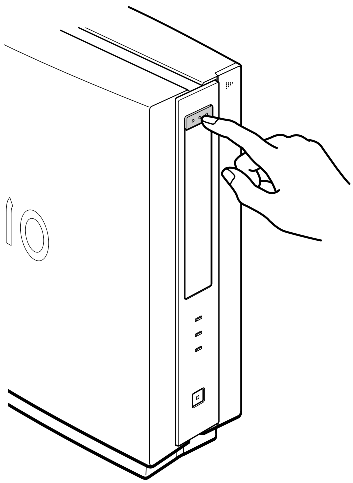
以下のようなディスクはCD-RWドライブに入れないでください。
－ひびがはいっているディスク
－割れているディスク
－反っているディスク
－円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスク
このような状態のディスクをCD-RWドライブに入れると、本機内部でディスクが破損し、本機の故障となることがあります。

ディスクを入れる

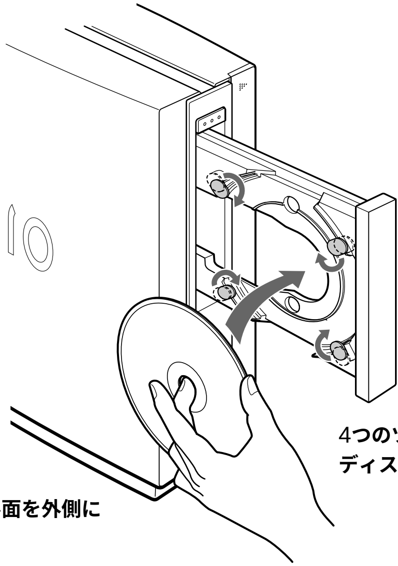
ここではCD-ROMをCD-RWドライブに入れる方法を説明します。
CD-RWやCD-RなどもCD-ROMと同じ方法で入れます。

1 **本機の電源を入れる（28ページ）。**

2 OPEN／CLOSE**ボタンを押す。**
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 レーベル面（文字が書いてある面）を外側にしてディスクをトレイ中央にはめ込み、4つのツメでディスクを固定する。



ご注意

- きちんとディスクをはめ込まないでトレイを閉じると、トレイが開かなくなることがあります。
- ディスクを入れるときは、記録面（文字が印刷されていない面）には絶対に触れないようにしてください。CD-RW／CD-Rの場合には、記録面が汚れると、データの読み書きができなくなることがあります。

4 OPEN／CLOSEボタンを押して、トレイを閉める。

CD-ROMまたは、すでに書き込まれたCD-RW／CD-Rを入れたときは、データの内容が読み込まれます。データを読み始めると、DISC（ディスク）アクセスランプがオレンジ色に点灯します。

ちょっと一言

上記の「ディスクを入れる」の手順4を行うと自動的に実行するディスクもあります。

次のページにつづく

8cmディスクを入れるときは

8cmディスクに別売りの8センチCDアダプターCSA-8を取り付けたあと、CD-RWドライブに入れます。

ご注意

- 必ず8cmディスクに8センチCDアダプターCSA-8を取り付けてからCD-RWドライブに入れてください。
- 8センチCDアダプターはしっかりと8cmディスクに取り付けてください。しっかり取り付いていない状態でCD-RWドライブに入れると、ディスクが回転しているときにはずれることがあります。

8センチCDアダプターCSA-8取り付け時のご注意

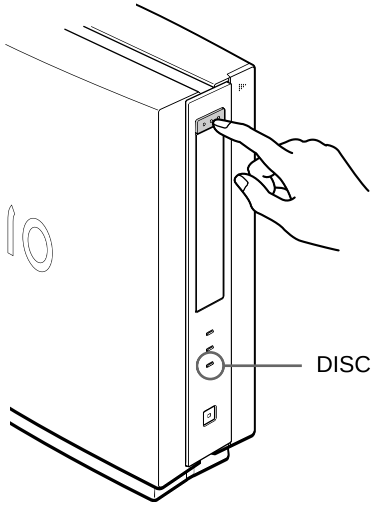
- ツメが浮いている場合は平らになるように指で押し込んでください。
  ツメが浮いていると異音が発生したり、動作しないことがあります。
- 取り付けた後で必ず、ディスクが3つのツメのみぞに正しくはまっているかを確認してください。

ご注意

- ディスクを入れたまま、本機の電源を切らないでください。
- 8センチCDアダプターCSA-8を8cmディスクに取り付けずにCD-RWドライブに入れると取り出せなくなることがありますのでご注意ください。また、本機の故障の原因となります。

ディスクを取り出すには

DISC（ディスク）アクセスランプが点滅していないことを確認してから、OPEN／CLOSEボタンを押します。



ご注意

- OPEN／CLOSEボタンは、本機の電源が入っていないと動作しません。
- CD-RW／CD-Rは、OPEN／CLOSEボタンを押してもディスクがロックされている場合など、状態によってはトレイが引き出されないことがあります。詳しくは、付属の「DirectCD」や「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

データを使う

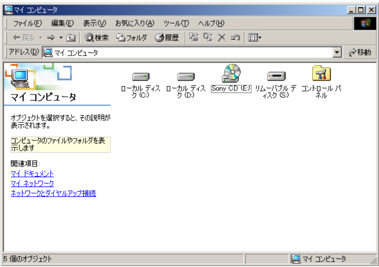
ここではディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

ちょっと一言

ディスクをCD-RWドライブに入れると、自動的に再生が始まるディスクもあります。このようなディスクの場合は、エクスプローラを使って内容を表示させてください。エクスプローラを起動するには、デスクトップ画面左下の  をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］を選び、［エクスプローラ］をクリックします。

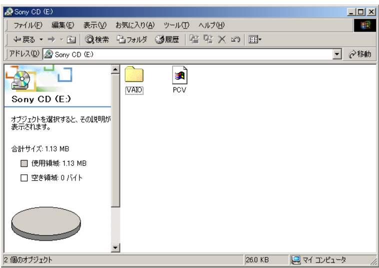
1　デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



2　(E:) をダブルクリックする。

「ディスクを入れる」（55ページ）の手順4で読み込まれたディスクの内容が表示されます。



3 目的に応じて操作する。

ディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の 

をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

使いかたについて詳しくは、「Windows 2000のヘルプの使いかた」（19ページ）をご覧ください。

ハードディスクドライブとは

コンピュータの記憶装置のことで、データの書き込み／読み出しを高速で行います。

再生できるディスク

本機のCD-RWドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク	
CD-ROM	COMPACT disc	
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	
CD Extra	COMPACT disc+ DIGITAL AUDIO	CD EXTRA ™
CD-R*	COMPACT disc Recordable	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable
CD-RW*	COMPACT disc ReWritable	
CDTEXT	COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT	CD TEXT

* 本機では、何も書き込まれていないCD-RW／CD-R、書き込みに失敗したCD-RW／CD-R、データ書き込み後にデータを読み込めるように設定していないディスクはお使いになれません。

ご注意

- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。
- CD-RWを使用して作成した音楽CDは、CDプレーヤーでは再生できません。CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

CD-RW／CD-Rにデータを記録する

CD-RW／CD-Rには、フロッピーディスクに入りきらない大容量のデータを保存することができます。本機では付属の「DirectCD」や「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってCD-RW／CD-Rにデータを記録できます。ここでは、CD-RW／CD-Rの使いかたについて説明します。

CD-RW（CD-Rewritable）とは

CD-ROMと外見は似ていますが、コンピュータで扱うプログラムやデータを何度も書き込んだり消去したりすることができるコンパクトディスクです。

CD-R（CD-Recordable）とは

コンピュータで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができるコンパクトディスクです。書き込んだデータを削除することはできますが、ディスクの空き容量はその分消費されます。

ご注意

「DirectCD」ソフトウェアで音楽CDを作成したり、音楽CDや市販のCD-ROMなどをコピーすることはできません。

データを記録する前にお読みください

CD-RW／CD-Rへのデータの記録を確実に行うため、以下の準備を行ってください。設定を行わない場合、データの書き損じや破損が起こったり、本機が正しく動作しないことがあります。

- データを書き込む前に、書き込むデータにコンピュータウイルスが潜んでいないか付属の「VirusScan」（コンピュータウイルスを除去するソフトウェア）を使って、確認することをおすすめします。「VirusScan」ソフトウェアについて詳しくは、「コンピュータウイルスについて」（216ページ）および「VirusScan」のヘルプをご覧ください。
- データを書き込む前に、「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外のソフトウェアはすべて終了してください。
- 付属の「VirusScan」（コンピュータウイルスを除去するソフトウェア）を常駐させる設定にした場合や、ディスクのアクセスを高速化するソフトウェアは終了してください。「VirusScan」ソフトウェアを終了するには、デスクトップ画面右下の  を右クリックして、表示されるメニューから［終了］をクリックします。

次のページにつづく

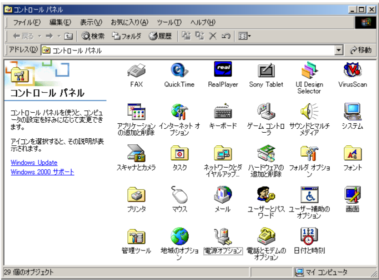
コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがデスクトップ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。

- 付属の「VirusScan」ソフトウェアのスケジューラ機能を使用しているときは、デスクトップ画面右下の をクリックして、表示されるメニューから［終了］をクリックしてください。
- スクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに、画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）を設定している場合は、以下の手順に従って設定を解除してください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



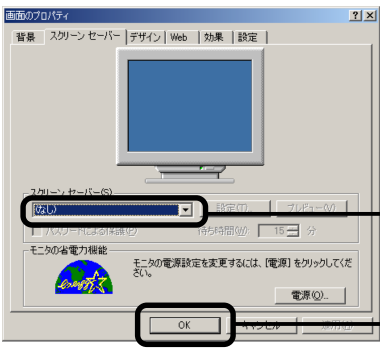
2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［スクリーンセーバー］タブをクリックする。



4 ［スクリーンセーバー］の をクリックして、表示されるリストから「なし」を選び、 OK をクリックする。



❶ここを選ぶ

❷ここをクリックする

- 電源の管理の設定を以下の手順に従って変更してください。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

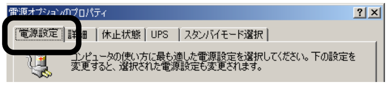
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （電源オプション）をダブルクリックする。

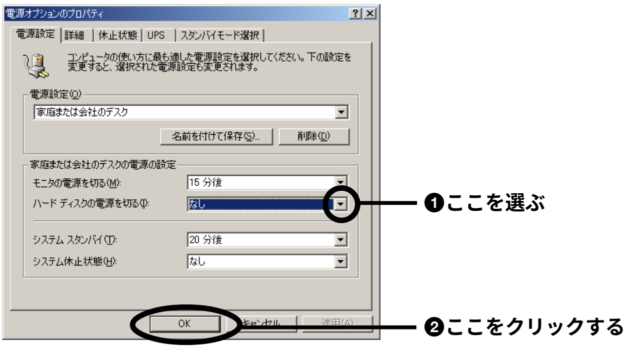
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［電源設定］タブをクリックする。

「電源設定」画面が表示されます。



4 「ハードディスクの電源を切る」の ▼ をクリックして表示されるリストから「なし」を選び ［OK］ をクリックする。



ご注意

- データの書き込み中は以下の点にご注意ください。
  - 本機に衝撃や振動を与えない。
  - 本機につないだ i.LINKケーブルおよび他の i.LINK対応機器につないだ i.LINKケーブルを抜き差ししたり、本機や i.LINK 対応機器の電源を入／切しない。
  - 本機につないだUSBケーブルおよび他のUSB対応機器につないだUSBケーブルを抜き差ししたり、本機やUSB対応機器の電源を入／切しない。
  - 本機をスタンバイモードにしない。
  - キーボードのプログラマブルパワーキーを押さない。
- いかなる原因であっても、書き損じたCD-RW／CD-Rは一切補償致しません。あらかじめご了承ください。
- CD-RW／CD-Rにデータを実際に書き込む前には、テスト書き込みを行うことをおすすめします。

次のページにつづく

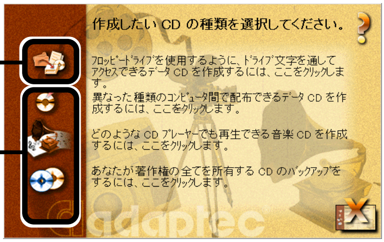
- 付属の「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェア以外をご使用になる場合は、各ソフトウェアの製造・販売者による動作保証ならびにサポートとなりますので、あらかじめご了承ください。
- ご使用のシステムの利用状況によっては、書き込みが不安定になる可能性があります。この場合は書き込み速度を遅くしてください。

データを記録する

未使用のCD-RW／CD-Rを、本機のCD-RWドライブに入れると、「作成したいCDの種類を選択してください。」画面が表示されます。この画面のメニューで作成したいCDの種類を選択すると、「DirectCD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアが起動し、画面の指示に従って操作することでデータの記録ができます。

1 DirectCD

2 Easy CD Creator



1「DirectCD」ソフトウェアとは

大容量のフロッピーディスクを操作する感覚で、CD-RW／CD-Rにデータを記録することができます。あらかじめフォーマットという作業が必要ですが、一度フォーマットを行ったCD-RW／CD-Rには、大容量のフロッピーディスクを使う感覚でデータを記録することができます。
「DirectCD」ソフトウェアについて詳しくは、「DirectCD」のヘルプをご覧ください。

2「Easy CD Creator」ソフトウェアとは

データCDを作成したり、音楽データを集めて自分だけの音楽CDを作ったり、CDのバックアップを作成することができます。
Windowsのエクスプローラと同じような使いかたで、CD-RW／CD-Rにデータを記録できます。なお、「Easy CD Creator」ソフトウェアを使う場合はフォーマットは必要ありません。
「Easy CD Creator」ソフトウェアについて詳しくは、「Easy CD Creator」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

フロッピーディスクとは

薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアで、自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます（78ページ）。

フォーマットとは

「フォーマット」とは、お使いのコンピュータでCD-RW／CD-Rにデータを読み書きできるようにCD-RW／CD-Rの記録方式を決めることです。

エクスプローラとは

コンピュータの内容（ファイルやフォルダ）をツリー図で表示する機能のことです。作成したファイルなどが本機のどこに保存されているか、一目で確認できます。

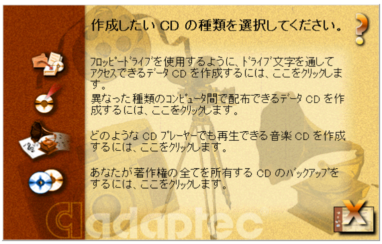
ご注意

- CD-RW／CD-Rを入れるときは、記録面には絶対に触れないようにしてください。記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。
- CD-RW／CD-Rは4倍速以上に対応しているものをお使いください。お買い求めの際、 パッケージをご覧になり、4倍速以上に対応しているかご確認ください。
- 4倍速以上に対応していないCD-RW／CD-Rをお使いの場合は、書き込みの速度が遅くなります。これはCD-RWドライブやディスクの不良ではありません。
- CD-RW／CD-Rのレーベル面に文字を書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと記録面を傷つけデータの書き込みができなくなることがあります。

1 「DirectCD」ソフトウェアを使ってデータを記録する

1 未使用のCD-RWまたはCD-RをCD-RWドライブに入れる。

「作成したいCDの種類を選択してください。」画面が表示されます。
ディスクの入れかたについては、54ページをご覧ください。



ちょっと一言

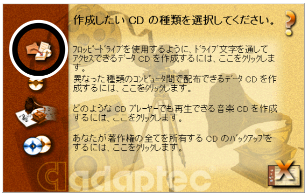
下記の操作を行っても「DirectCD」ソフトウェアを起動することができます。

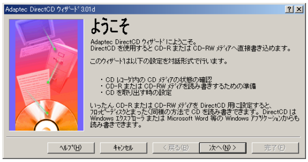
- デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。
- デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［Adaptec DirectCD］、［DirectCDウィザード］の順にクリックする。

次のページにつづく

2 (一番上のアイコン)をクリックする。

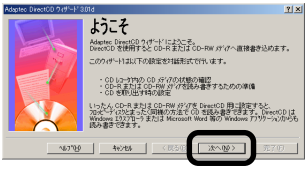
「DirectCD」ソフトウェアが起動し、「ようこそ」画面が表示されます。

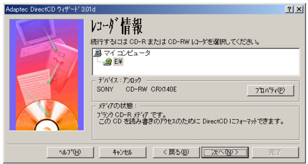




3 次へ(N) > をクリックする。

「レコーダ情報」画面が表示されます。

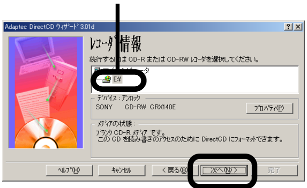


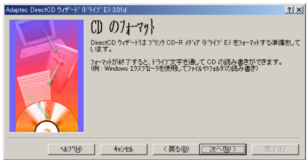


4 CD-RWドライブ (E:)をクリックして選択し、次へ(N) > をクリックする。

「CDのフォーマット」画面が表示されます。

❶ここを選ぶ



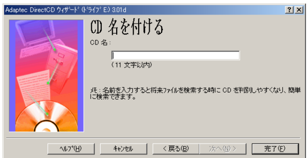


❷ここをクリックする

5 次へ(N) > をクリックする。

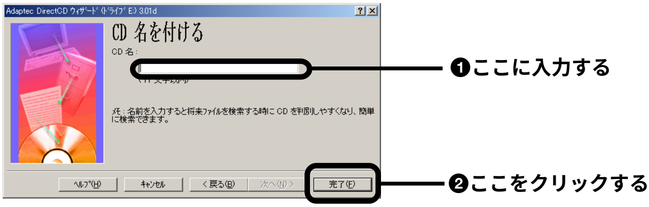
「CD名を付ける」画面が表示されます。





6 **CD-RWまたはCD-Rに付ける名前を入力し、 完了(F) をクリックする。**

フォーマットが開始されます。



「DirectCD」ソフトウェアでフォーマットするのにかかる時間およびフォーマット後の使用可能容量は、以下の通りです。（74分のCD-RW／CD-Rを使用時）

	フォーマットにかかる時間	**フォーマット後の使用可能容量**
CD-RW	約30分	約530Mバイト
CD-R	約5秒	約620Mバイト

フォーマットとは

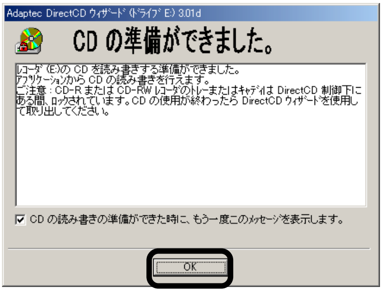
「フォーマット」とは、お使いのコンピュータでCD-RW／CD-Rにデータを読み書きできるようにCD-RW／CD-Rの記録方式を決めることです。

ご注意

- 「DirectCD」ソフトウェアを使うときは、未使用のCD-RW／CD-Rは、必ずフォーマットを行ってください。フォーマットを行わないと本機はそのCD-RW／CD-Rを認識することができないため、CD-RW／CD-Rを使うことができません。
- 「DirectCD」ソフトウェアを使ってフォーマットしたCD-RW／CD-Rは、「Easy CD Creator」ソフトウェアで追加書き込みはできません。
- 「DirectCD」ソフトウェアで音楽CDを作成したり、音楽CDや市販のCD-ROMなどをコピーすることはできません。

次のページにつづく

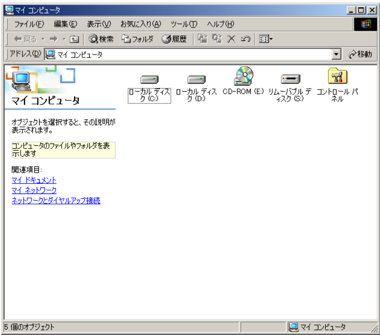
7 フォーマットが終了すると、「CDの準備ができました。」画面が表示されるので OK をクリックする。



これでCD-RWまたはCD-Rへデータが書き込めるようになりました。手順8からの操作は「マイドキュメント」フォルダなどにデータが保存されている場合の手順です。書き込みたいデータの保存されている場所を確認して操作を行ってください。

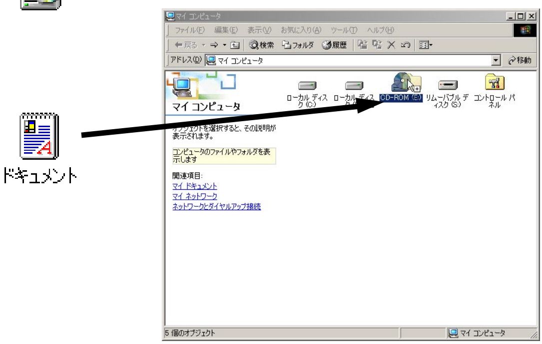
8 デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



9 記録するデータのアイコンをクリックし、に重なるようにドラッグする。

が反転表示されます。

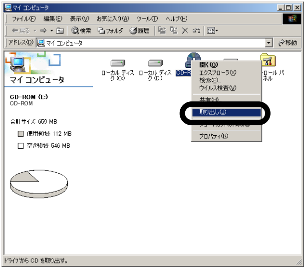


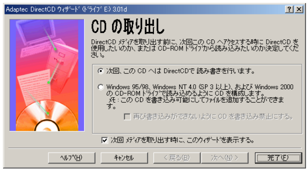
10 マウスのボタンを離す。

データがCD-RWまたはCD-Rにコピーされます。

11 CD-RWまたはCD-Rを取り出すには、  を右クリックし、表示されるメニューから［取り出し］をクリックする。

「CDの取り出し」画面が表示されます。





12「DirectCD」ソフトウェア専用のCDとするか、他のコンピュータのCD-ROMドライブで再生できる形式にするかを、  をクリックして選択し、 完了(F) をクリックする。



次回、本機で「Direct CD」ソフトウェアを使ってデータの書き込みをするときは、ここをクリックする。

他のコンピュータのCD-ROMドライブで再生するときはここをクリックする。

ディスクへ再び書き込みをしないときはここをチェックする。

上記を選んだあと、ここをクリックする

下記のメッセージが表示されたら、ディスクトレイが自動的に引き出されます。ディスクを取り出してください。



13 OK をクリックする。

次のページにつづく

2 「Easy CD Creator」ソフトウェアを使ってデータを記録する

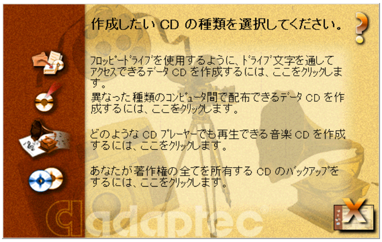
データCDを作成するには

ちょっと一言

「Easy CD Creator」ソフトウェアを使う場合は、フォーマットは必要ありません。

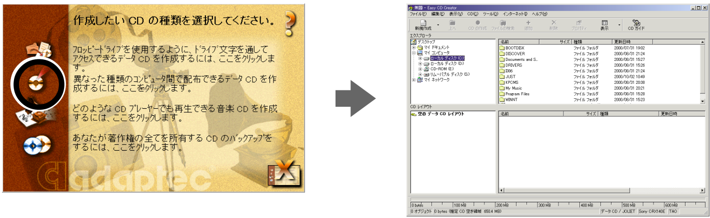
1 未使用のCD-RWまたはCD-RをCD-RWドライブに入れる。

「作成したいCDの種類を選択してください。」画面が表示されます。
ディスクの入れかたについては、54ページをご覧ください。



2  **（上から2番目のアイコン）をクリックする。**

「Easy CD Creator」ソフトウェアが起動し、操作画面が表示されます。



ちょっと一言

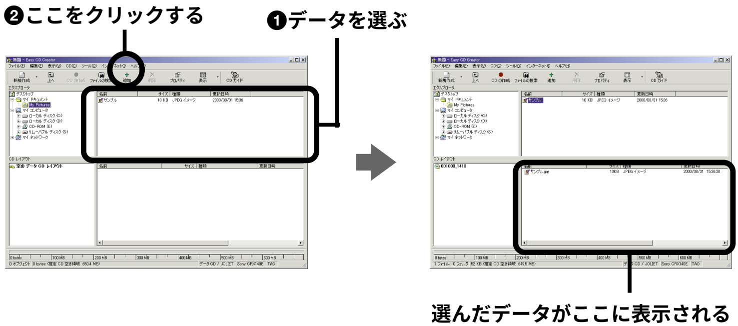
デスクトップ画面左下の  をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［Adaptec Easy CD Creator 4］から［Features］、［Easy CD Creator］の順にクリックしても「Easy CD Creator」ソフトウェアを起動することができます。

3 画面左上の  の右の をクリックして表示されるメニューから［データCD］をクリックする。



4 **画面上部の「エクスプローラ」から記録したいデータをクリックして選び、 をクリックする。**

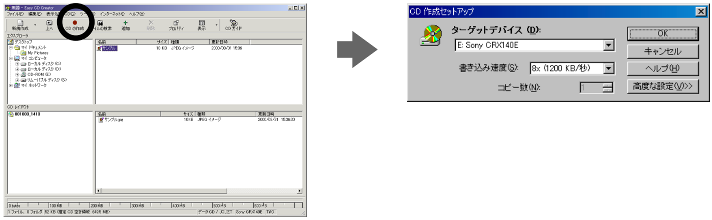
画面下部の「CDレイアウト」にファイルやフォルダが登録されて表示されます。



記録したいすべてのデータに対して、この操作を繰り返します。

5  **をクリックする。**

「CD作成セットアップ」画面が表示されます。



6 **「ターゲットデバイス」で本機のCD-RWドライブが選択されていることを確認し、 をクリックする。**

「システムテスト」画面が表示されたあと、データの書き込みが開始されます。

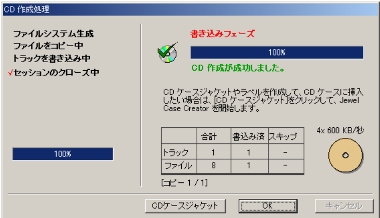


ちょっと一言

頻繁にデータの書き込みに失敗するときは、「書き込み速度」の をクリックして表示されるリストから遅い速度を選び、書き込みをしてください。

次のページにつづく

完全に書き込みが完了すると、「CD作成処理」画面に「CD作成が成功しました」というメッセージが表示されます。



7  **をクリックする。**

8 **OPEN／CLOSEボタンを押してディスクを取り出す。**

ちょっと一言

ディスクを取り出したあとに「CDレイアウトの変更を無題に保存します」画面で［はい］をクリックして、ディスクに書きこんだデータをハードディスクドライブに保存しておくことができます。

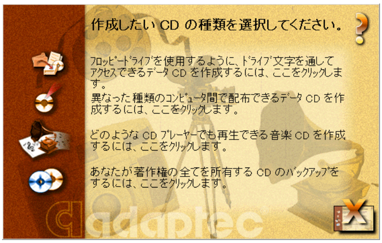
音楽CDを作成するには

ご注意

- CD-Rを使用して作成した音楽CDは、ご使用のプレーヤーによっては再生できない場合があります。
- CD-RWを使用して作成した音楽CDは音楽CDプレーヤーでは再生できません。CD-RWに対応しているドライブで再生してください。

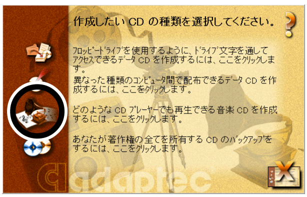
1 **未使用のCD-RWまたはCD-RをCD-RWドライブに入れる。**

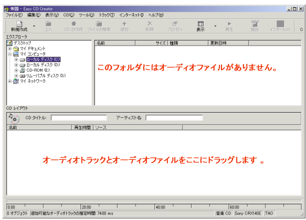
「作成したいCDの種類を選択してください。」画面が表示されます。
ディスクの入れかたについては、54ページをご覧ください。



2  **（上から3番目のアイコン）をクリックする。**

「Easy CD Creator」ソフトウェアが起動し、操作画面が表示されます。





ちょっと一言

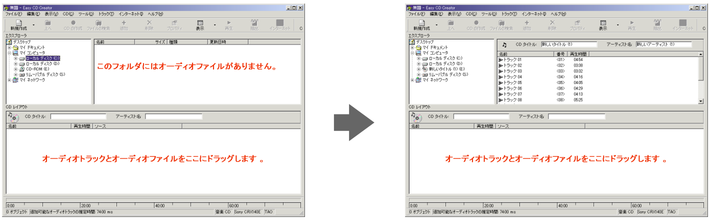
デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［Adaptec Easy CD Creator 4］から［Features］、［Easy CD Creator］の順にクリックしても「Easy CD Creator」ソフトウェアを起動することができます。

3 画面左上の 新規作成 の右の ▼ をクリックして、表示されるメニューから［音楽CD］をクリックする。

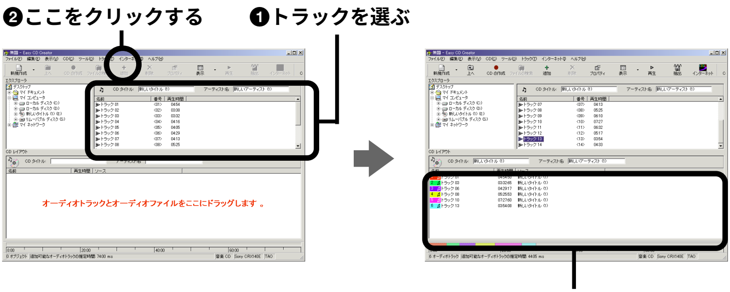


4 OPEN／CLOSEボタンを押していったんCD-RWまたはCD-Rを取り出し、音楽CDをCD-RWドライブに入れる。

画面上部の「エクスプローラ」に音楽CDのトラック情報が表示されます。



5 画面上部の「エクスプローラ」から記録したいトラックをクリックして選び、 追加 をクリックする。



記録したいすべてのトラックに対して、この操作を繰り返します。

ちょっと一言

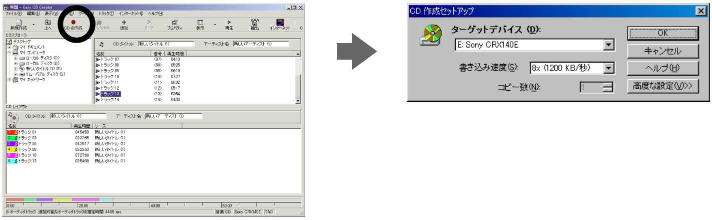
画面下部のトラックをドラッグアンドドロップすることにより、曲の順番を変更することができます。

次のページにつづく

6 

をクリックする。

「CD作成セットアップ」画面が表示されます。



7 **「ターゲットデバイス」で本機のCD-RWドライブが選択されていることを確認し、** 

をクリックする。

「CD作成処理」画面が表示され、音楽CDのトラックがチェックされます。

「メディアのチェック」画面に「十分な空き領域を持ったCDをレコーダに挿入してください。」というメッセージが表示され、ディスクトレイが自動的に引き出されます。



ここが「E:Sony CRX140E」になっているか確認する

8 **音楽CDを取り出し、手順4でいったん取り出したCD-RWまたはCD-RをCD-RWドライブに入れる。**

トラックの書き込みが開始されます。



完全に書き込みが完了すると、「CD作成が成功しました」というメッセージが表示されます。

9 

をクリックする。

10 OPEN／CLOSEボタンを押してディスクを取り出す。

ちょっと一言

ディスクを取り出したあとに「CDレイアウトの変更を無題に保存します」画面で［はい］をクリックして、ディスクに書きこんだデータをハードディスクドライブに保存しておくことができます。

CDのバックアップを作成するには

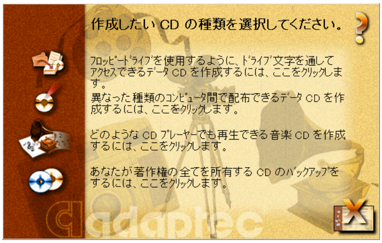
「Easy CD Creator」ソフトウェアの「CD Copier」ソフトウェアを使って1枚のCDをまるごとコピーすることができます。

ご注意

CDのコピーは、あなたが著作権を所有するデータまたは、著作権所有者の複製許可を受けた著作物をコピーするときのみ行ってください。

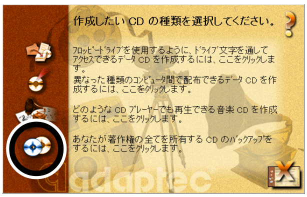
1 未使用のCD-RWまたはCD-RをCD-RWドライブに入れる。

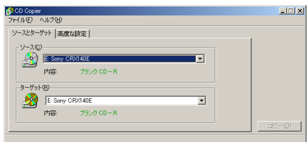
「作成したいCDの種類を選択してください。」画面が表示されます。
ディスクの入れかたについては、54ページをご覧ください。



2 （一番下のアイコン）をクリックする。

「CD Copier」ソフトウェアが起動し、操作画面が表示されます。
「Adaptec CD Copierにようこそ」という画面が表示された場合は、OK をクリックしてください。





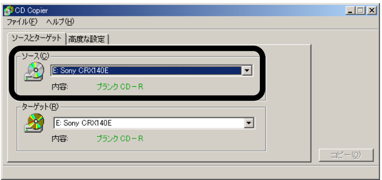
次のページにつづく

ちょっと一言

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［Adaptec Easy CD Creator 4］で［Features］、［CD Copier］の順にクリックしても「CD Copier」ソフトウェアを起動することができます。

3 **OPEN／CLOSEボタンを押していったんCD-RWまたはCD-Rを取り出し、コピー元のディスク（バックアップを作成したいディスク）をCD-RWドライブに入れる。**

「ソースとターゲット」の「ソース」にコピー元のディスクが表示されます。

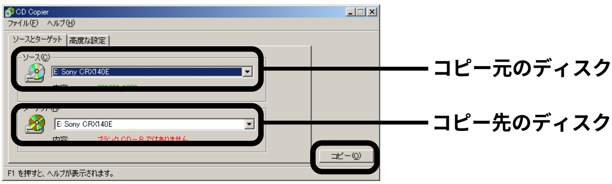


ちょっと一言

システムテストが行われることがありますが、異常ではありません。

4 **「ターゲット」にコピー先のディスク（CD-RWドライブに入っているCD-RWまたはCD-R）が指定されていることを確認し、 コピー(O) をクリックする。**

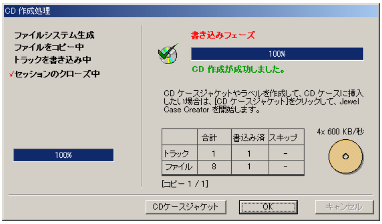
コピー元のディスクの内容が本機のハードディスクドライブに記録されます。



「CD作成処理」画面が表示され、データがチェックされます。
「メディアのチェック」画面にCDを挿入する指示のメッセージが表示され、ディスクトレイが自動的に引き出されます。

5 **コピー元のディスクを取り出し、コピー先のディスク（手順3でいったん取り出したCD-RWまたはCD-R）をCD-RWドライブに入れる。**

自動的に書き込みが始まります。



完全に書き込みが完了すると、「CD作成が成功しました」と表示されます。

6 

をクリックする。

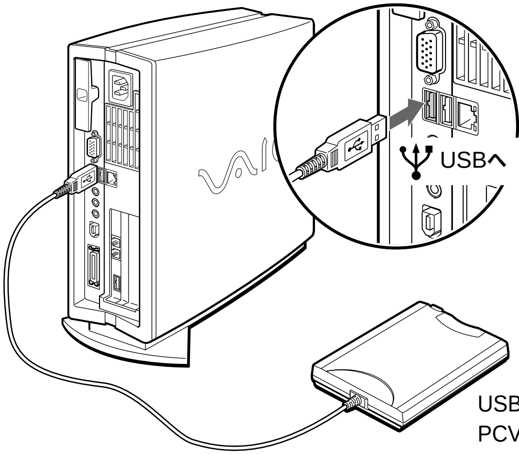
7 **OPEN／CLOSEボタンを押してディスクを取り出す。**

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽く、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。自分で作った文書ファイルなどのデータを保存することができます。
ここでは、別売りのUSBフロッピーディスクドライブPCVA-UFD1の取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

USBフロッピーディスクドライブPCVA-UFD1（別売り）を本機または液晶ディスプレイに接続します。



接続すると、USBフロッピーディスクドライブが自動的に認識され （マイコンピュータ）の中に （3.5インチFD（A:））が表示されます。

ちょっと一言

USBフロッピーディスクドライブは、本機または液晶ディスプレイのどのUSBコネクタにも接続できます。

ご注意

フロッピーディスクドライブは、本機または液晶ディスプレイのUSBコネクタに直接つないでください。USB機器のハブ（中継点）からはつながないでください。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

ご注意

フロッピーディスクドライブを取りはずすときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

1 **デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 **リストから取りはずしたいUSB機器（フロッピーディスクドライブ）をクリックし、[停止(S)] をクリックする。**

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 **取りはずすUSB機器（フロッピーディスクドライブ）を確認し、[OK] をクリックする。**

「…は安全に取り外すことができます。」画面が表示されます。

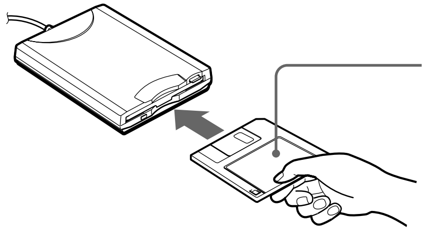
4 **[OK] をクリックする。**

5 **「ハードウェアの取り外し」画面の [閉じる] をクリックする。**

6 **本機のUSBコネクタからUSBフロッピーディスクドライブを抜く。**

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをUSBフロッピーディスクドライブに入れます。



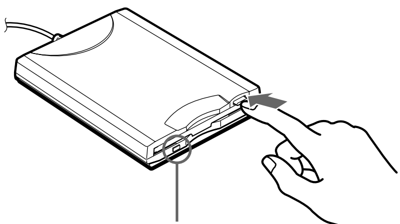
本機では、市販されている「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。
本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、「使用できるフロッピーディスク」（85ページ）をご覧ください。
「DOS／V 1.44MBフォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクをご購入いただくと、初期化する手間が省けます。
初期化とは何かについては、「フロッピーディスクを初期化する」（83ページ）をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯していないことを確認してから、フロッピーディスクイジェクトボタンを押します。

ご注意

フロッピーディスクドライブアクセスランプが点灯しているときにフロッピーディスクイジェクトボタンを押すと、ディスクおよびデータの破損の原因となります。

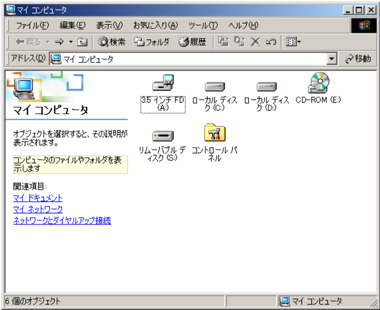


フロッピーディスクのデータを使う

ここではフロッピーディスクから本機に読み込まれたデータを使う方法を説明します。

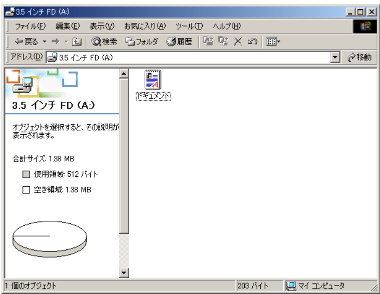
1 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



2 （3.5インチFD（A:））をダブルクリックする。

フロッピーディスクの内容が表示されます。



3 目的に応じて操作する。

フロッピーディスクの中のデータを本機のハードディスクドライブにコピーしたり、移動したりすることができます。

詳しくは、Windows 2000のヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

フロッピーディスクにデータをコピーする

作成した文書などのデータをフロッピーディスクにコピーするには、以下の手順に従ってください。

1 **USBフロッピーディスクドライブを本機に接続する。**

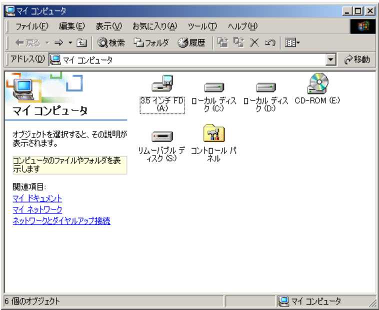
取り付けかたについては78ページをご覧ください。

2 **フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れる。**

入れかたについては80ページをご覧ください。

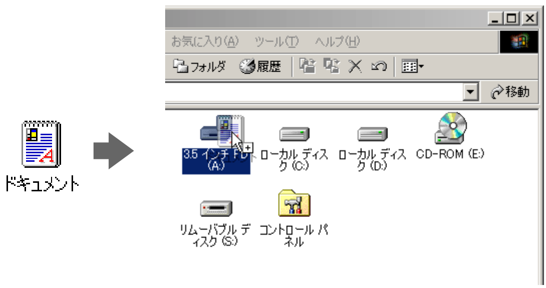
3 **デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。**

「マイコンピュータ」画面が表示されます。



4 **コピーするデータのアイコンをクリックし、（3.5インチFD（A:)）に重なるようにドラッグする。**

（3.5インチFD（A:)）が反転表示されます。



5 **マウスのボタンを離す。**

データがフロッピーディスクにコピーされます。

フロッピーディスクを初期化する

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されたフロッピーディスクは、そのまま別売りのフロッピーディスクドライブに入れてすぐにお使いになれますが、以下の場合は「初期化」（または「フォーマット」ともいう）という作業が必要です。

- 「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと記載されていないフロッピーディスクを初めて使うとき
- フロッピーディスクの中のデータがいっぱいになり、そのデータを一度に消して初期状態に戻したいとき

「初期化」とは、お使いのコンピュータでフロッピーディスクにデータを読み書きできるようにフロッピーディスクの記録方式を決めることです。
初期化するとフロッピーディスクは、区画に分けられて番地が付けられ、どの区画にどんな情報が書き込まれているかを記録し、管理する部分が作られます。
本機でフロッピーディスクを初期化するには、以下の手順に従ってください。

ご注意

データが書き込まれているフロッピーディスクを初期化すると、そのデータはすべて消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

1 USBフロッピーディスクドライブを本機に接続する。

取り付けかたについては78ページをご覧ください。

2 初期化したいフロッピーディスクをUSBフロッピーディスクドライブに入れる。

入れかたについては80ページをご覧ください。

3 デスクトップ画面左上の（マイコンピュータ）をダブルクリックする。

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

4 （3.5インチFD（A:））を右クリックし、表示されるメニューから［フォーマット］をクリックする。

フォーマットの画面が表示されます。

次のページにつづく

5 [開始(S)] **をクリックする。**

フロッピーディスクが初期化されます。

6 [閉じる] **をクリックする。**

フォーマットの画面が閉じます。

「DOS／V 1.44MB フォーマット済」などと書かれた、すでに初期化されたフロッピーディスクも市販されているので、これをお買い求めになれば、すぐに使うことができます。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

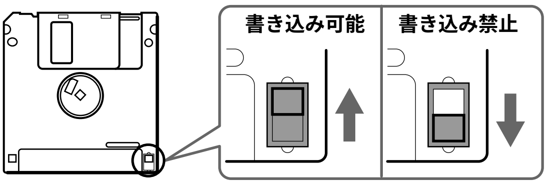
データの書き込みが可能な状態です。次のような場合には書き込み可能な状態にしておきます。

- 初期化するとき
- 別のディスクの内容をコピーするとき
- ソフトウェアのデータディスクとして使うとき

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。内容を読み出すことはあっても、書き込みは行わないときは、書き込み禁止にしておきます。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

本機では、パッケージに「DOS／V」と記載された3.5インチフロッピーディスクのみお使いいただけます。また、3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のコンピュータとデータのやりとりをする場合は、次のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のソフトウェアはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

“ メモリースティック ”を使う

“ メモリースティック ”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代の記録メディアです。“ メモリースティック ”対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器とデータをやりとりするのに便利なだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータを保存するときもお使いいただけます。

“ メモリースティック ”は、以下のようなものがあり、本機ではどのタイプも使用できます。

- 4Mバイト（MSA-4A）
- 8Mバイト（MSA-8A）
- 16Mバイト（MSA-16A）
- 32Mバイト（MSA-32A）
- 64Mバイト（MSA-64A）など

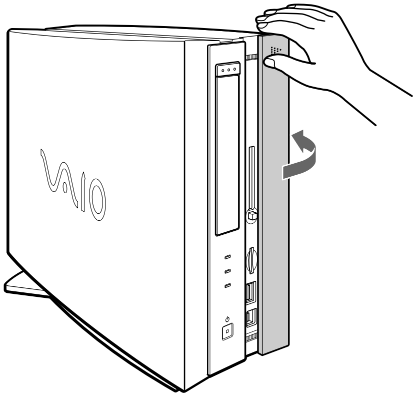
“ マジックゲート メモリースティック ”についてのご注意

本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットは、“ マジックゲート メモリースティック ”に記録した音楽ファイルなど、著作権保護されたファイルの取り扱いには対応していません。エクスプローラなどでそれらのファイルやディレクトリを操作した場合、ファイルが無効となり、使えなくなる場合があります。

著作権保護されているファイルの操作を行う場合は、メモリースティックウォークマンなどの“ マジックゲート メモリースティック ”に対応した機器と、「OpenMG Jukebox」などの著作権保護されたファイルに対応したソフトウェアをご使用ください。著作権保護されているファイルの操作を行う場合は、本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットは使用しないでください。

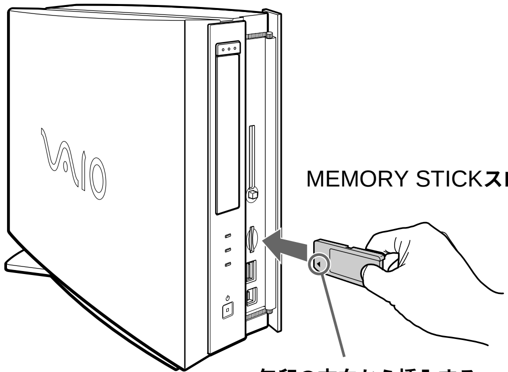
“ メモリースティック ”を入れる

1　本機前面パネルのふたを開ける。



2　“ メモリースティック ”をMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れる。

“ メモリースティック ”を入れたときに、MEMORY STICKスロットにしっかり固定されているか確認してください。



ご注意

“ メモリースティック ”の向きにご注意ください。無理に逆向きに入れようとするとスロットが破損する恐れがあります。

次のページにつづく

“ メモリースティック ”対応機器で記録した“ メモリースティック ”を入れると、「VisualFlow」ソフトウェアが起動し、“ メモリースティック ”内のデータが表示されます。

Windows 2000上で“ メモリースティック ”はリムーバブルディスク (S:)として表示されます。“ メモリースティック ”上のデータは他の記録メディア同様にエクスプローラなどを使って管理することができます。

“ メモリースティック ”対応機器から“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む方法については『“ メモリースティック ”を使う」(136ページ)をご覧ください。

リムーバブルディスクとは

「リムーバブルディスク」とは、データを読み書きできる、取りはずし可能な記録メディアのことです。

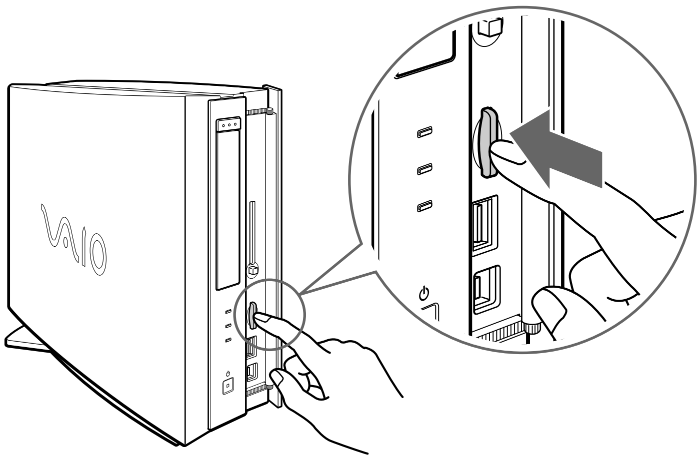
ちょっと一言

本機に付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアと組み合わせることにより、“ メモリースティック ”を挿入したときに、好みのソフトウェアを自動的に起動して、“ メモリースティック ”対応のデジタルビデオレコーダーなどで撮った静止画を閲覧することなどができます。詳しくは「VAIO Action Setup」のヘルプをご覧ください。

“ メモリースティック ”を取り出すには

“ メモリースティック ”へのデータの書き込みやデータの読み出しを行っていないことを確認してから“ メモリースティック ”を奥まで押し込みます。いったん指を離してから、“ メモリースティック ”を引き抜いてください。

“ メモリースティック ”のウィンドウが表示されているときに“ メモリースティック ”を取り出すと、ウィンドウは自動的に閉じます。



“ メモリースティック ”使用上のご注意

“ メモリースティック ”をお使いになるときは、以下の点にご注意ください。

- “ メモリースティック ”の端子部に手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、専用の収納ケースに入れてください。
- 大切なデータはバックアップをとっておくことをお薦めします。
- データの読み込み中や書き込み中に“ メモリースティック ”を取り出さないでください。
- 下記の場合、記録したデータが消えたり壊れたりすることがあります。
  - 読み込み中や書き込み中に“ メモリースティック ”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットから“ メモリースティック ”を取り出すときに、“ メモリースティック ”を押して指を離すと、“ メモリースティック ”が勢いよく飛び出す場合があります。最後まで指を添えて取り出すようにしてください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、“ メモリースティック ”には書き込み禁止のタブがついています。このタブを左右に動かして、“ メモリースティック ”を書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

❑ 書き込み可能

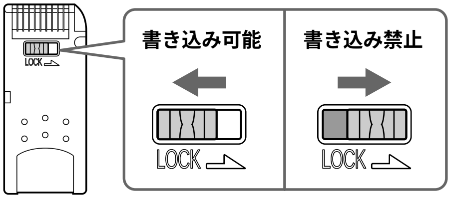
データの書き込みが可能な状態です。デジタルビデオカメラレコーダーなどで静止画を撮影するときなどには、書き込み可能な状態にしておきます。

次のページにつづく

❑ **書き込み禁止**

タブを右にスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。データを書き込んだり、削除したくない“メモリースティック”を本機のMEMORY STICK（メモリースティック）スロットに入れてデータを読み込むときなどには、書き込み禁止にしておきます。

“メモリースティック”裏面



フォーマットについて

市販の“メモリースティック”はすでにフォーマット（初期化）されており、すぐにお使いになれます。本機で“メモリースティック”を再フォーマットするときは、付属の「メモリースティックフォーマッタ」ソフトウェアをお使いください。
「メモリースティックフォーマッタ」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。

フォーマットとは

フォーマットとはお使いのコンピュータで“メモリースティック”にデータを読み書きできるように“メモリースティック”の記録方式を決めることです。

ご注意

すでにデータが書き込まれている“メモリースティック”をフォーマットすると、そのデータは消去されてしまいます。誤って大切なデータを消すことがないようにご注意ください。

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットを楽しむことができます。

インターネットに接続する

ここでは、インターネットに接続するための大まかな流れを記します。

電話回線につなぐ

本機を電話回線につなぎます。
詳しくは別冊の「はじめにお読みください」の「接続する」をご覧ください。

↓

インターネットサービスプロバイダと契約する

詳しくは、別冊の「はじめにお読みください」の「カスタマー登録する／インターネットに接続する」および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

↓

インターネットに接続する

詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

インターネットサービスプロバイダとは

「インターネットサービスプロバイダ」とは、インターネットにつなぐときに本機とインターネットとの間を仲介する役割を持つ会社（So-netなど）のことです。

ホームページを作る

本機に付属の「Smart Write」ソフトウェアで、インターネットのホームページに使われるHTML文書を、ワープロ感覚で手軽に作成できます。また、本機に付属の「Smart Capture」ソフトウェアと合わせて使うと、i.LINK対応機器から取り込んだ静止画を文書内に取り込むこともできます。

HTMLとは

「HTML」とはインターネットのホームページに使用される文書の形式のことです。

作成したHTML文書は付属の「Smart Publisher」ソフトウェアを使って自分のホームページに送信できます。

ちょっと一言

ホームページを公開するには、インターネットサービスプロバイダとの契約や各種の接続設定などが必要です。

以下の流れに沿ってホームページを作成します。

「Smart Write」ソフトウェアを起動して文書を作成する

「Smart Write」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Write」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

↓

静止画を載せるときは、i.LINK対応機器を本機に接続して、「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後、「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（150ページ）をご覧ください。また、「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

↓

「Smart Publisher」ソフトウェアを起動する

起動後、作成したHTML文書を自分のホームページに送信します。「Smart Publisher」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Publisher」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ペンで文字や絵をかいて楽しむ（PCV-LX80/BPKのみ）

ペンタブレットを使うと以下のことができます。

- ペンをマウスとして使う
- 「手書き文字認識」ソフトウェアを使って、ワープロソフトウェアや電子メールソフトウェアの画面に紙に文字を書く感覚で文字を入力する
- 「PictureToy」ソフトウェアを使って静止画に絵や文字をかきこむ

ペンタブレットで文字や絵をかくには、付属のペンと液晶ディスプレイを使います。
ここでは、ディスプレイやペンの準備のしかた、ペンを使って文字や絵をかく操作を簡単に紹介します。

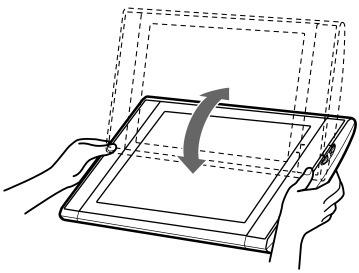
注意

本機の近くにAMラジオは置かないでください。本機とAMラジオの周波数がお互いに干渉して双方で障害が発生します。本機とAMラジオは充分に距離をとって置いてください。

ディスプレイ／ペンを準備する

ディスプレイを準備するには

両手を液晶ディスプレイの側部に添えて、ディスプレイの下端（前側）が接地する位置まで移動します。そのあと、画面の角度を調整します。



両手を液晶ディスプレイの側部に添えて、ディスプレイの下端（前側）が接近する位置まで移動してから、ディスプレイを見やすい角度に調整する。

次のページにつづく

ペンを準備するには

ペンは電池を必要としないので、そのままお使いになれます。お使いになる前に以下の点を確認してください。

- ペンを液晶ディスプレイの画面に近づけ、ペン先とデスクトップ画面に表示される (ポインタ) の位置が合っているか
- ペン先で液晶ディスプレイの画面上の (マイコンピュータ) などを軽く2回、素早くたたいて、ダブルクリック (97ページ) できるか

(ポインタ) の位置がずれていたり、ダブルクリックがうまくできないときは、次の手順で調整します。

ご注意

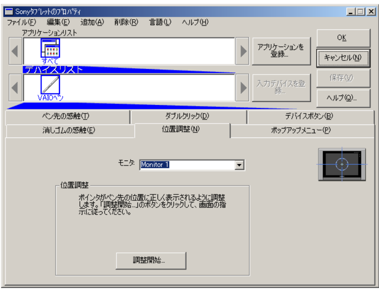
液晶ディスプレイの周辺部ではペンとポインタの位置がずれることがあります。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして [設定] にポインタを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (Sony Tablet) をダブルクリックする。

「Sonyタブレットのプロパティ」画面が表示されます。



ちょっと一言

- 「使い始めのコツ」画面が表示されたときは、 OK をクリックします。
- 位置調整を行うときは、あらかじめMS-IMEツールバーをデスクトップ画面右下隅から移動させるか、タスクバーに入れてください。

3 [位置調整] タブをクリックし、 調整開始... をクリックする。

調整用画面が表示されます。

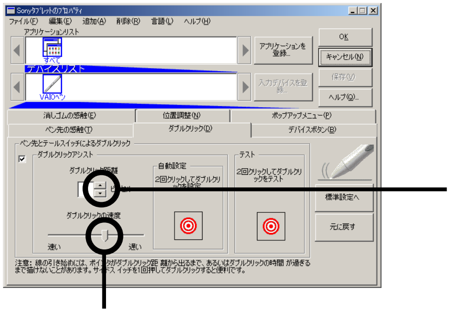
4 画面左上の の交点をペン先でクリックする。

5 画面右下の の交点をペン先でクリックする。

調整用画面が閉じます。

6 ［ダブルクリック］タブをクリックする。

7 または をクリックして、ダブルクリックの距離を設定し、スライダを左右に動かして、ダブルクリックの速度を設定する。



❶クリックしてダブルクリックの距離を設定する

❷ドラッグしてダブルクリックの速度を設定する

ちょっと一言

- ダブルクリックの距離とは、1回目のクリックと2回目のクリックの位置が、どのくらいずれてもよいかを示す距離です。1〜25（ピクセル）の範囲で設定できます。
- ダブルクリックの速度を遅くすると、ペンでダブルクリックするときに、ゆっくりとダブルクリックできるようになります。

8 付属のペンで、テストの をダブルクリックする。

テストした結果、ダブルクリックが正常に認識されたときは、、アイコンが に変わります。

9 OK をクリックする。

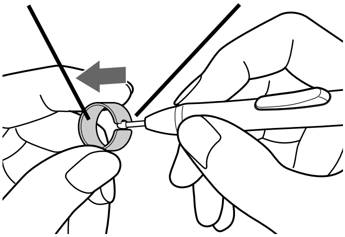
「Sonyタブレットのプロパティ」画面が閉じます。

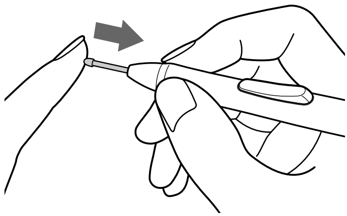
ペンタブレットの使いかたについて詳しくは、Sonyタブレットのヘルプをご覧ください。

次のページにつづく

ペン先をかえるには

長い間ペンを使っているとペン先がすりきれたり、汚れたりして、デスクトップ画面のポインタの反応が遅くなったり、文字や絵がかきづらくなることがあります。
このときは、ペン先に付いている芯を付属の芯抜きで抜き取り、付属の新しい芯に取りかえてください。





ペンをマウスとして使う

付属のペンはマウスと同じように使うことができます（33ページ）。

ペンの持ちかた

鉛筆やボールペンと同じようにお持ちください。サイドスイッチ（26ページ）は、親指か人差し指で押してください。

ご注意

- 誤ってサイドスイッチを押さないように持ってください。
- ペンを手から離すとき、ペンを液晶ディスプレイの画面の上に置くと、マウスなど他の入力機器と競合が起きて ↖（ポインタ）が操作できなくなることがあります。また、ペン先が押されたままの状態で放置すると、筆圧感触が損なわれることがあります。ペンを使用しないときは、ペンスタンドをお使いください。

マウスとして使うには

ポイントする

ペン先を液晶ディスプレイの画面に近づけると、ペン先の位置に ↖（ポインタ）が表示されます。

クリックする

ペン先で液晶ディスプレイの画面を軽くたたく（画面につけてすぐ離す）と、マウスのクリックと同じはたらきをします。

ダブルクリックする

ペン先で液晶ディスプレイの画面を軽く2回、素早くたたく（画面につけてすぐ離す）と、マウスのダブルクリックと同じはたらきをします。
また、ペン先を液晶ディスプレイの画面に近づけ、セカンドサイドスイッチ（26ページ）を押しても、マウスのダブルクリックと同じはたらきをします。

ドラッグする

ペン先を液晶ディスプレイの画面につけたまま希望の位置まで動かして離すと、マウスのドラッグと同じはたらきをします。

ドラッグアンドドロップする

ペン先をファイルのアイコンなどにつけたまま、フォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウに移動して離すことです。

右クリックする

ペン先を液晶ディスプレイの画面に近づけ、サイドスイッチ（26ページ）を押すと、マウスの右クリックと同じはたらきをします。

文字をかく

付属の「手書き文字認識」ソフトウェアを使って、ペンタブレットで書いた文字を、ワープロソフトウェアや電子メールソフトウェアなどに入力できます。
ここでは、「ワードパッド」ソフトウェアに、ペンタブレットを使って「世界中にひろがったソニーVAIO」という文字を入力してみましょう。

1 付属のペンで、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］を選び、［ワードパッド］をクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動します。

次のページにつづく

2 付属のペンで、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［手書き文字認識 1.0］を選び、［手書き文字認識 1.0］をクリックする。

「手書き文字認識」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「手書き文字認識」ソフトウェアの画面が表示されます。

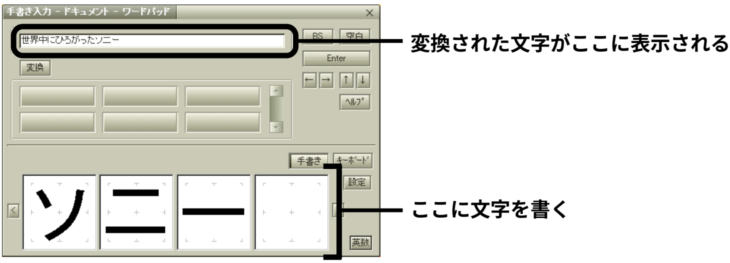


ちょっと一言

「手書き文字認識」ソフトウェアで書いた文字を、どこに入力するかあらかじめ指定する必要があります。入力先のソフトウェアでカーソルの位置をあらかじめ確認してから、「手書き文字認識」ソフトウェアで文字を書いてください。

3 付属のペンで、 手書き をクリックしてから、手書き文字入力領域に「世界中にひろがったソニー」と書く。

書いた文字がかい書に変換され、テキストボックスに表示されます。



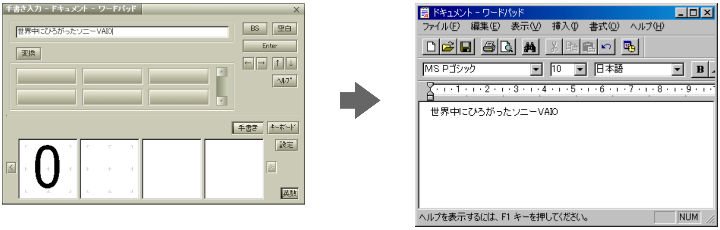
4 付属のペンで、 英数 をクリックしてから、手書き文字入力領域に「VAIO」と書く。

ちょっと一言

- 書いた文字が正しく認識されなかったときは、その文字を書き直してみてください。再度、認識を始めます。
- 手書き文字入力領域の左右にある < や > をクリックすると、手書き文字入力領域に表示される文字を切り替えられます。
- 数字の「0」とアルファベットの「O」は形が似ているため、通常では数字の「0」と認識されてしまいます。 英数 をクリックして、ボタンが押されている状態にしておくとアルファベットの「O」として認識されます。

5 付属のペンで、 Enter をクリックする。

テキストボックスの文字が、「ワードパッド」ソフトウェアの画面に入力されます。



「手書き文字認識」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「手書き文字認識」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

絵をかく

付属の「PictureToy」ソフトウェアを使って、ペンタブレットでかいた絵や文字を、「DVgate Still」や「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ静止画や「Navin' You」ソフトウェアの地図などに追加できます。また、加工したデータは、HTML文書で見ることができるJPEG形式のデータとして保存できるので、電子メールに添付して送ることもできます。

ここでは、「Navin' You」ソフトウェアの地図に絵や文字をかいてみましょう。

JPEG形式とは

カラーの静止画を圧縮する形式のことです。インターネット上で扱う静止画圧縮方式の代表的なものです。

1 付属のペンで、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Navin' You 4.6］を選び、［Navin' You 4.6］をクリックする。

「Navin' You」ソフトウェアが起動します。

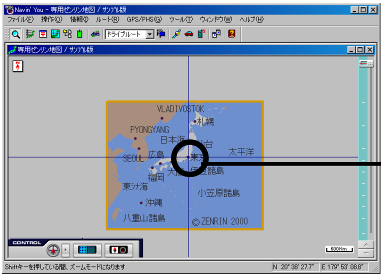
ちょっと一言

「Welcome to Navin' You Ver.4.6」画面が表示されたときは、 閉じる をクリックします。

次のページにつづく

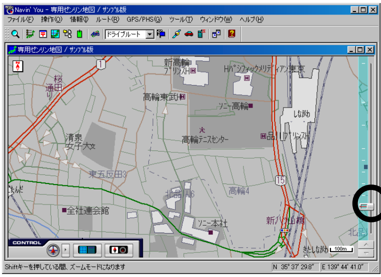
2 付属のペンで、拡大地図を表示したい場所をダブルクリックする。

ダブルクリックした場所が地図の中心になります。



ダブルクリックする

3 付属のペンで、拡大用のスライダをドラッグする。



ドラッグして拡大する

ちょっと一言

地図をドラッグすると、表示されている地域を動かすことができます。

4 地図のウィンドウの大きさを変え、加工したい部分をデスクトップ画面に表示する。

（ポインタ）をウィンドウの境界に合わせ、ドラッグしてウィンドウの大きさを変えます。

5 付属のペンで、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［PictureToy 1.0］を選び、［PictureToy 1.0］をクリックする。

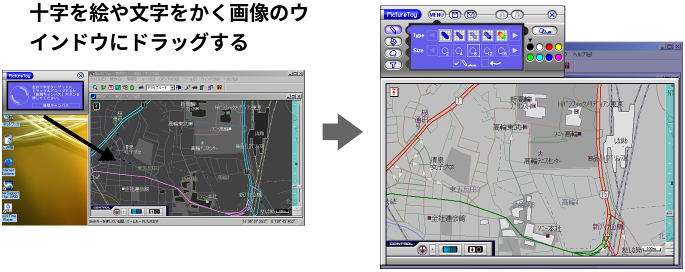
「PictureToy」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「PictureToy」ソフトウェアの画面が表示されます。



次のページにつづく

6 付属のペンで「PictureToy」ソフトウェアの画面に表示されている十字を、開いた地図の画面にドラッグアンドドロップする。

地図のウインドウに、「PictureToy」ソフトウェアの画面が表示されます。



7 付属のペンで  をクリックする。

ペンで、画面に文字や絵がかけるようになります。

8 付属のペンで （ノーマルペン）をクリックする。

ペンのタイプが「ノーマルペン」になります。

9 付属のペンで （太さ4）をクリックする。

ペンのサイズが「太さ4」になります。

10 付属のペンで  の下の （赤）をクリックする。

ペンの色が「赤」になります。

ちょっと一言

ペンのタイプ、ペンのサイズ、ペンの色はお好みに合わせて選んでください。

11 付属のペンで、地図に絵や文字をかく。



ちょっと一言

テールスイッチ（26ページ）を使うと、消しゴム付きの鉛筆を使う感覚で絵や文字を消せます（102ページ）。

次のページにつづく

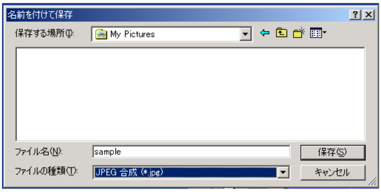
12 付属のペンで、MENU をクリックする。

「PictureToy」ソフトウェアの画面がメニューの表示に変わります。



13 付属のペンで、Save をクリックする。

「名前を付けて保存」画面が表示されます。



14 キーボードでファイル名を入力し、ファイルの種類を選び、保存(S) を付属のペンでクリックする。

指定した場所に、ファイルが保存されます。

お絵描きしたものは、「PictureToy」ソフトウェアから電子メールに添付して送ることができます。
「PictureToy」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

間違った絵や文字を消すときは

鉛筆についている消しゴムを使うように、テールスイッチ（26ページ）の筆圧を使って絵や文字を消すことができます。ただし、ソフトウェアがテールスイッチの消しゴム機能に対応している必要があります。
消しゴム機能に対応していない、ワープロソフトウェアや表計算ソフトウェアなどでは、テールスイッチで文字やセルをドラッグして選択し、液晶ディスプレイの画面からテールスイッチを離すと、選択した文字を消すことができます。
ペンの筆圧について詳しくは、Sonyタブレットのヘルプをご覧ください。

声でソフトウェアを操作する（PCV-LX80/BPKのみ）

付属の「Smart Commander」は声でソフトウェアを起動したり、「Smart Commander」対応のソフトウェアにコマンド（命令）を送ったりすることができる日本語音声認識ソフトウェアです。
付属のヘッドセットマイクを装着し、マイクに向かって話しをするだけで以下のようなことができます。

- キーボードを使わずに他のソフトウェアを起動する。
- 付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込むときにコメントを入れたり、コメント入りの静止画を電子メールに添付して送信する。
- 付属の「Tiny AIBO」ソフトウェアの画面上のペット「AIBO」に声をかけてパフォーマンスをさせて遊ぶ。

「Smart Commander」の使いかたについて詳しくは、別冊の「Smart Commander」音声認識の手引きをご覧ください。
また、付属の「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使うと以下のようなことができます。

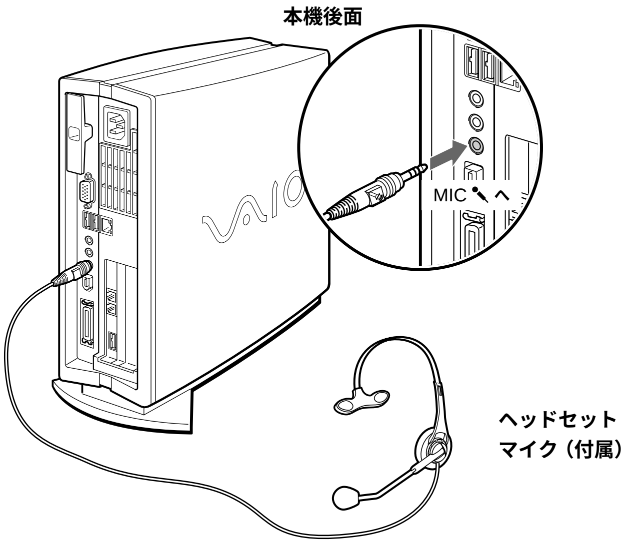
- 付属の「Microsoft Word」ソフトウェアなどのワープロソフトウェアや付属の「Outlook Express」ソフトウェアなどの電子メールソフトウェアをお使いの際に、キーボードを使わずに声で文章を入力する。
- 付属の「Smart Write」ソフトウェアを使って、ホームページを作るときに文章を入力する。
- ある特定の言葉を言うことで、ファイルを保存したり、ソフトウェアを終了するなど、お使いのソフトウェアを声で操作する。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアについて詳しくは、「「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを準備する」（107ページ）およびヘルプをご覧ください。

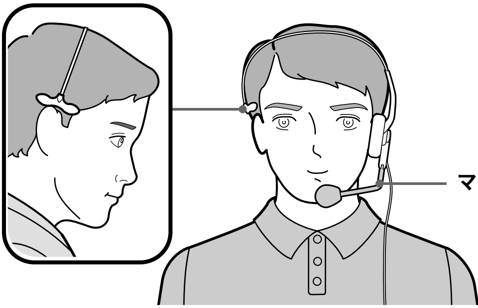
ここでは付属のヘッドセットマイクの接続や装着のしかた、および「DragonSpeech Partner」の基本的な使いかたについて説明します。

ヘッドセットマイクを準備する

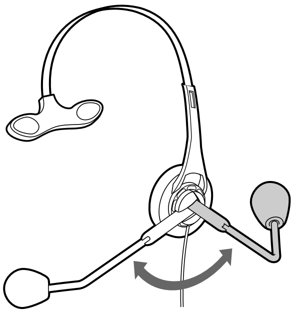
1 ヘッドセットマイクのケーブルを本機後面のMICコネクタに接続する。



2 ヘッドセットマイクを頭に装着する。



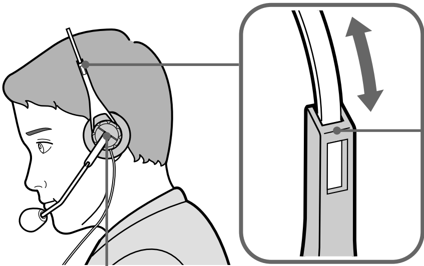
マイクは顔の右側、左側どちらでも装着できます。
顔の右側にマイクを装着する場合は、カチッと止まる位置までマイクを下に向かって回して、装着します。



ご注意

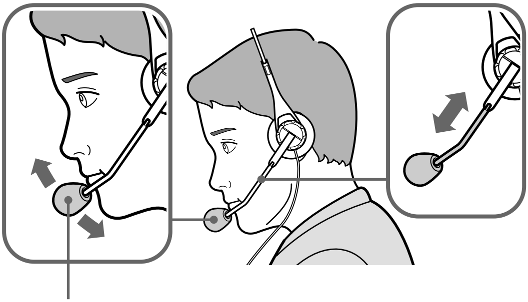
マイクを上に向かって回さないでください。マイクが破損することがあります。

3 頭のサイズに合わせてヘッドセットマイクの長さを調節する。

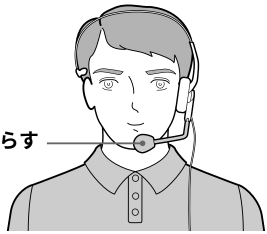


次のページにつづく

4 口の近くになるように、マイクの位置を動かして調節する。



息が直接かからないように、マイクの位置を下にずらします。



ご注意

マイクを上に向かって回さないでください。マイクが破損することがあります。

- ヘッドセットマイクを正しく装着し、周囲の雑音を少なくしてからご使用ください。音声が認識されにくくなることがあります。
- マイクを本機に近づけすぎないでください。ハウリングが起こることがあります。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを準備する

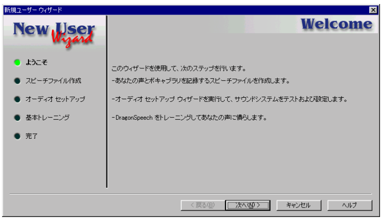
声で文章を入力したり、声でソフトウェアを操作するには、付属の「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使います。
実際に声で文章を入力したり、声でソフトウェアを操作する前に、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアにご自分の発音の特徴を登録して、音声が正しく認識されるように設定します。

学習を一時的に中断するには

DragonSpeechの学習プログラムを完了するには、15分ほどかかります。休憩をとるために途中で中断することもできます。
中断するときは、[|| 一時停止(P)] をクリックしてください。

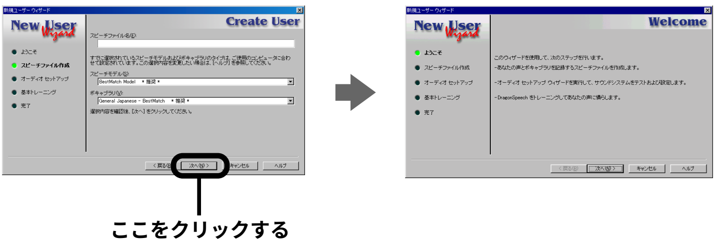
1 デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner – 日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。

「新規ユーザーウィザード」画面が表示されます。



2 [次へ(N) >] をクリックする。

「スピーチファイル作成」画面が表示されます。

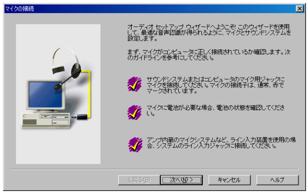


次のページにつづく

3 「スピーチファイル名」にキーボードで任意の名前を入力し、［次へ(N)＞］をクリックする。

話し手の声と、ボキャブラリ（語彙）に関する情報を保存するスピーチファイルが自動的に保存され、「マイクの接続」画面が表示されます。





ここをクリックする

スピーチモデルについて

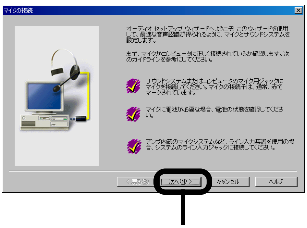
スピーチファイルのスピーチモデルは、言葉の音に関する情報を保存します。新規ユーザーウィザードでは、ご使用のコンピュータの速度やメモリ（RAM）に合わせてスピーチモデルが設定されますので、自動的に選択されたモデルを使用することをお勧めします。

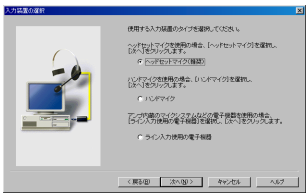
ボキャブラリとは

「ボキャブラリ」とは語彙という意味ですが、ここでは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアに向かって話しかけたときに、コンピュータに認識できる語彙のことです。新規ユーザーウィザードでは、ボキャブラリに関する情報を保存する領域がスピーチモデルと同じように、ご使用のコンピュータの性能に合わせて設定されますので、自動的に選択されたボキャブラリを使用することをお勧めします。

4 ［次へ(N)＞］をクリックする。

［入力装置の選択］画面が表示されます。





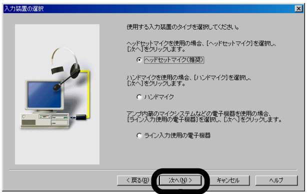
ここをクリックする

5 **「ヘッドセットマイク（推奨）」が選択されていることを確認して、ヘッドセットマイクを装着する。**

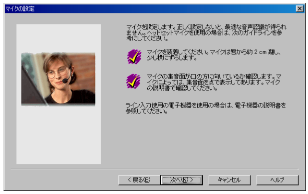
ヘッドセットマイクの装着方法について詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（104ページ）をご覧ください。

6 **［次へ(N) >］をクリックする。**

「マイクの設定」画面が表示されます。

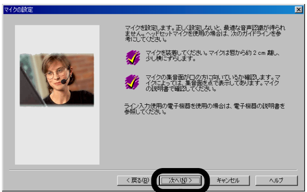


ここをクリックする

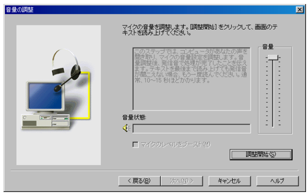


7 **［次へ(N) >］をクリックする。**

「音量の調整」画面が表示されます。

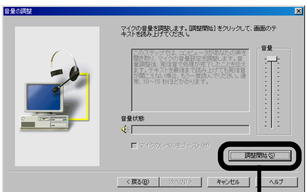


ここをクリックする

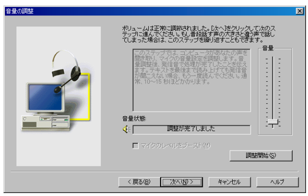


8 **［調整開始(S)］をクリックして、画面に表示されているテキストを読み上げる。**

画面に表示される文章を音読すると、音声が適切な音量で入力されているかどうかを、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが確認します。



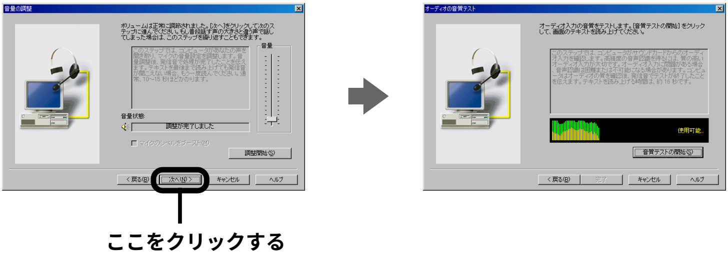
ここをクリックする



次のページにつづく

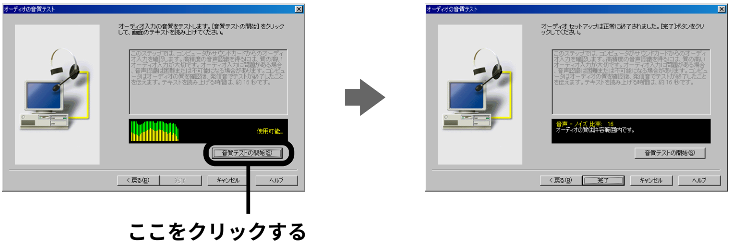
9 調整が完了したら、[次へ(N) >] をクリックする。

「オーディオの音質テスト」画面が表示されます。



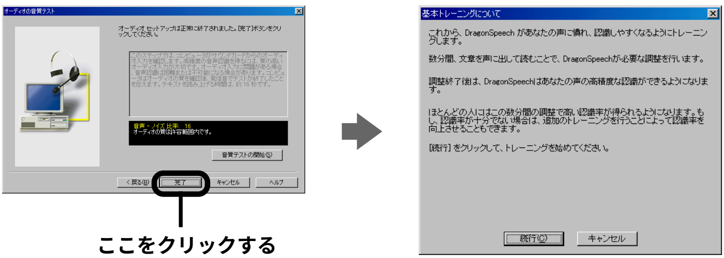
10 [音質テストの開始(S)] をクリックして、画面に表示されているテキストを読み上げる。

音声が適切な音質で入力されているかどうかを「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが確認します。



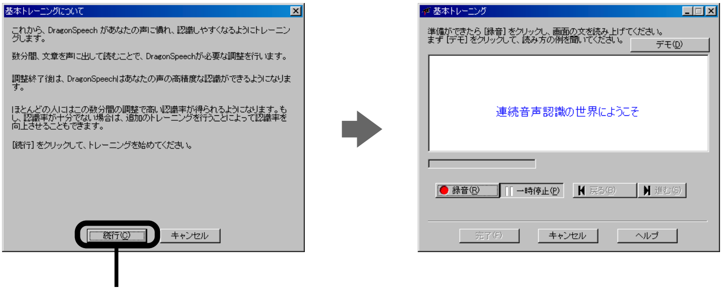
11 [完了] をクリックする。

「基本トレーニングについて」画面が表示されます。



12 [続行(C)] をクリックする。

「基本トレーニング」画面が表示されます。

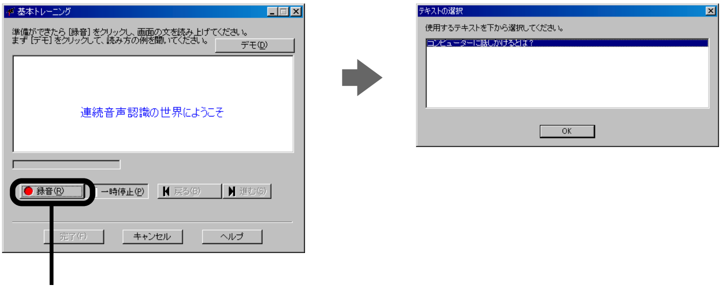


ここをクリックする

13 [録音(R)] をクリックして、画面に表示される文章を読み上げる。

話し手の発音のしかたを、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが学習します。途中で基本トレーニングを中断するときは、[一時停止(P)] をクリックします。

「テキストの選択」画面が表示されます。



ここをクリックする

読み上げる場所を黄色い矢印で示します

画面上のテキストの読み上げが止まるたびに、黄色の矢印が次に読み始める場所を示してくれます。この矢印が同じ箇所に表示され続け、動かなくなることもあります。これは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが話し手の発音と画面上のテキストを一致させることができなかった場合に起こります。この場合には、矢印の場所からテキストを読み直してください。

次のページにつづく

読み間違えたときは

読み間違えたときには、本機は間違いを無視するか、黄色い矢印の表示でそのテキストをもう一度読むように指示を出します。また、［戻る(B)］をクリックして、テキストの一部を読み直すこともできます。

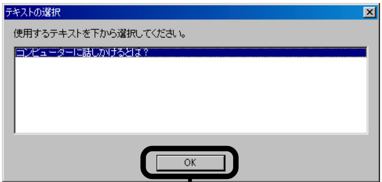
最初の画面から先に進めないときには

最初の2つの画面では、それぞれの文を区切らずに読む必要があります。その後の画面では、文の途中で間隔をおいてもかまいません。

黄色い矢印が消えないときには

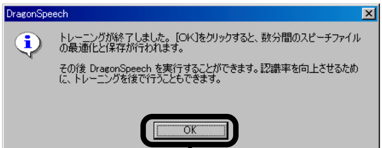
同じ言葉を何回も読んでいるのに黄色の矢印が消えず、前に進まない場合には、［進む(S)］をクリックします。

14 ［OK］**をクリックしてトレーニングを開始する。**



ここをクリックする

15 トレーニングが終了したら ［OK］**をクリックする。**



ここをクリックする

16 ［完了(F)］**をクリックする。**

「DragonSpeachへようこそ」画面が表示されます。



ここをクリックする

ちょっと一言
「DragonSpeech へようこそ」画面で「次回からこのメッセージを表示しない」の をクリックして にし、 OK をクリックすると、次回に「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを起動したときに、「DragonSpeech へようこそ」画面が表示されなくなります。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを終了する
デスクトップ画面右下のタスクトレイにある または を右クリックし、表示されるメニューから［終了］をクリックすると、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを終了できます。

声で文章を入力する

「「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを準備する」（107ページ）の手順を完了すると、次回から「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを使って声でソフトウェアを操作したり、文章を入力することができます。
ここでは、声で「ワードパッド」ソフトウェアを起動して、文章を入力してみましょう。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner – 日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクトレイに （マイクアイコン）が表示されます。

ちょっと一言
「DragonSpeech へようこそ」画面が表示されたときは、 OK をクリックします。

2 付属のヘッドセットマイクを装着する。

ヘッドセットマイクの装着方法について詳しくは、「ヘッドセットマイクを準備する」（104ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

3 タスクトレイの をクリックする。

（マイクアイコン）が上向きの表示に変わります。 が表示されているときは、マイクがオンでコンピュータが聞く体勢であることを示しています。

話し終わったら、もう一度 をクリックしてください。マイクがオフになります。

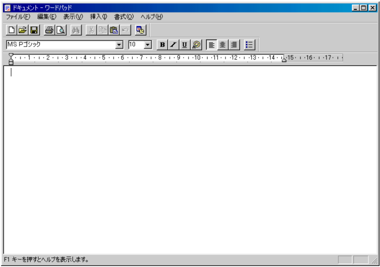
音声コマンドでマイクを一時停止するには

（マイクアイコン）が表示されてマイクがオンのときには、音声コマンドでマイクをコントロールすることができます。

「マイク」と言うと、マイクを一時停止できます。解除するときは、もう一度「マイク」と言ってください。

4 ヘッドセットマイクに向かって、「アプリケーション起動 ワードパッド」と話す。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動します。

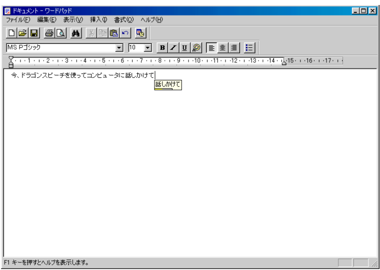


ご注意

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアで「DragonSpeech Partner」ソフトウェアを起動することはできません。

5 ヘッドセットマイクに向かって話しはじめる。

テストとして自由に話してみてください。たとえば、「今＜てん＞ドラゴンスピーチを使ってコンピュータに話しかけています＜まる＞」と言ってみましょう。



ご注意

操作するソフトウェアは、そのウィンドウがアクティブになっている（タイトルバーが青色に表示されている）ことが必要です。アクティブになっていない場合には、そのウィンドウをマウスでクリックしてください。

話し始めたときには

画面に文字が表示されるまでに多少時間がかかることがありますが、これは「DragonSpeech Partner」ソフトウェアがウォームアップしているためです。しばらくたっても文字が表示されない場合には、上記の操作を繰り返してください。ソフトウェアに慣れることが大切ですので、最初は音声が正しく認識されなくても気にせず続けてください。

句読点や記号を挿入するには

句読点や記号を入れる箇所を本機に教える必要があります。句読点や記号を入れるには、挿入する箇所で「まる」、「てん」などと言います。このほかの句読点や記号の言いかたについて詳しくは、付属の「音声コマンド早見表」をご覧ください。

新しい段落や行を開始するには

新しい段落を開始するには、「新しい段落」と言います（「新しい」と「段落」の間に間隔を置かないように気をつけてください）。これはキーボードの Enter（エンター）キーを2回押す操作と同じです。Enter（エンター）キーを1回押すには「改行」と言います。

最後に言った箇所を削除するには

「取り消し」と言います。間隔を入れずに言えば、それが文章、単語、句読点や記号のいずれであっても削除されます。「取り消し3回」などと、この操作の回数を指定することもできます（10回まで）。

認識エラーを修正するには

ソフトウェアによる認識エラーはどうしても起こります。特に最初のうちは目につくでしょう。しかし、使い込んでいくうちに認識精度は向上します。エラーを修正することで、ソフトウェアに同じ誤りを繰り返さないように教えているからです。認識エラーが起こったら、すぐに「修正」と言います。「修正」画面が開き、正しい言葉を選択するか、入力することができます。認識エラーの修正について詳しくは、ヘルプをご覧ください。ヘルプを見るときは「ヘルプ表示」と言います。

次のページにつづく

文章を編集するには

文章に入力された言葉を変更する場合、マウスやキーボードでテキストを選択し、そのテキストを置き換える言葉を言います。これは言った内容を簡単に編集する方法ですが、認識エラーを防ぐ効果はありません。「修正」画面を使って、初めて「DragonSpeech Partner」ソフトウェアに同じ誤りを繰り返さないように教えることができます。

最後に行った操作を元に戻すには

「元に戻す」と言います。特に意図しないコマンドを実行してしまったときなどに便利です。また、テキストの選択中に咳をしてしまったときなど、選択したテキストを間違って削除してしまった場合にも効果的です。

ご注意

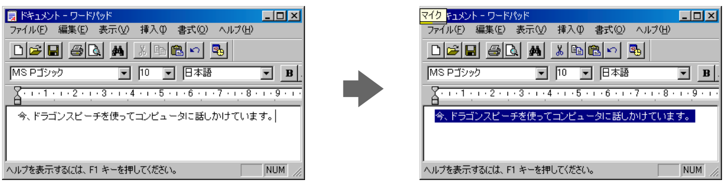
すべての操作やコマンドを元に戻せるわけではありません。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、このソフトウェアのヘルプをご覧ください。ヘルプを見るには「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動されておりマイクがオンの状態で、「ヘルプ表示」と言います。

声で操作する

ある特定の言葉を言うと、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアはその言葉を入力文字として認識するかわりに操作を実行します。このような言葉を、「音声コマンド」といいます。
「声で文章を入力する」の手順4で話した「アプリケーション起動」も音声コマンドの一種です。
ここでは、「声で文章を入力する」の手順5が終了した状態から、いくつかの音声コマンドを使用してみましょう。

1　ヘッドセットマイクに向かって、「すべて選択」と話す。
文章全体が選択され、反転表示します。



ちょっと一言

「すべて（を）選択」または「全部（を）選択」は、文章全体を選択する音声コマンドです。音声コマンドとして認識されず、文章として入力されてしまったときは、「とりけし」と話して入力された文字を消し、Ctrl（コントロール）キーを押しながら「すべて選択」と話してみてください。Ctrl（コントロール）キーを押しながら話した言葉は、強制的に音声コマンドとして認識されます。

2　ヘッドセットマイクに向かって、「クリックファイル」と話す。

「ファイル」メニューをマウスでクリックしたときと同じように、「ファイル」メニューが表示されます。

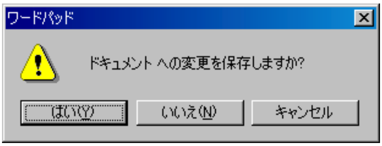


3　ヘッドセットマイクに向かって、「ワードパッドの終了」と話す。

保存確認の画面が表示されます。

4　ヘッドセットマイクに向かって、「クリックいいえ」と話す。

作成した文章が保存されずに、「ワードパッド」ソフトウェアが終了します。



ちょっと一言

「クリック<メニュー名>」は<メニュー名>に指定したメニューを開いたりする音声コマンドです。また、「クリック<ボタン名>」は<ボタン名>に指定したボタンを実行したりする音声コマンドです。

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの音声コマンドについて詳しくは付属の「音声コマンド早見表」をご覧ください。また、音声コマンドの全リストは、タスクトレイの（マイクアイコン）を右クリックし、［ヘルプ］から［コマンドリスト］をクリックすると表示されます。

次のページにつづく

ご注意

- コマンドを区切って発音しないでください。たとえば、「新しい段落」というコマンドの場合、「新しい」と「段落」の間に間隔を空けないでください。
- 音声コマンドを言う前に少し間隔を空けてください。この間隔で、「DragonSpeech Partner」ソフトウェアは発音された言葉がコマンドであると認識します。コマンドの前に間隔を空けても、そのコマンドが入力文字として認識されてしまう場合は、キーボードの Ctrl （コントロール）キーを押しながら音声コマンドを言ってください。音声コマンドとして強制認識されます。
- テキストとして話した言葉が音声コマンドとして認識される場合には、キーボードの Shift （シフト）キーを押しながら話してください。入力文字として強制認識されます。
- 「PictureGear」や「DVgate」など、ソフトウェアの名前がすべてアルファベットのとき、または、名前の一部にアルファベットが含まれているとき、声でうまくソフトウェアを起動できないことがあります。この場合は、下記の「ショートカットを作成するには」の手順に従って新たにソフトウェアのショートカットを日本語で作ることをおすすめします。また、「ピクチャー ギア」というように、ひらがな、またはカタカナで書くときは、区切れるところにスペースを入れた方が、声が認識されやすくなります。

ショートカットを作成するには

ショートカットを作成するには、以下の手順に従ってください。ここでは、「PictureGear 5.0」を例にショートカットを作成してみます。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［PictureGear 5.0］を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ショートカットメニューから［ショートカットの作成］をクリックする。

「PictureGear 5.0」のショートカットが作成されます。

3 作成した「PictureGear 5.0」ショートカットを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

4 ショートカットメニューから［名前の変更］をクリックする。

「名前の変更」画面が表示されます。

5 「新しい名前」の入力欄に「ピクチャー ギア」と入力する。

ショートカットの名前が「ピクチャー ギア」に変わります。

声でソフトウェアを操作できないときは

「DragonSpeech Partner」ソフトウェアでは、さまざまなソフトウェアのメニューやボタンなどを音声で操作できますが、ソフトウェアによっては操作できないものもあります。この場合は、以下の手順に従って「DragonSpeech Partner」ソフトウェアの設定を変更してから、再度、音声で操作してみてください。この設定変更により、「DVgate」、「PictureGear」など、ソフトウェアによっては音声で操作できるようになるものがあります。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner-日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。**
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクトレイに （マイクアイコン）が表示されます。

2 **を右クリックし、表示されるメニューから［ツール］、次に［オプション］をクリックする。**
「オプション」画面が表示されます。

3 **［その他］タブをクリックする。**
「その他」画面が表示されます。

4 **［メニューおよびダイアログに Active Accessibility を使用］の ☑ をクリックし、☐ にする。**

5 **OK をクリックする。**

6 **を右クリックし、表示されるメニューから［終了］をクリックする。**
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが終了します。

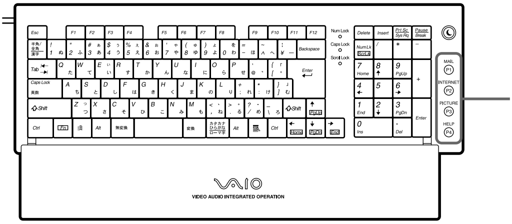
7 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［DragonSpeech Partner-日本語版］を選び、［DragonSpeech Partner］をクリックする。**
「DragonSpeech Partner」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面右下のタスクトレイに が表示されます。

なお、上記の手順を行っても音声で操作できるようにならないソフトウェアもあります。また、上記の手順を行うと、「Microsoft® Internet Explorer」、「Microsoft® Office 2000 Personal」など、音声で操作できなくなってしまうソフトウェアもありますので、お使いになるソフトウェアに応じて使い分けてください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する（PPKの使いかた）

PPK（プログラマブルパワーキー）とは

PPK（プログラマブルパワーキー）は、1回押すだけで目的のソフトウェアを起動できる便利なキーです。電源スイッチの機能も兼ね備えていますので、本機の電源が切られている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。



4つのPPKにはそれぞれ1つずつソフトウェアが初期設定で割り当てられています。

初期設定で割り当てられているソフトウェアについては、「ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）」（122ページ）をご覧ください。

また、これらの割り当てられたソフトウェアは、「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使ってよく使うソフトウェアなどへ変更することもできます。

割り当てられたソフトウェアを変更する方法については、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（123ページ）をご覧ください。

決められた一連の動作を自動的に実行するには

PPKは単に1つのソフトウェアを起動するだけでなく、決められた一連の動作を自動的に実行する「スクリプト」を起動することもできます。付属の「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使うと、インターネットサービスプロバイダへダイヤルアップ接続し、電子メールを取り込むという一連の動作を、画面の指示に従って設定するだけで、上記の一連の動作を実行するのに必要なスクリプトを作成できます。この「VAIO Action Setup」ソフトウェアの機能を使って作成するスクリプトを「プリセットスクリプト」と言います。この使用例を「ワンタッチで電子メールを自動的に取り込む(PPKの応用操作2)」(125ページ)で紹介します。125ページから説明されている手順に従って設定を行うとPPKを押すだけで電子メールを受信できるようになります。

タイマー機能について

PPKに割り当てることのできるソフトウェアやスクリプトは、同じように本機に内蔵されているタイマーに割り当てることもできます。内蔵タイマーに割り当てると、指定した日時になったときに自動的にスタンバイモードや休止状態から復帰して、割り当てられたソフトウェアやスクリプトが起動するようになります。この設定も「VAIO Action Setup」ソフトウェアを使います。

プリセットスクリプトを作成し、設定時間に電子メールを自動的に取り込む方法については「内蔵タイマーで電子メールを自動的に取り込む(内蔵タイマー設定)」(129ページ)をご覧ください。

各キーには、初期設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

ワンタッチでソフトウェアを起動する（PPKの基本操作）

各プログラマブルパワーキーに割り当てられたソフトウェアをワンタッチで起動できます。各キーには、お買い上げ時の設定でそれぞれ以下のソフトウェアが割り当てられています。

キー名	割り当てられたソフトウェア
P1（MAIL）	電子メールソフトウェア
P2（INTERNET）	ウェブブラウザ
P3（PICTURE）	「PictureGear」ソフトウェア
P4（HELP）	「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェア

目的に合わせて、Ⓟ1〜Ⓟ4キーのいずれかを押す。

キーに割り当てられたソフトウェアが起動します。

ご注意

電子メールソフトウェアで電子メールをやりとりしたり、ウェブブラウザでホームページを見たりするには、あらかじめインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了している必要があります。インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

各キーに割り当てられたソフトウェアは「VAIO Action Setup」ソフトウェアで変更することができます

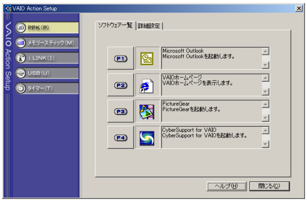
手順について詳しくは、「ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）」（123ページ）をご覧ください。

ワンタッチで起動するソフトウェアを変更する（PPKの応用操作1）

ここでは、プログラマブルパワーキーに初期設定で割り当てられたソフトウェアを好みのソフトウェアが起動するように変更する方法を説明します。
ここでは、(P1) キーを押すと「オンラインマニュアル」（この取扱説明書の内容）が起動するようにしてみます。

1 デスクトップ画面右下の をダブルクリックする。

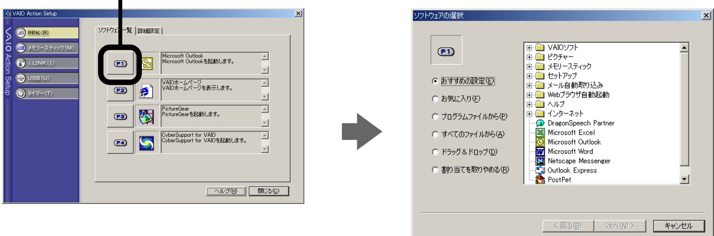
「VAIO Action Setup」画面が表示されます。



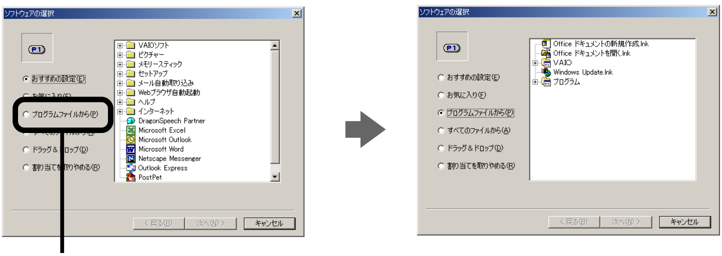
2 (P1) をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

ここをクリックする



3 ［プログラムファイルから］をクリックする。

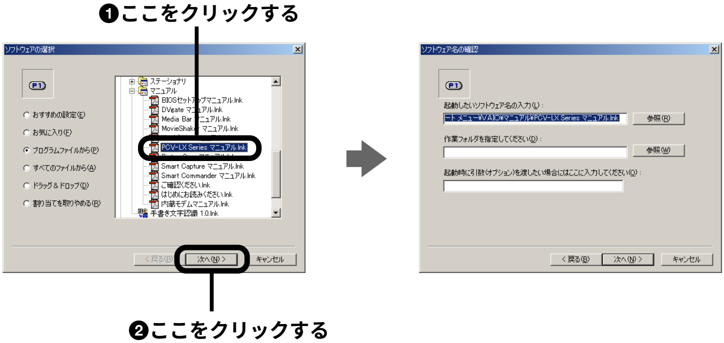


ここをクリックする

次のページにつづく

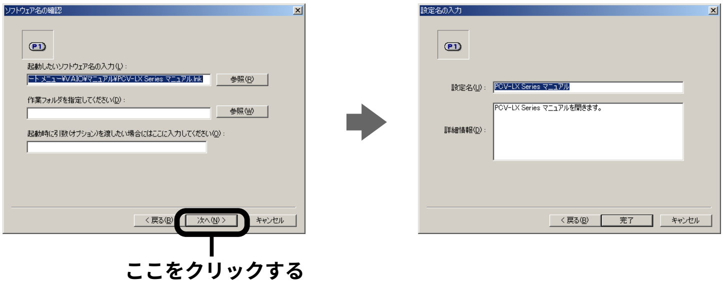
4 [VAIO]、[マニュアル] の順にダブルクリックし、[PCV-LX Series マニュアル.lnk] をクリックしてから 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェアの確認」画面が表示されます。



5 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。

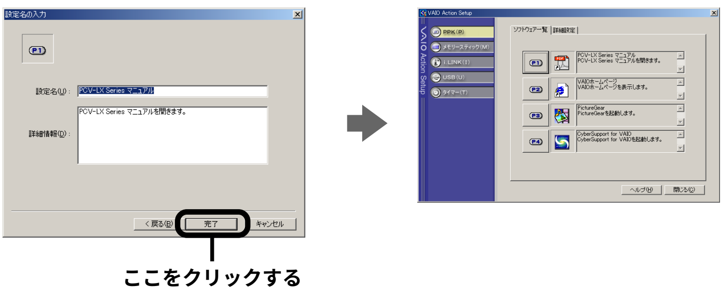


6 「設定名」や「詳細情報」を確認する。

ここに表示された「設定名」と「詳細情報」が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

7 完了(F) をクリックする。

これで設定は終わりです。次回からキーボードの(P1)キーを押すと、「オンラインマニュアル」が表示されます。



ワンタッチで電子メールを自動的に取り込む（PPKの応用操作2）

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで「PostPet」ソフトウェアを起動し、電子メールを自動的に取り込むように設定してみましょう。

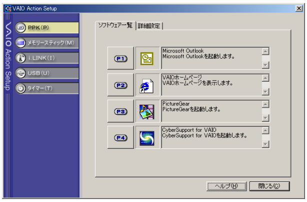
ご注意

この機能を使うにはインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。
インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

ここでは、(P1) キーを押すだけで電子メールを確認できるようにしてみます。

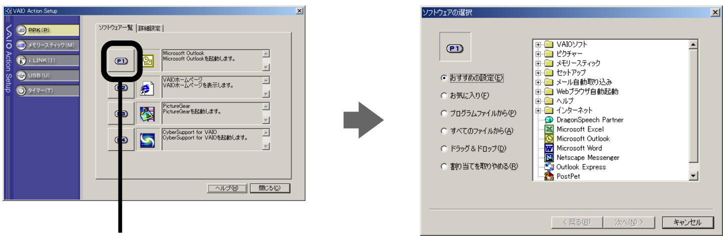
1 **デスクトップ画面右下の  をダブルクリックする。**

「VAIO Action Setup」画面が表示されます。



2 **「ソフトウェア一覧」画面の  をクリックする。**

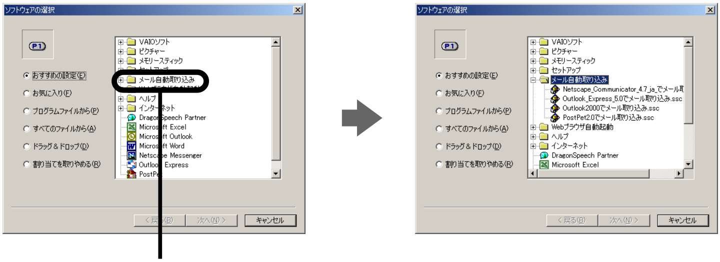
「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。



ここをクリックする

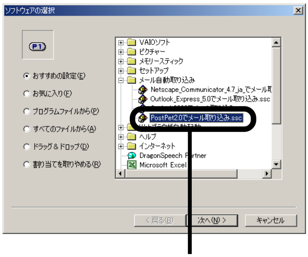
次のページにつづく

3 右側のリストから［メール自動取り込み］をダブルクリックする。



ここをダブルクリックする

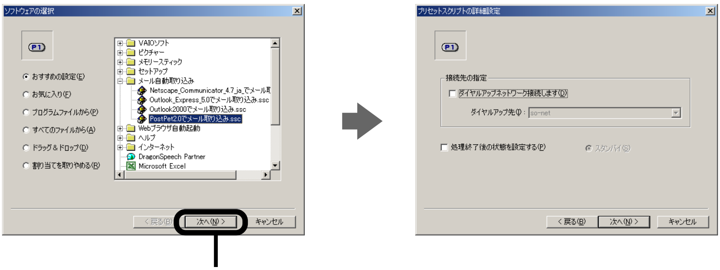
4 右側のリストから［PostPet 2.0でメール取り込み.ssc］をクリックする。



ここをクリックする

5 ［次へ(N) >］をクリックする。

「プリセットスクリプトの詳細設定」画面が表示されます。



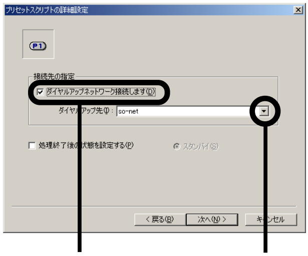
ここをクリックする

6 [ダイヤルアップネットワーク接続します] の ☐ を ☑ にしてから、「ダイヤルアップ先」を設定する。

「ダイヤルアップ先」の ▼ をクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定したダイヤルアップ先を選びます。

ダイヤルアップ先とは

プロバイダなど、インターネットの接続先のことです。



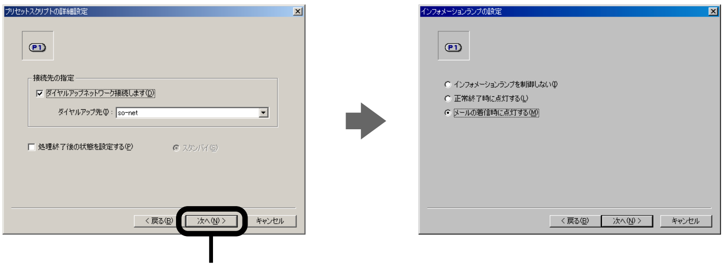
ここをクリックする　　ここをクリックしてダイヤルアップ先を選ぶ

ちょっと一言

電子メールソフトウェアによっては、ダイアルアップ先を設定できるものがあります。この場合は、ここで設定する必要はありません。

7 [次へ(N) >] をクリックする。

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。



ここをクリックする

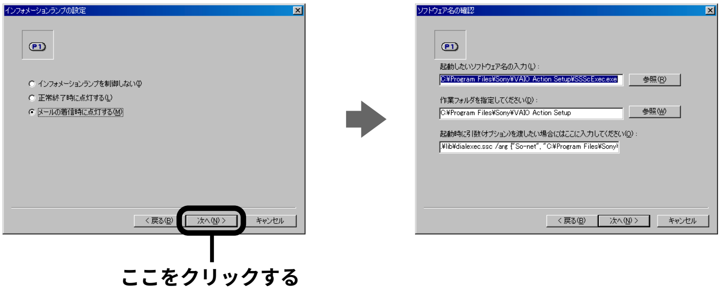
インフォメーションランプとは

電子メールを受信したことをユーザーに知らせてくれる表示ランプです。電子メール受信時に本機の液晶ディスプレイの右上にある （インフォメーション）ランプが点灯します。

次のページにつづく

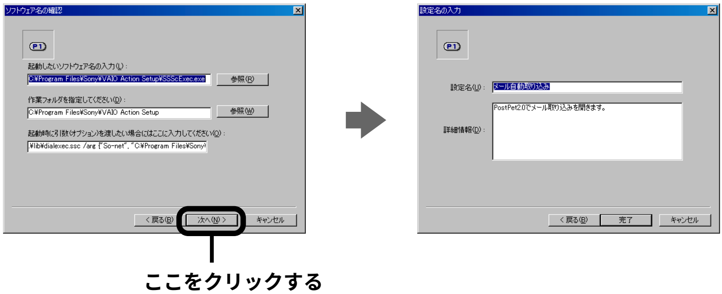
8 本機の（インフォメーション）ランプの設定を行い、次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。



9 次へ(N) > をクリックする。

「設定名の入力」画面が表示されます。

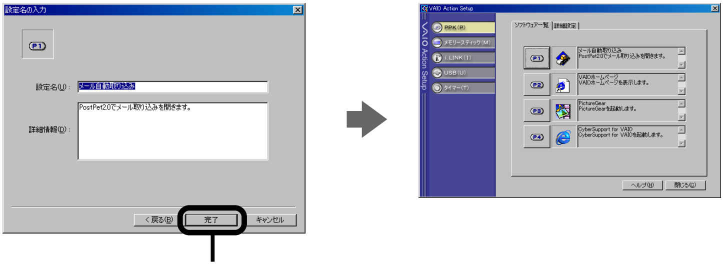


10 「設定名」や「詳細情報」を確認する。

ここに表示された「設定名」と「詳細情報」が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

11 完了(F) **をクリックする。**

これで設定は終わりです。(P1)キーを押すと「PostPet」ソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。



ここをクリックする

点灯した (インフォメーション) ランプの消灯のしかたについては、「 (インフォメーション) ランプの消灯のしかたについて」(134ページ) をご覧ください。

内蔵タイマーで電子メールを自動的に取り込む（内蔵タイマー設定）

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②スタンバイモードのとき、③休止状態のとき、いずれの状態でも好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。
プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。
内蔵タイマーの便利な使いかたの例として、設定した時刻になったら「PostPet」ソフトウェアで自動的に電子メールを取り込むように設定してみましょう。

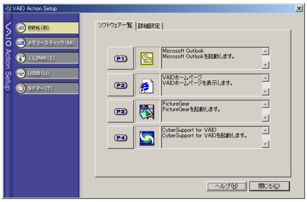
ご注意

この機能を使うにはインターネットに接続するための接続および設定、電子メールソフトウェアを使うための設定が完了していることが必要です。
インターネットへの接続や電子メールソフトウェアの設定については、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

次のページにつづく

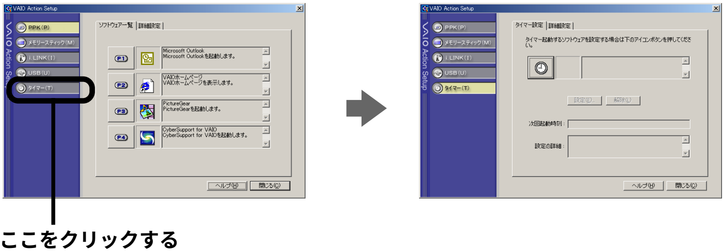
1 デスクトップ画面右下の  をダブルクリックする。

「VAIO Action Setup」画面が表示されます。



2 画面左側の タイマー（T） をクリックする。

「タイマーの設定」画面が表示されます。



3  をクリックする。

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

4 画面左側の［おすすめの設定］をクリックして選び、右側のリストの「メール自動取り込み」フォルダから［PostPet2.0でメール取り込み.ssc］をクリックして選び、 次へ(N) > をクリックする。

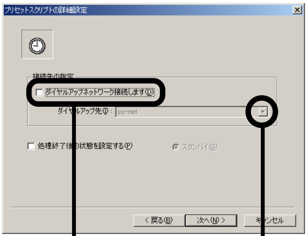
「プリセットスクリプトの詳細設定」画面が表示されます。

5 ［ダイヤルアップネットワーク接続します］の □ をクリックして ☑ にしてから、「ダイヤルアップ先」を設定する。

「ダイヤルアップ先」の ▼ ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定したダイヤルアップ先を選びます。

ダイヤルアップ先とは

プロバイダなど、インターネットの接続先のことです。



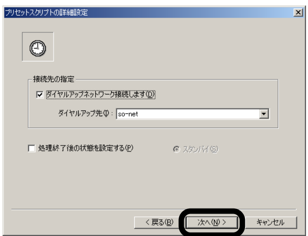
ここをクリックする　**ここをクリックしてダイヤルアップ先を選ぶ**

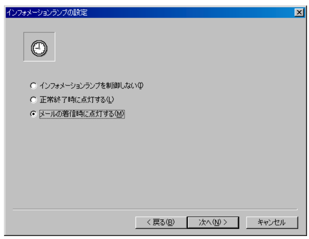
ちょっと一言

- 電子メールソフトウェアによっては、ダイヤルアップ先を設定できるものがあります。この場合は、ここで設定する必要はありません。
- ［処理終了後の状態を設定する］をクリックすると、電子メールの取り込みが終わったあと、自動的にスタンバイモードに移行するように設定することもできます。

6 ［次へ(N) >］をクリックする。

「インフォメーションランプの設定」画面が表示されます。



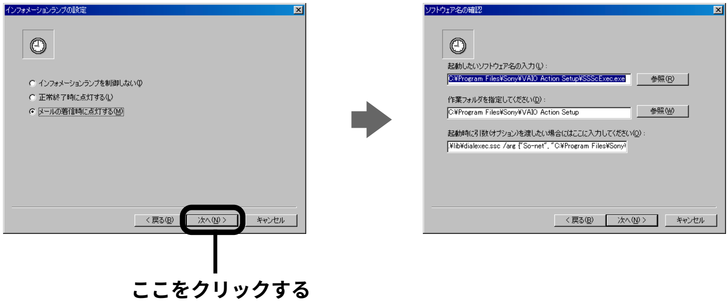


ここをクリックする

次のページにつづく

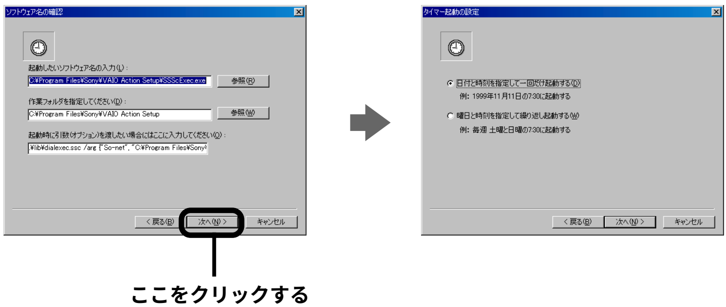
7 本機の 🛈（インフォメーション）ランプの設定を行い、[次へ(N) >] をクリックする。

「ソフトウェア名の確認」画面が表示されます。

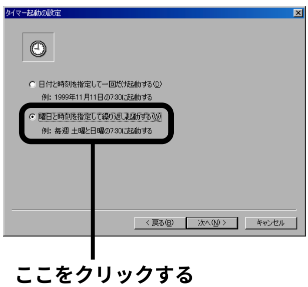


8 [次へ(N) >] をクリックする。

「タイマー起動の設定」画面が表示されます。

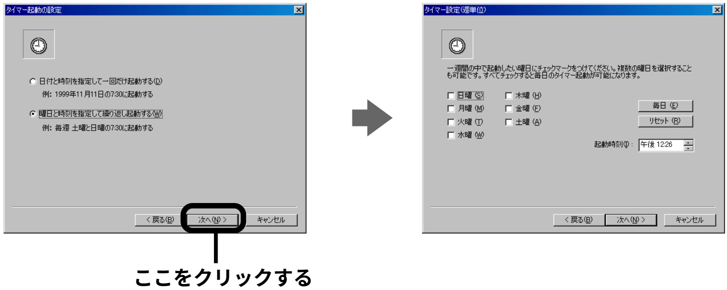


9 ［曜日と時刻を指定して繰り返し起動する］をクリックする。



10 **[次へ(N) >] をクリックする。**

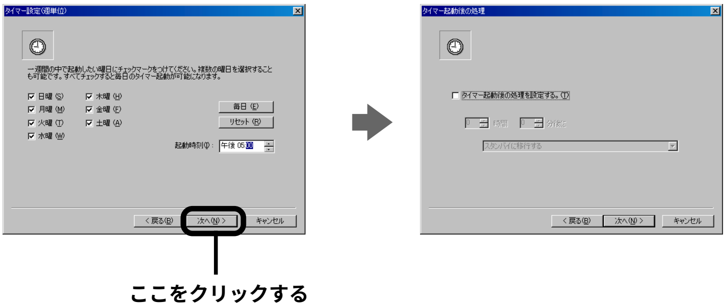
「タイマー設定（週単位）」画面が表示されます。



11 **タイマー起動の曜日と時刻を設定し、[次へ(N) >] をクリックする。**

ここでは、毎日午後5時にタイマーが起動するように設定してみます。

「タイマー起動後の処理」画面が表示されます。

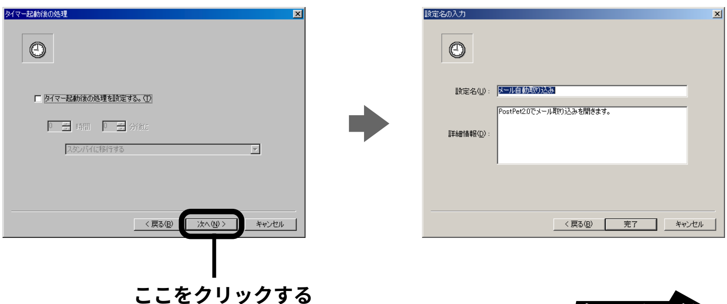


ちょっと一言

手順5で処理終了後の状態を設定している場合、「タイマー起動後の処理」を設定する必要はありません。

12 **[次へ(N) >] をクリックする。**

「設定名の入力」画面が表示されます。



次のページにつづく

13 設定名や詳細情報を確認する。

ここに表示された設定名と詳細情報が「ソフトウェア一覧」画面に表示されます。

14 完了(F) をクリックする。

これで設定は終わりです。

毎日午後5：00に「PostPet」ソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。



ここをクリックする

ご注意

- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。
- タイマーが設定されているときに、停電が起きたり、本機の電源コードをコンセントから抜いたりすると、タイマー機能が正常に動作しないことがあります。この場合は、いったん本機を起動してください。タイマーが再度セットされ、起動時以降のタイマーの設定が有効になります。

（インフォメーション）ランプの消灯のしかたについて

インフォメーションランプは手順7の「インフォメーションランプの設定」画面で選んだ条件に従って点灯します。 点灯しているインフォメーションランプは本機の電源を切った状態、スタンバイモードのいずれの状態でも消えません。点灯しているインフォメーションランプを消灯するには、本機の動作中にタスクバーで点滅している をクリックします。

「VAIO Action Setup」ソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。
プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後にスタンバイモードへ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「VAIO Action Setup」のダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

スクリプト実行中は本機の操作をしないでください

「VAIO Action Setup」の設定による電子メール取り込みには、決められた一連の動作を自動的に実行する「スクリプト」を使用しています。
これらのスクリプトを実行中に別の本機の操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

Windows 2000のログオンのユーザー制限を設定したときは

別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」にある手順14の「このコンピュータのユーザー」画面で「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択しなかった場合、本機の電源を入れ、Windows 2000を起動するときに、「Windowsへログオン」画面が表示されます。この画面で、上記の「このコンピュータのユーザー」画面で設定したユーザーのパスワードを入力するまでWindows 2000は起動せずPPKの自動巡回などの機能は働きませんのでご注意ください。
このユーザー制限は、「コントロールパネル」ウィンドウの［ユーザーとパスワード］をダブルクリックして表示される「ユーザーとパスワード」画面で設定を変更することができます。

静止画で楽しむ

本機に“ メモリースティック ”を使って、またはi.LINK対応機器から静止画を取り込み、静止画を電子メールに添付して送ったり、パノラマ画像や写真入りのラベルを作ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の静止画の楽しみかたを説明します。

- “ メモリースティック ”を使って静止画を取り込む
- i.LINK対応機器から静止画を取り込む
- 静止画を電子メールで送る
- パノラマ画像を作る
- 写真入りのラベルを作る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から静止画を取り込むには、別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（155ページ）をご覧ください。

“ メモリースティック ”を使う

“ メモリースティック ”を使って、デジタルビデオカメラレコーダーなど“ メモリースティック ”対応機器から静止画を本機に簡単に取り込むことができます。

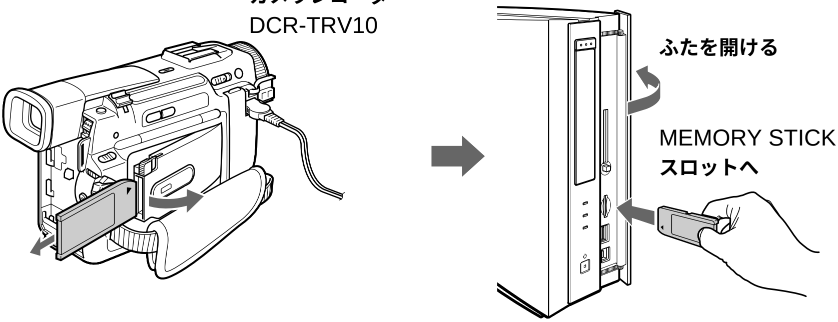
ここではソニーデジタルビデオカメラレコーダーDCR-TRV10から“ メモリースティック ”を使って静止画を取り込んでみます。

1 デジタルビデオカメラレコーダーに“ メモリースティック ”を入れ、静止画を撮影する。

デジタルビデオカメラレコーダーへの“ メモリースティック ”の入れかたおよび静止画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

2 デジタルビデオカメラレコーダーから“メモリースティック”を取り出し、本機前面パネルのふたを開けてから、MEMORY STICK**（メモリースティック）スロットへ入れる。**

“メモリースティック”の取り出しかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。



「VisualFlow」ソフトウェアが起動し、“メモリースティック”に保存された静止画が一覧表示されます。

「VisualFlow」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VisualFlow」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

MPEG1フォーマットの動画を取り込むこともできます

MPEG1フォーマットで動画を撮影できる機能を持ったデジタルビデオカメラレコーダーをご使用の場合は、手順1で静止画のかわりに動画を撮影することにより、同様の手順で動画を取り込むことができます。動画の撮影について詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

MPEG1とは

カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮率が得られます。主にビデオCDなどに使われています。

ちょっと一言

インターネット上のサービス「ImageStation」を利用すれば、「PictureGear」や「Smart Capture」ソフトウェアを使って取り込んだ静止画を「ImageStation」に置いて保管したり、パスワードをつけて特定の人だけに公開することもできます。

詳しくは、「PictureGear」や「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

なお、このサービスを利用するには、インターネットに接続していることが必要です。インターネットへの接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

付属の「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で録画した映像から、お好みの場面を静止画として本機に取り込めます。
以下の流れに沿って静止画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（150ページ）をご覧ください。

↓

「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Still」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む静止画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」（179ページ）をご覧ください。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

ちょっと一言

- インターネット上のサービス「ImageStation」を利用すれば、「PictureGear」や「Smart Capture」ソフトウェアを使って取り込んだ静止画を「ImageStation」に置いて保管したり、パスワードをつけて特定の人だけに公開することもできます。詳しくは、「PictureGear」や「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。なお、このサービスを利用するには、インターネットに接続していることが必要です。インターネットへの接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。
- 付属の「PictureToy」ソフトウェアを使って、取り込んだ静止画の上にお絵描きをすることができます。
  PCV-LX80/BPKをお使いのかたは、付属のペンと液晶ディスプレイを使ってお絵描きできます。詳しくは「ペンで文字や絵をかいて楽しむ」（93ページ）をご覧ください。
  PCV-LX70/BPKをお使いのかたは、マウスを使ってお絵描きします。詳しくは「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

静止画を電子メールで送る

“メモリースティック”対応機器またはi.LINK対応機器から取り込んだ静止画を電子メールに添付して送ることができます。静止画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」または「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

「Smart Capture」ソフトウェアを使うときは

i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（138ページ）をご覧ください。

↓

静止画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って静止画を電子メールで送ります。「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

ちょっと一言

付属の「PictureToy」ソフトウェアを使ってお絵描きした静止画は「PictureToy」ソフトウェアから電子メールに添付して送れます。
詳しくは、「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを使うときは

" メモリースティック "を使って静止画を取り込む

" メモリースティック "を使って静止画を取り込む方法については、『" メモリースティック "を使う』（136ページ）をご覧ください。

静止画を電子メールで送る

起動後は、送りたい静止画を、「PictureGear」から電子メールソフトウェアの静止画を添付したいメッセージにドラッグアンドドロップします。
電子メールへの静止画の添付のしかたについて詳しくは、お使いの電子メールソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

静止画によっては、電子メールで送信するのには向かない大きい容量のものもあります。送信する前に、静止画のファイルの容量をご確認ください。

ちょっと一言

付属の「PictureToy」ソフトウェアを使ってお絵描きした静止画は「PictureToy」ソフトウェアから電子メールに添付して送れます。
詳しくは、「PictureToy」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

パノラマ画像を作る

本機に取り込んだ静止画を何枚かつなげて、パノラマ画像を作ることができます。パノラマ画像を作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

パノラマ画像の作成に必要な静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、パノラマ画像作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（138ページ）をご覧ください。

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使ってパノラマ画像を作ります。「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「PictureGear」取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

写真入りのラベルを作る

本機に取り込んだ静止画を使ったラベルを作成し、印刷してフロッピーディスクのケースなどに貼ることができます。写真入りのラベルを作るには、付属の「PictureGear」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

ラベルに入れる静止画を撮影する

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器で、ラベル作成に使用する静止画を撮影します。デジタルビデオカメラレコーダーの使いかたについて詳しくは、デジタルビデオカメラレコーダーに付属の取扱説明書をご覧ください。

↓

静止画を取り込む

i.LINK対応機器から静止画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの静止画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から静止画を取り込む」（138ページ）をご覧ください。

↓

「PictureGear」ソフトウェアを起動する

起動後は、「PictureGear」ソフトウェアを使って静止画や文字をレイアウトして、写真入りのラベルを作ります。
「PictureGear」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「PictureGear」取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

動画で楽しむ

本機にi.LINK対応機器から動画を取り込み、動画を加工／編集したり、電子メールに添付して送ったりして楽しむことができます。

ここでは本機を使ってできる以下の動画の楽しみかたを説明します。

- i.LINK対応機器から動画を取り込む
- 動画を加工／編集する
- 動画を電子メールで送る

ちょっと一言

本機を使って、i.LINK対応機器から動画を取り込むには別売りの i.LINKケーブルが必要です。詳しくは、「必要な i.LINKケーブル」（155ページ）をご覧ください。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

付属の「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って、デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器から動画を本機に取り込めます。以下の流れに沿って動画を取り込みます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（150ページ）をご覧ください。

↓

「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを起動する

起動後は、「DVgate Motion」または「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を取り込みます。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書または「Smart Capture」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

- 「DVgate Motion」ソフトウェアをお使いの際は、その他すべてのソフトウェアをあらかじめ終了させてください。
- 「Smart Capture」ソフトウェアで取り込んだ動画のファイル形式はDV形式ではなく、AVI形式またはアニメーションGIF形式になります。
- ディスプレイの表示を、解像度を高く、リフレッシュレートを高く、また表示色数を多く設定したとき、動画がスムーズに表示されないことがありますが、取り込む動画に影響はありません。ディスプレイの設定を変更するときは、「ディスプレイの設定を変更する」(179ページ)をご覧ください。
- 「DVgate Motion」ソフトウェアを使って取り込む動画データは容量が大きいので、本機では、ハードディスクがC:ドライブとD:ドライブの2つに分かれており(お買い上げ時)、動画を扱うためのデータのスペースとしてD:ドライブが確保されています。お使いになる状況によって、D:ドライブに割り当てられている容量を変えることができます。パーティションサイズを変更するには、「パーティションサイズを変更する」(226ページ)をご覧ください。

DV形式とは

「DV形式」とは、ソニーデジタルビデオカメラレコーダーなどDV方式のデジタルビデオ機器からテープ上に映像/音声をデジタル記録する際のデータ圧縮形式です。

AVI形式とは

「AVI形式」とは、Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。

アニメーションGIF形式とは

「アニメーションGIF形式」とは、米CompuServeが作った画像データ形式であるGIF形式の画像を複数集めて、動画にしたときのファイル形式です。

リフレッシュレートとは

コンピュータでは、ディスプレイ上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートといいます。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

ちょっと一言

インターネット上のサービス「ImageStation」を利用すれば、「Smart Capture」ソフトウェアを使って取り込んだ動画を「ImageStation」に置いて保管したり、パスワードをつけて特定の人だけに公開することもできます。
詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
なお、このサービスを利用するには、インターネットに接続していることが必要です。インターネットへの接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット!」をご覧ください。

動画を加工／編集する

i.LINK対応機器で録画した動画を本機に取り込んで加工／編集することができます。不要なシーンを切り取ったり、複数の動画をつなげるといった加工をするときは付属の「DVgate Assemble」ソフトウェアを使います。また、付属の「MovieShaker」ソフトウェアを使うと、動画と動画をつなぐオーバーラップ効果や色の調整、特殊効果、テキスト文字の挿入などさまざまなビデオ編集ができます。加工／編集した動画はi.LINK対応機器に録画することもできます。

i.LINK対応機器を本機に接続する

i.LINK対応機器の接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（150ページ）をご覧ください。

動画を取り込む

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（143ページ）をご覧ください。

動画の簡単な加工をする

「DVgate Assemble」ソフトウェアを使って動画を加工します。
「DVgate Assemble」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「DVgate」取扱説明書をご覧ください。

動画を編集する

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画を編集します。
「MovieShaker」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「MovieShaker」取扱説明書をご覧ください。

動画を電子メールで送る

i.LINK対応機器から取り込んだ動画を電子メールに添付して送ることができます。動画をメールに添付して送るには、付属の「Smart Capture」ソフトウェアを使い、以下の流れに沿って行います。

i.LINK対応機器から動画を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器から動画を取り込みます。
i.LINK対応機器からの動画の取り込みかたについては、「i.LINK対応機器から動画を取り込む」（143ページ）をご覧ください。

↓

動画を電子メールで送る

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画を電子メールで送ります。
「Smart Capture」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」のオンラインマニュアルをご覧ください。

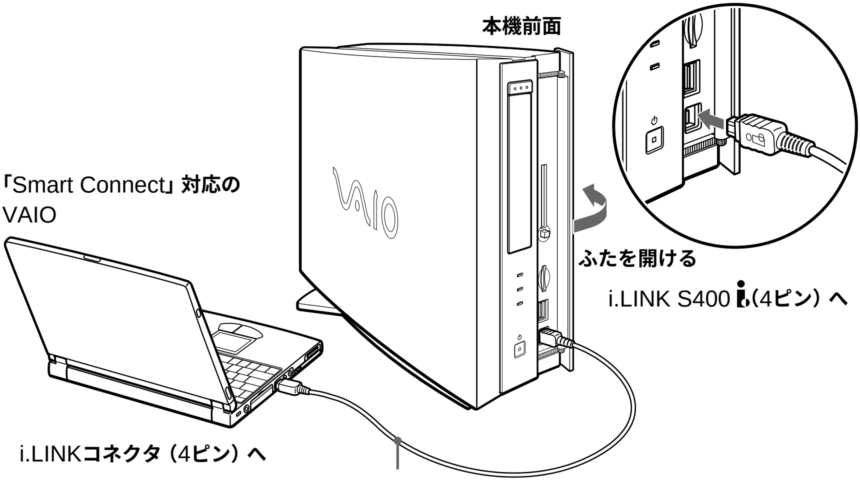
「Smart Connect」対応のVAIOとデータをやりとりする

「Smart Connect」に対応したVAIOと本機を、別売りのi.LINKケーブル（4ピン←→4ピン）で接続すると、ファイルのコピー、削除、編集などが互いにでき、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。

使いかたについて詳しくは、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。

i.LINK接続については、「i.LINK対応機器をつなぐ」（150ページ）をご覧ください。

本機では「Smart Connect」は初期設定で使えない状態に設定されています。使えるようにするには、「Smart Connect」のヘルプをご覧ください。



ちょっと一言

「Smart Connect」を使ったデータのやりとりの状態は、「Smart Connectモニタ」で確認できます。デスクトップ画面右下のタスクトレイの をダブルクリックして確認します。詳しくは、「Smart Connectモニタ」のヘルプをご覧ください。

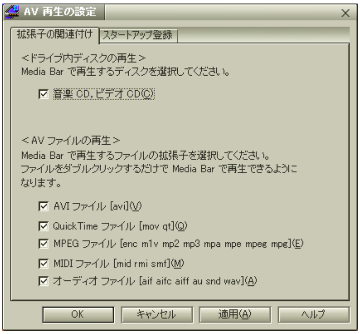
ご注意

- これまでi.LINKケーブルで接続したことのないVAIOとの初回接続時にドライバのインストールが行われます。ドライバのインストール時は管理者権限（Administrators）のユーザーでログインしている必要があります。
- 「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときに、「DVgate」、「Smart Capture」のいずれかのソフトウェアを起動すると、本機が正常に動作しなくなることがあります。「Smart Connect」を使って他のVAIOと接続しているときは、これらのソフトウェアは起動しないでください。

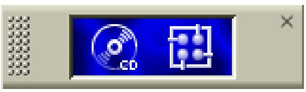
音楽CDを再生する

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、音楽CDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)
「Media Bar」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。
「Media Bar」ソフトウェアを使うには、以下の手順に従って操作してください。

1 初めて「Media Bar」ソフトウェアを使うときはデスクトップ画面上の （AV再生の設定）をダブルクリックする。
「AV再生の設定」画面が表示されます。



2 画面の指示に従って各チェックボックスをクリックしてから、 OK をクリックする。
「Media Bar」操作画面が表示されます。



3 再生する。
「Media Bar」ソフトウェアの使いかたについては、別冊の「Media Bar」取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

一度上記の流れに従って「Media Bar」ソフトウェアの再生のための設定を終了すると、 （AV再生の設定）は表示されず、2回目以降はすぐに再生を楽しむことができます。再度設定を行いたい場合は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］、［AV再生の設定］の順にクリックします。

拡張編

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

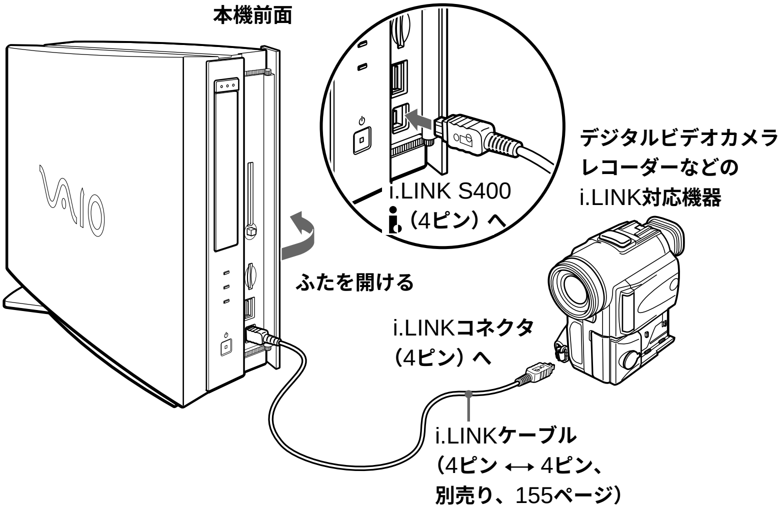
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(155ページ)および「本機と操作できるi.LINK対応機器」(156ページ)をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは一度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源を切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機は電源が切れている場合でもi.LINKのデータを中継(リピート)します。
- i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

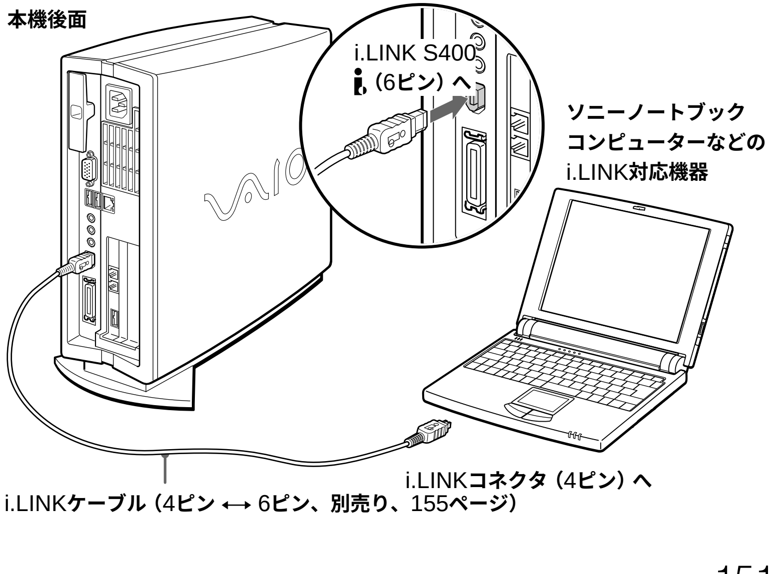
前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ⟷ 4ピン、別売り、155ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ⟷ 6ピン、別売り、155ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



i.LINKとは？

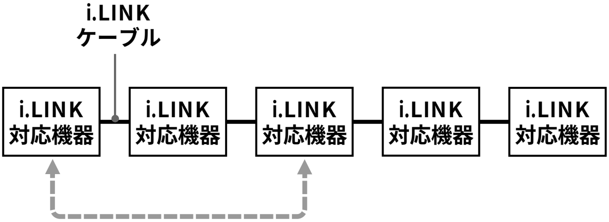
i.LINKは、i.LINKコネクタを持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェイスです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

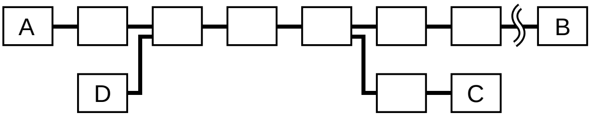
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

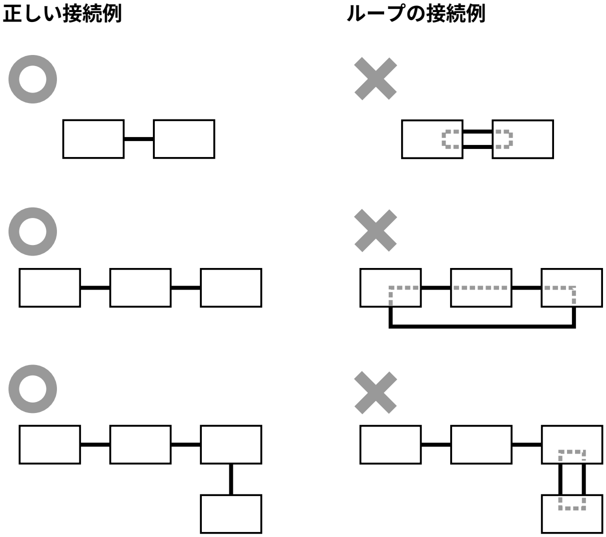
- i.LINKコネクタを3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINKの規格上、i.LINK対応機器は本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。



A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、いずれの経路も最大17台の機器を接続できます(最大16ホップ)。

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。



接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり、省電力モードに入っているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINKコネクタの周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

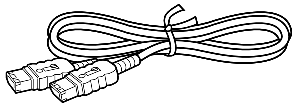
必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、次のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

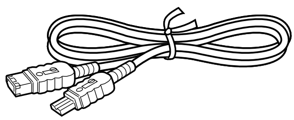
6ピン↔6ピン

- VMC-IL6615A（1.5 m）
- VMC-IL6635A（3.5 m）



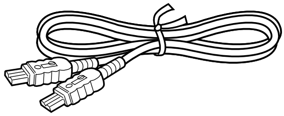
4ピン↔6ピン

- VMC-IL4615A（1.5 m）
- VMC-IL4635A（3.5 m）



4ピン↔4ピン

- VMC-IL4408A（80cm）
- VMC-IL4415A（1.5 m）
- VMC-IL4435A（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機と操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（2000年9月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
  取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが2000年8月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバータ、およびDigital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む。ツーリストモデルは除く）
  ただし、ソフトウェアによっては一部のDV機器が動作対象外になる場合があります。
  詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書、オンラインマニュアル、ヘルプ、Readmeファイルなどをご覧ください。

- ソニーi.LINKハードディスクドライブPCVA-HD04（2000年10月発売予定）
  この機器について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。VAIOカスタマーリンクのホームページで、本機との接続情報を確認してください。

ご注意

本機はDTLAコピー・プロテクション技術（152ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することができません。

プリンタをつなぐ

Windows 2000に対応しているUSBプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
USBプリンタに付属または別売りのUSBケーブルを使って本機または液晶ディスプレイにつなぎます。

ご注意

- Windows 2000に対応していないUSBプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。
- 本機は、パラレルポートのプリンタとはつなぐことはできません。

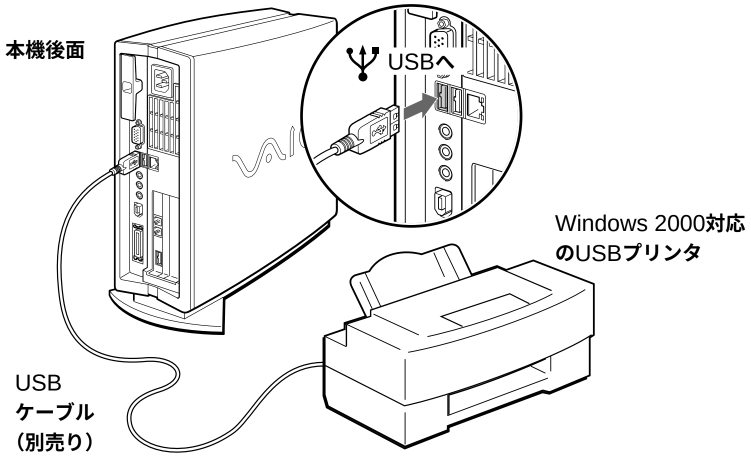
パラレルポートとは

プリンタやモデムなどの周辺機器とコンピュータを接続するインターフェース規格のことです。複数のデータ線を通して、データを同時にいくつか送り、同時に処理できる方法のことです。

液晶ディスプレイのUSBコネクタについてのご注意

液晶ディスプレイのUSBコネクタは本機のUSBコネクタをディスプレイケーブルで延長している構造となっております。液晶ディスプレイのUSBコネクタにUSBプリンタをつなぐときは以下の点にご注意ください。

- USBケーブルはできるだけ短いものをお使いください。2mを超えるUSBケーブルを使うと、本機やUSBプリンタが正しく動作しないことがあります。
- USBプリンタに直接電源コードをつなぎ、電源を供給することをおすすめします。USBプリンタによっては本機から電源を供給して使うと、本機やUSBプリンタが正しく動作しないことがあります。本機から電源を供給して使いたいときは、PC本体のUSBコネクタにUSBプリンタをつないでください。



次のページにつづく

周辺機器を接続する

ちょっと一言

USBプリンタは、機器または液晶ディスプレイのどのUSBコネクタにも接続できます。

プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。

詳しくはプリンタの取扱説明書およびWindows 2000のヘルプをご覧ください。

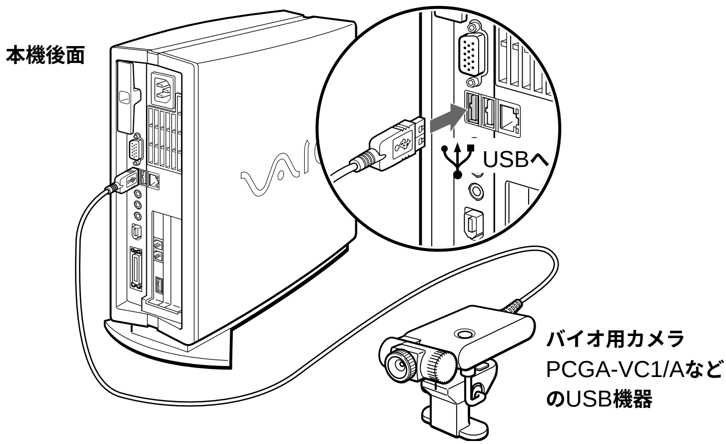
Windows 2000のヘルプを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックします。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

USB機器をつなぐ

本機のUSBコネクタを使って、バイオ用のカメラPCGA-VC1/AなどのWindows 2000に対応しているUSB機器をつなぐことができます。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



ちょっと一言

USB機器は、本機前面や後面または液晶ディスプレイのどのUSBコネクタにも接続できます。

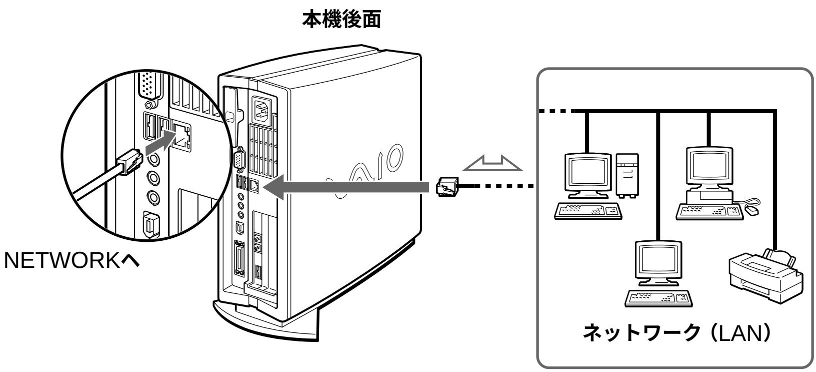
液晶ディスプレイのUSBコネクタについてのご注意

液晶ディスプレイのUSBコネクタは本機のUSBコネクタをディスプレイケーブルで延長している構造となっております。液晶ディスプレイのUSBコネクタにUSB機器をつなぐときは以下の点にご注意ください。

- USBケーブルはできるだけ短いものをお使いください。2mを超えるUSBケーブルを使うと、本機やUSB機器が正しく動作しないことがあります。
- USB機器に直接電源コードをつなぎ、電源を供給することをおすすめします。USB機器によっては本機から電源を供給して使うと、本機やUSB機器が正しく動作しないことがあります。本機から電源を供給して使いたいときは、PC本体のUSBコネクタにUSB機器をつないでください。

ネットワーク（LAN）を作る

本機後面のNETWORKコネクタとネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。



ご注意

- NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。
- 本機の電源が切れているとき、NETWORKコネクタにネットワークケーブルが接続されているとLANのランプが点灯しますが、本機の異常ではありません。

拡張ボードを増設する

本機では「拡張ボード」と呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分にあった作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCIリビジョン2.1」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows 2000とPCI規格に対応していることをご確認ください。
本機には空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1つあり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの大きさは、ショートサイズのものです。フルサイズの拡張ボードは取り付けられません。

増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。
VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I／Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。
キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じた割り込みした処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1　デスクトップ画面左上の （マイコンピュータ）を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2　［プロパティ］をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3　［ハードウェア］タブをクリックする。

「ハードウェア」画面が表示されます。

4　［デバイス マネージャ(D)...］をダブルクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

5　画面左上の［表示］をクリックして、表示されるメニューから［リソース（種類別）］または［リソース（接続別）］をクリックする。

現在使用中のリソースか種類別または接続別に表示されます。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

本機前面の電源ランプが消灯していることを確認してください。電源の切りかたについて詳しくは「電源を切る」（30 ページ）をご覧ください。

↓

拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」（164ページ）をご覧ください。

↓

電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは「電源を入れる」（28ページ）をご覧ください。

↓

ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、充分時間が経過したあとに行ってください。電源を入れたまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。

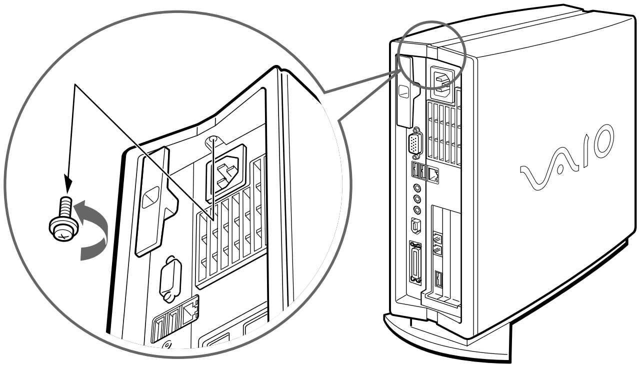
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

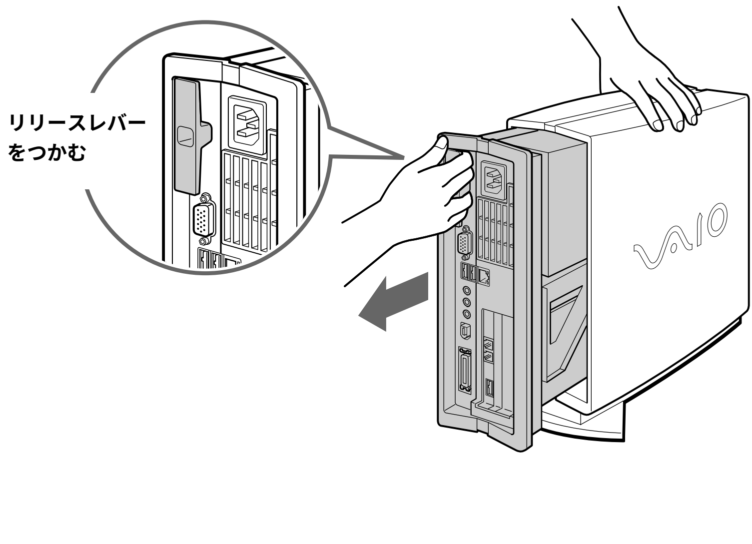
電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 **本機後面にあるネジをはずす。**

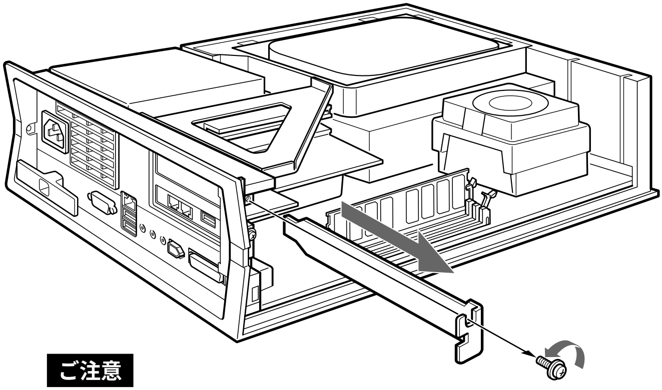


3 **本機のカバーを取りはずす。**

片手で本機をしっかり押さえながら、本機後面にあるリリースレバーを握って引っ張ってください。



4 **拡張ボードを取り付けるスロットのカバーのネジをはずし、カバーを取りはずす。**

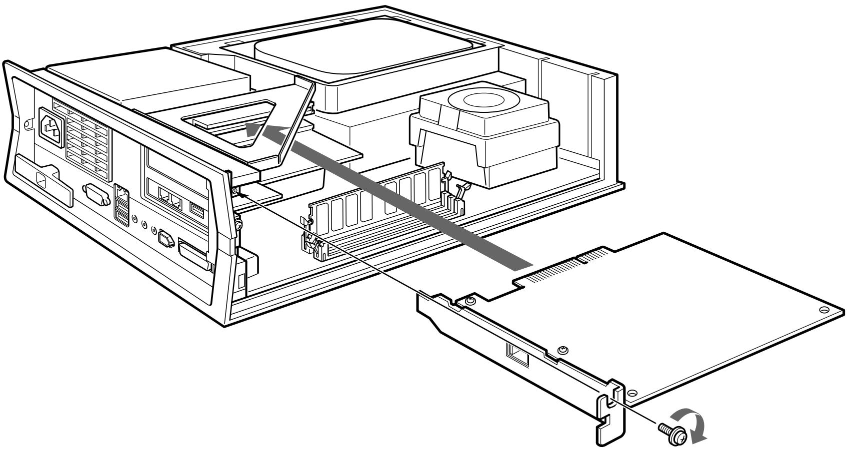


ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

5 **拡張ボードを取り付ける。**

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。



6 **本機のカバーを取り付け、ネジを取り付ける。**

7 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**

Windows 2000が起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

PCカードとは

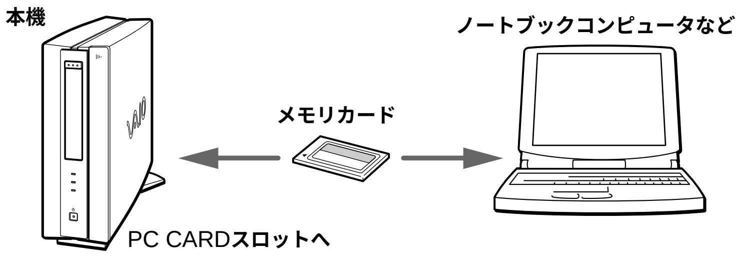
PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリカード

データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

フラッシュメモリとは

電気的にデータを読み書きする、記憶メディアのひとつです。普通、書き込み可能なメモリは、電源を切ると内容が消えてしまいますが、フラッシュメモリは電源を切っても内容が消えないという特徴をもっています。



SCSIカード

MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは

「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC CardタイプⅠとタイプⅡに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busにも対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ご注意

PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

- PC カードによっては、PC CARD スロットに挿入したまま本機の電源を入れると、正しく動作しないことがあります。この場合は、PC カードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう一度入れ直してください。PC カードの取り出しかたについて詳しくは、「PC カードを取り出すには」（170 ページ）をご覧ください。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

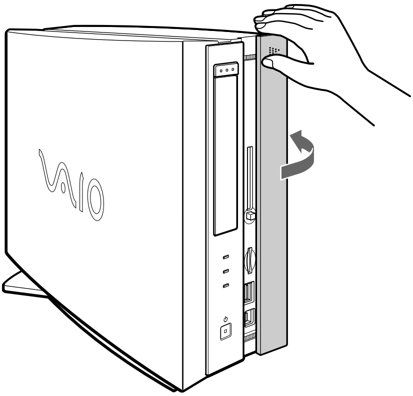
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を、正しく動かすために必要なソフトです。

PCカードを取り付ける

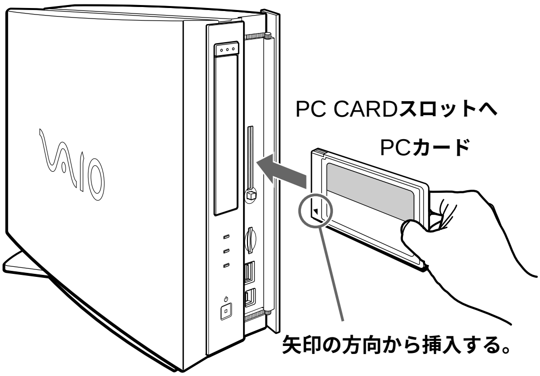
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 **本機の前面パネルのふたを開ける。**



2 **カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。**

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。
カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているとき（本機前面の ⏻（電源）ランプが消灯）は、手順1～5は不要です。本機がスタンバイモードのとき（本機前面の ⏻（電源）ランプがオレンジ色に点灯）は、キーボードの ☾（電源／スタンバイ）キーを押して本機を通常の動作モードに戻してから手順1～6を行ってください。

1 **デスクトップ画面右下のタスクトレイにある  をダブルクリックする。**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

2 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、[停止(S)] をクリックする。**

「ハードウェア デバイスの停止」画面が表示されます。

3 **取りはずすPCカードを確認し、[OK] をクリックする。**

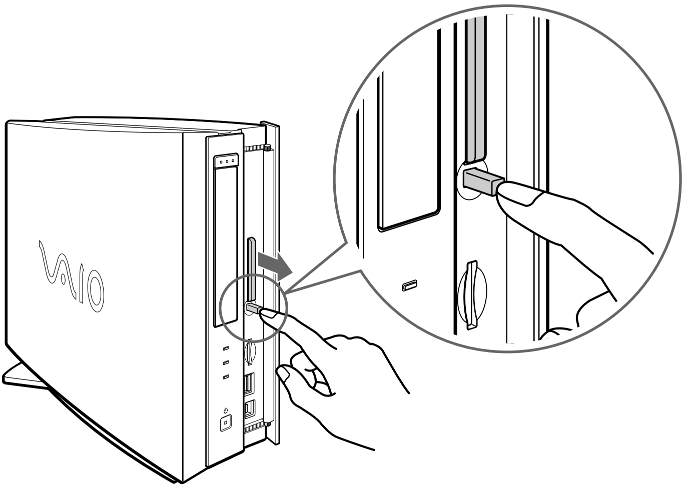
「…は安全に取り外すことができます。」画面が表示されます。

4 **[OK] をクリックする。**

5 **「ハードウェアの取り外し」画面の [閉じる] をクリックする。**

6 **PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。**

一度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう一度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

メモリを増設する

本機内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをお薦めします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
  メモリをご購入されたかた、またはご購入予定のかたで、ご自分で取り付けられない場合は、VAIOカスタマーリンクで有料取り付けサービスを承っております。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。

メモリモジュールを取り付ける

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、標準で128Mバイトのメモリが1枚装着されています。本機に取り付けられるソニー製のメモリーモジュールは、以下のものがあり、これらのメモリモジュールを増設したときのメモリの容量は以下のようになります。

容量	メモリーモジュール	増設後の容量
128Mバイト	PCVA-MM128S	256Mバイト
256Mバイト	PCVA-MM256S	384Mバイト

標準で装着されているメモリモジュールを取りはずし、PCVA-MM256S（別売り）を2枚取り付けて装着することにより、最大で512Mバイトまでメモリを増設することができます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

メモリモジュールを取り付けるときのご注意

メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源を入れたままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が破損することがあります。

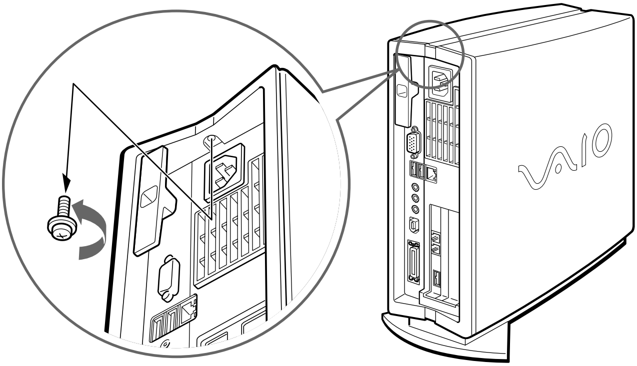
- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  – メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないようにしてください。
  – 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  – メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

ご注意

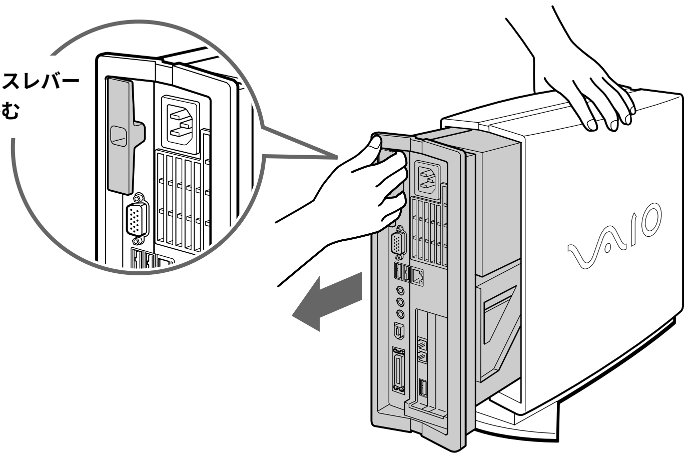
電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 **本機後面にあるネジをはずす。**



3 **本機のカバーを取りはずす。**

片手で本機をしっかり押さえながら、本機後面にあるリリースレバーを握って引っ張ってください。



4 **メモリモジュールを梱包から取り出す。**

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

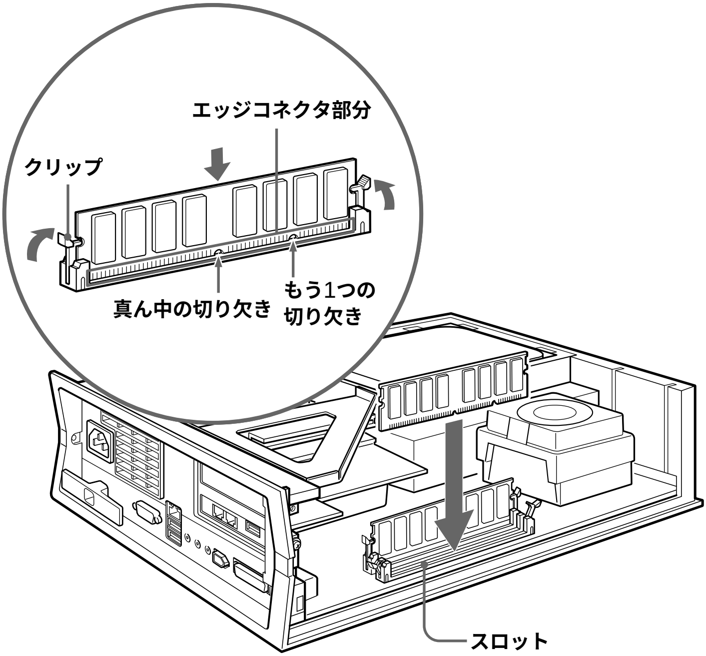
次のページにつづく

5 メモリモジュールを取り付ける。

メモリモジュールにはエッジコネクタ部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリモジュールのエッジコネクタ部分のもう1つの切り欠きがある方を右側にしてスロットに合わせる。

❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。



ご注意

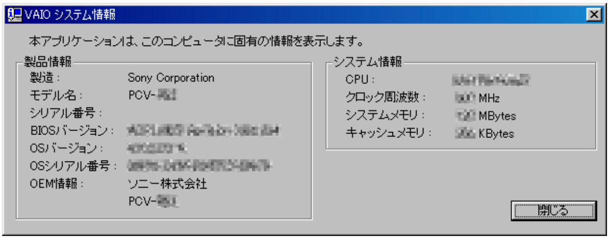
メモリモジュールを取りはずしたり、取り付けるときは、必ず本機を横にして作業してください。

6 **本機のカバーを取り付け、ネジを取り付ける。**

7 **手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。**

8 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］をクリックする。**

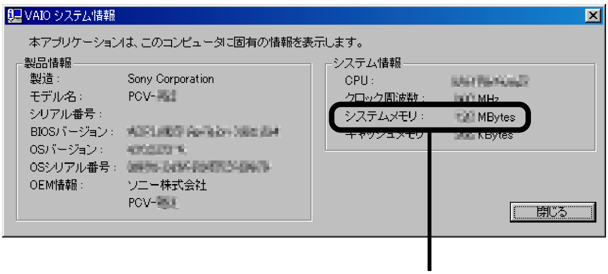
「VAIO システム情報」画面が表示されます。



9 **「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。**

メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。

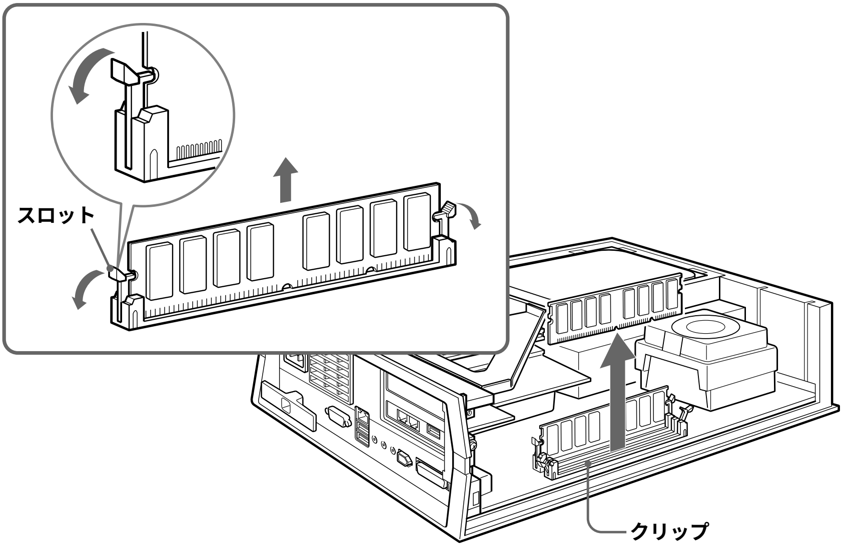
メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



ここを確認する。

メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



セットアップ編

操作環境を自分の好みに合わせる

本機の操作環境を自分の好みに合わせて変えることができます。例えば、画面の解像度を変えて表示するウィンドウや文字の大きさを変えたり、画面の背景やスクリーンセーバー（電源を入れたままでコンピュータを長時間使わないときに画面の焼き付きを防ぐために表示される画像）などを変えて、自分に合った環境で使うことができます。操作環境の変更は、Windows 2000のコントロールパネルで行います。

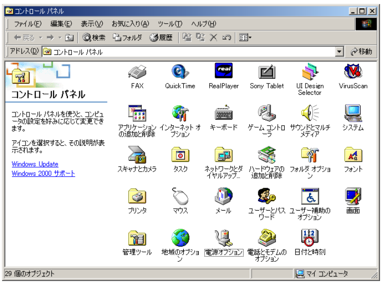
コントロールパネルとは

操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 2000に標準で装備されているツールです。

コントロールパネルを開くには、デスクトップ画面左下の 

をクリックし、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックします。

設定したい項目のアイコンをダブルクリックして項目の画面を表示させ、設定を変えます。



アイコン	できること
（キーボード）	キーボードの設定を変更できます。
（UI Design Selector）	ソニー製ソフトウェアのデザインを変更できます。（194ページ）
（サウンドとマルチメディア）	Windows 2000の起動時や終了時の音、警告音などを変更できます。
（日付と時刻）	本機に登録してある日付や時刻を変更できます。
（画面）	解像度を変更したり、画面の背景、スクリーンセーバーを変更できます。（179ページ）

ディスプレイの設定を変更する

画面の背景、スクリーンセーバー、ウィンドウの枠の色、デスクトップ画面上のアイコンのデザイン、アクティブデスクトップ、ディスプレイの解像度などの設定を変更するには以下の手順に従ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 （画面）をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［背景］、［スクリーンセーバー］、［デザイン］、［Web］、［効果］、［設定］の設定画面をそれぞれ選び、各種の設定を行う。

設定画面を選ぶときは、それぞれの画面のタブをクリックします。



4 設定が終了したら、 OK または 適用(A) をクリックする。

手順3で変更した設定が反映されます。

各画面の設定項目については、以下のページをご覧ください。

❑ **背景**（181**ページ**）
画面の背景について設定する画面です。

❑ **スクリーンセーバー**（182**ページ**）
スクリーンセーバー、省電力機能について設定する画面です。

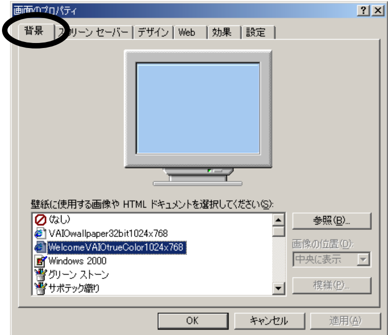
❑ **デザイン**（183**ページ**）
ウィンドウやメニューの枠の色について設定する画面です。

❑ Web（184**ページ**）
アクティブデスクトップについて設定する画面です。

❑ **効果**（185**ページ**）
アイコンを変更したり視覚効果を設定する画面です。

❑ **設定**（186**ページ**）
解像度や画面上の文字のサイズなどについて設定する画面です。

背景



❑ 壁紙

表示したい壁紙をクリックして選ぶ。選んだ壁紙が上のデスクトップ画面上にプレビュー表示される。

[参照]: クリックすると、壁紙にできる画像ファイルやアクティブデスクトップを使っているときのみインターネットドキュメント（HTML ファイル）を選ぶ画面が表示される。

画像の位置: 壁紙の表示位置を、▼をクリックしてリストから選ぶ。

中央に表示: 壁紙がデスクトップ画面の中央に表示される。

並べて表示: 壁紙がデスクトップ画面全体に表示される。

拡大して表示: 壁紙がデスクトップ画面全体に拡大されて表示される。

[模様]: クリックすると、デスクトップ画面に使用する模様を選択する画面が表示される。

壁紙とは

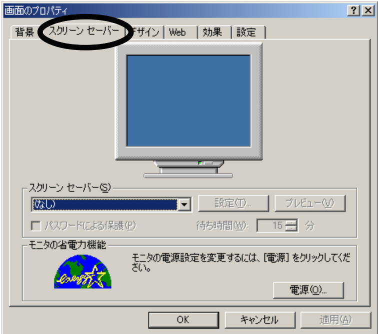
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

次のページにつづく

スクリーンセーバー



❑ スクリーンセーバー

(なし): 使用するスクリーンセーバーを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[設定]: クリックすると、選んだスクリーンセーバーを設定する画面が表示される。

[プレビュー]: クリックすると、設定したスクリーンセーバーが画面全体に表示される。

パスワードによる保護: ☐ をクリックして ☑ にすると、スクリーンセーバーがパスワードで保護される。

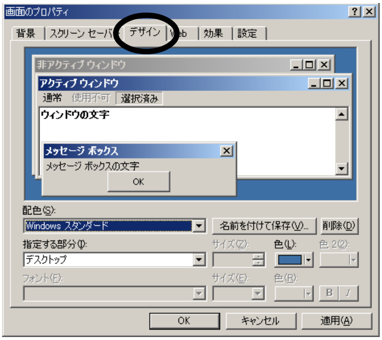
待ち時間: 本機を何分間使わなかったらスクリーンセーバーを画面に表示するかを ⬍ をクリックして選ぶ。

❑ モニタの省電力機能

[電源]: クリックすると、「電源オプションのプロパティ」画面が表示される。

スクリーンセーバーが設定されているときは、スクリーンセーバー実行後、「待ち時間」で設定した時間が経過すると、省電力機能が実行されます。

デザイン



❑ 配色

Windows スタンダード: 画面に表示されるウィンドウやメニューの枠の色を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

[名前を付けて保存]: クリックすると、作成した配色に名前をつけて登録する画面が表示される。

[削除]: 名前をつけて登録した配色を削除する。

❑ 指定する部分

デスクトップ: 「配色」の設定を有効にする部分を選ぶ。

サイズ: 指定する部分の大きさを ▲▼ をクリックして選ぶ。

色: 指定する部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

色2: 色を指定する部分が2つあるときに、もう1つの部分の色を ▼ をクリックして選ぶ。

❑ フォント

: 画面に表示されるウィンドウやメニューの文字の種類を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

サイズ: 文字の大きさを ▼ をクリックして選ぶ。

色: 文字の色を選ぶ。

B: クリックすると、文字が太くなる。

I: クリックすると、文字が斜体になる。

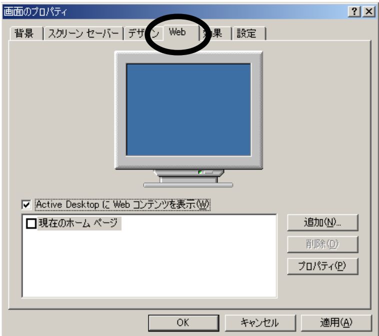
次のページにつづく

Web

アクティブデスクトップについて設定する画面です。

アクティブデスクトップとは

ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。



❑ Active Desktop**にWeb**コンテンツを表示

□ をクリックして ☑ にすると、アクティブデスクトップを使用するように設定される。

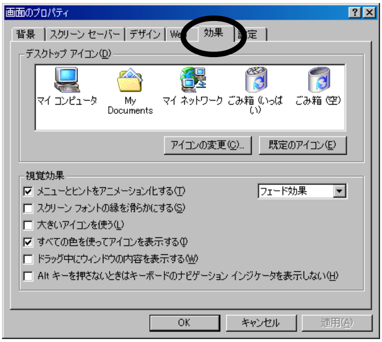
下のリストのアクティブデスクトップ項目の □ をクリックして ☑ にすると、表示するアクティブデスクトップ項目を選ぶことができます。

[追加]: 新しいアクティブデスクトップ項目を追加する。

[削除]: 指定したアクティブデスクトップ項目を削除する。

[プロパティ]: 指定したアクティブデスクトップ項目についての詳細が表示される。

効果



❑ デスクトップアイコン

変更したいアイコンをクリックして変更します。

[アイコンの変更]: クリックすると、変更できるアイコンの一覧の画面が表示される。

[既定のアイコン]: クリックすると、変更したアイコンをデフォルトのアイコンに戻す。

❑ 視覚効果

メニューとヒントをアニメーション化する: □ をクリックして ☑ にすると、画面やメニューの開きかたや閉じかたがアニメーションになる。

スクリーン フォントの縁を滑らかにする: □ をクリックして ☑ にすると、複雑な文字が見やすくなる。

ご注意

この項目をチェックすると、表示スピードが遅くなることがあります。

大きいアイコンを使う: □ をクリックして ☑ にすると、デスクトップ画面に表示されるアイコンに大きいアイコンを使用する。

すべての色を使ってアイコンを表示する: □ をクリックして ☑ にすると、アイコンを現在のディスプレイの種類と色の設定で使用できるすべての色を使って表示する。

ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する: □ をクリックして ☑ にすると、画面をドラッグするときに画面の内容を表示したままドラッグする。

Altキーを押さないときはキーボードのナビゲーション インジケータを表示しない: □ をクリックして ☑ にすると、メニューバー内のメニューやファイルをクリックしたときの表示方法が変更される。

次のページにつづく

設定



❑ ディスプレイ

接続されているディスプレイが表示される。

❑ 画面の色



：画面の表示色数を  をクリックしてリストから選ぶ。

ご注意

本機では「True Color (32ビット)」に設定してお使いになることをおすすめします。

❑ 画面の領域

スライダを左右に動かして画面の解像度を設定する。

ご注意

PCV-LX80/BPKでは1024×768ピクセルに、PCV-LX70/BPKでは1280×960ピクセルに設定してお使いになることをおすすめします。

❑ トラブルシューティング

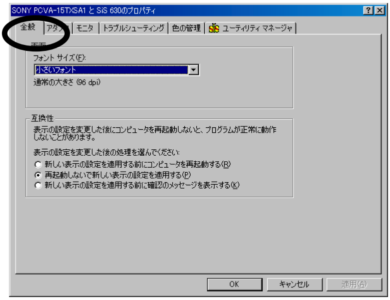
Windows 2000のヘルプが起動する。

❑ [詳細]

クリックすると、フォントサイズ、リフレッシュレート、ディスプレイを設定する画面が表示される。

［詳細］をクリックすると、以下のオプションを設定することができます。

全般

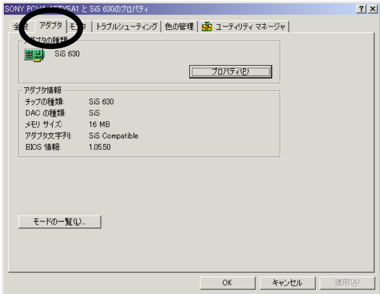


- **画面**
  フォントサイズ: 画面に表示される文字の大きさの大小を ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

- **互換性**
  ディスプレイの表示の設定を変更した後に適用する処理の ○ をクリックして ◉ にして選ぶ。

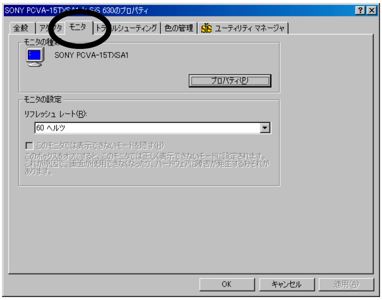
次のページにつづく

アダプタ



- **アダプタの種類**
  現在使用しているディスプレイアダプタの種類が表示される。
  ［プロパティ］: クリックすると、現在使用しているディスプレイアダプタのプロパティ画面が表示される。
- **アダプタ情報**
  現在使用しているディスプレイアダプタのハードウェアの情報が表示される。
- **［モードの一覧］**
  クリックすると、有効な画面モードの一覧が表示される。

モニタ



- **モニタの種類**

  現在接続されているディスプレイの名前が表示される。

  [プロパティ]: クリックすると、接続されているディスプレイを変更する画面が表示される。

- **モニタの設定**

  リフレッシュレート：変更したいリフレッシュレートを ▼ をクリックしてリストから選ぶ。

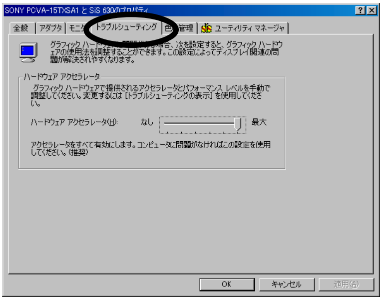
  リフレッシュレートとは

  コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことをリフレッシュレートと言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

このモニタでは表示できないモードを隠す：□ をクリックして ☑ にし、現在接続されているディスプレイでは正しく表示できないモードを選択できないようにする。

次のページにつづく

トラブルシューティング



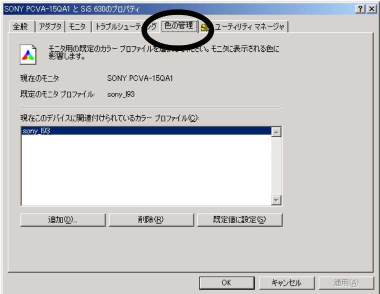
- **ハードウェアアクセラレータ**

  ハードウェアアクセラレータ: スライダを左右に動かして、ハードウェアアクセラレータの機能をどの程度使うか指定する。

ハードウェアアクセラレータとは

コンピュータの画面表示を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。通常は「最大」に設定してください。

色の管理



- **現在のモニタ**
  接続されているディスプレイの名前が表示される。

- **既定のモニタ プロファイル**
  接続されているディスプレイの設定のカラープロファイルの名前が表示される。

- **現在このデバイスに関連付けられているカラープロファイル**
  接続されているディスプレイに現在関連付けられているすべてのカラープロファイルの一覧が表示される。使用するプロファイルをクリックして選ぶ。

- **[追加]**
  クリックすると、このディスプレイに新しく関連付けたいカラープロファイルを選択する画面が表示される。

- **[削除]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを一覧から削除する。

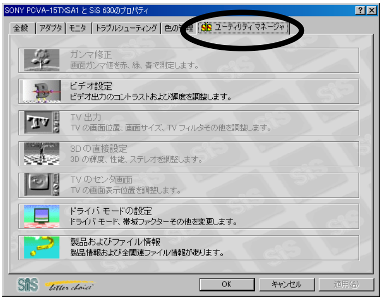
- **[既定値に設定]**
  クリックすると、選択したカラープロファイルを既定のカラープロファイルとして設定する。

プロファイルとは

Windows 2000のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

次のページにつづく

ユーティリティ マネージャ



ご注意

お使いの機種によって設定できる項目が異なります。

- **ガンマ修正**
  クリックすると、画面ガンマ値を赤、緑、青で補正できる。
- **ビデオ設定**
  クリックすると「ビデオ設定」画面が表示され、ビデオ出力のコントラストおよび明るさを調整できる。
- **TV出力**
  クリックすると、テレビの画面位置、画面サイズ、テレビフィルタなどを設定できる。
- **3Dの直接設定**
  クリックすると、3Dの輝度、性能、ステレオを調整できる。
- **TVのセンタ画面**
  クリックすると、テレビの画面表示位置を調整できる。
- **ドライバモードの設定**
  クリックすると「アドバンス設定」画面が表示され、ドライバモードなどを設定できる。
  他のモニタを接続したときは、「ドライバーモード」の をクリックして「ミラーモード」を選び、「セカンダリー」の をクリックしてモニタの種類を選んで、 をクリックしてその解像度などを選ぶ。

ご注意

ミラーモード時の解像度は1024×768ピクセル、16ビットが最高の設定です。

- **製品およびファイル情報**
  クリックすると、製品情報および全関連ファイルの情報が表示される。

アクティブデスクトップをWindows 2000のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が通常のデスクトップ画面になっています。「アクティブデスクトップ」とは、ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップです。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 2000のデスクトップ画面に表示しないように変更することもできます。

1 **デスクトップ画面左下の** 

をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

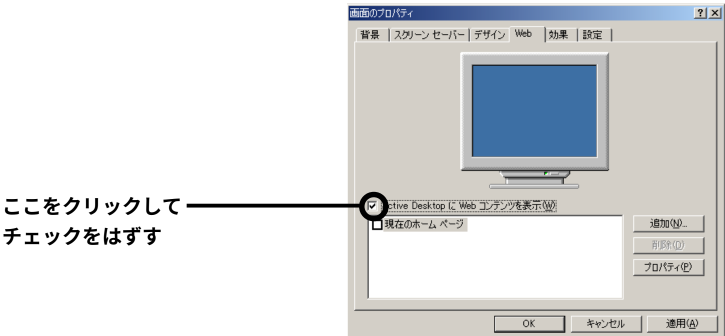
2  **（画面）をダブルクリックする。**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 ［Web］**タブをクリックする。**



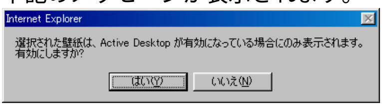
4 ［Active Desktop**にWebコンテンツを表示］の** ☑ **をクリックして** ☐ **にして、チェックをはずす。**



5 

をクリックする。

下記のメッセージが表示されます。



6 

をクリックする。

Windows 2000のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。

ウィンドウのデザインを変更する

「UI Design Selector」に対応したソニー製ソフトウェアのインターフェイスのデザインを好みに合わせて変更することができます。

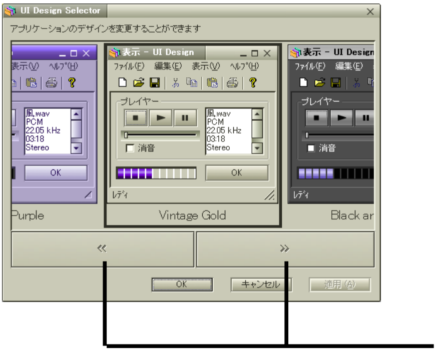
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (UI Design Selector) をダブルクリックする。

「UI Design Selector」画面が表示されます。

3 ［<<］または［>>］をクリックして、デザインを選ぶ。



ここをクリックしてデザインを選ぶ

4 適用 (A) をクリックする。

「UI Design Selector」画面のデザインが変わります。ソニー製ソフトウェアのウィンドウもこの画面と同じデザインになります。

5 デザインを選び直すときは、［<<］または［>>］をクリックする。

6 OK をクリックする。

ソニー製ソフトウェアの画面のデザインが変更され、「UI Design Selector」画面が閉じます。

省電力機能の設定を変更する

本機には、いくつかの省電力機能のモードが用意されています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

通常モード（本機の電源ランプ：緑色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

通常の動作モードですが、ディスプレイの電源を切り、消費電力を節約することができます。
「画面のプロパティ」画面の「スクリーンセーバー」タブの「モニタの省電力機能」で設定します。詳しくは、182ページをご覧ください。

スタンバイモード（本機の電源ランプ：オレンジ色に点灯、ディスプレイの電源ランプ：オレンジ色に点灯）

❑ **システムアイドルモード**
一時的にシステム全体の動作を停止し、消費電力を節約できます。このモードのときは本機内部の主電源部のファンはゆっくりと回転しています。

❑ **システムサスペンドモード**（Suspend to RAM）**（お買い上げ時の設定）**
現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。長時間、本機を使用しないときなど、消費電力を節約するときに便利です。
最低限必要なデバイス以外の電源を切るため、上記のシステムアイドルモードに比べて、より消費電力を節約することができます。
このモードに入ると、本機の主電源が切れ、内部の主電源部のファンは停止します。

次のページにつづく

システムアイドルモードとシステムサスペンドモード（Suspend to RAM）を切り換えるには

スタンバイモードの設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

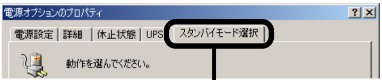
1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

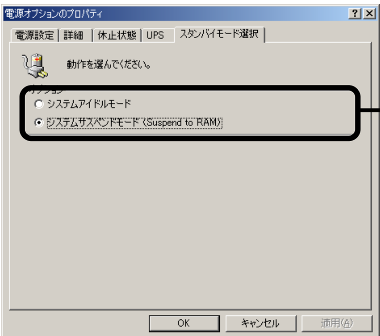
2 （電源オプション）をダブルクリックする。

「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［スタンバイモード選択］タブをクリックする。



4 使用するスタンバイモードを選ぶ。



5 ［OK］または［適用(A)］をクリックする。

ご注意

- PCI規格の拡張ボードによっては、システムサスペンドモード（Suspend to RAM）に対応していないものがあります。この場合は、システムアイドルモードに変更してからご使用ください。
- ソフトウェアによってはスタンバイモードに対応していないものがあります。この場合は、使用中のソフトウェアを終了させてからスタンバイモードに入ってください。
- システムサスペンドモード（Suspend to RAM）時には消費電力を抑えているため、本機のUSBコネクタに接続したUSB機器には電源が供給されません。本機を通常の動作モードに戻したとき、接続しているUSB機器の数および種類によっては、本機が正しく認識できないことがあります。この場合には、スタンバイモードをシステムアイドルモードにして本機を使用するか、USB機器をいったん取りはずしてからスタンバイモードにしてください。

困ったときは

トラブルを解決するには

トラブルが発生したら、あわてずに下記の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1 「主なトラブルとその解決方法」をチェックする

202ページをご覧になり、お使いのコンピュータの症状に合うものがないか確認してください。

手順2 取扱説明書やヘルプで調べる

- 本書や別冊の「はじめにお読みください」
- ソフトウェアのオンラインマニュアルやヘルプ
- Windows 2000のヘルプ

  デスクトップ画面左下の 

 をクリックし、[ヘルプ] をクリックして、Windows 2000のヘルプを表示させます。

付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを使うと、上記のマニュアルやVAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから自動的にその解決方法を検索できます。
使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

手順3 VAIOカスタマーリンクのホームページを確認する

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。
VAIOカスタマーリンクホームページ　http://vcl.vaio.sony.co.jp/

手順4 VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる

次ページのお問い合わせ先にご相談ください。

以下のお問い合わせ先にご相談ください。

> VAIO**カスタマーリンク**
>
> **電話番号**
>
> (0466) 30-3000
>
> **受付時間**
>
> 平日　10時〜20時
> 土、日、祝日　10時〜17時
> (年始年末は除く)
>
> 一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。
>
> - お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
> - 付属のソフトウェアについては、別冊の「ご確認ください」をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。
> - 本機のご購入日から90日間無料。それ以後は、有償でのサポートメニュー「サポートプラス」をご用意しております。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

①お客様のVAIO**カスタマー**ID
②本機の**型名**：PCV-LX80/BPK, LX70/BPK
③本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④カスタマー登録していただいた時の**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥表示された**エラーメッセージ**
⑦本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩その他お気付きの点

修理の場合は

⑪VAIOカルテ（修理をお申込みになる時）
⑫筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動後または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（30ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

トラブルの内容	参照ページ
電源	203ページ
ディスプレイ	205ページ
スピーカー	205ページ
マウス	205ページ
フロッピーディスク	206ページ
ハードディスク	207ページ
CD-ROM／CD-RW／CD-R	208ページ
文字入力	209ページ
i.LINK	210ページ
モデム／インターネット	210ページ
Windowsのメッセージ	212ページ
その他	213ページ

⏻ 電源

電源が入らない。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入ってるかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 「「スタート」メニューから［シャットダウン］を選んでも電源がきれないときは」（31ページ）の操作を行ってください。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 2000は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（30ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［シャットダウン］を選んでも、「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsのシャットダウン」画面を表示させ、［シャットダウン］をクリックして選び、［OK］をクリックしてください。

Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

次のページにつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して⏻（電源）ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safeモードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（30ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードに移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。（32ページ）再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「Non-system disk or disk error. Replace and strike any key when ready.」というメッセージが出る。

→ 本機に取り付けたUSBフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ 本機に取り付けたUSBフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（219ページ）および「パーティションサイズを変更する」（226ページ）をご覧ください。

▢ ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源が入っているか確認する。

→ ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。

画面が暗い。

→ ディスプレイの ☼（明るさ調節）ダイヤルで調整する。

スピーカー

音が出ない。

→ 本機とディスプレイがしっかり接続されているか確認する。

→ ディスプレイの内蔵スピーカーの音量が最小になっている。◿（音量調節）ダイヤルで音量を上げる。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーのオーディオケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下の タスクトレイの （スピーカーアイコン）をダブルクリックして、音量を上げる。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

次のページにつづく

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。（237ページ）

→ キーを押して「スタート」メニューを表示させ、PgUp キーまたは PgDn キーを押して［シャットダウン］を選んで、Enter（エンター）キーを押す。そのあと PgUp キーまたは PgDn キーで［再起動する］を選び Enter（エンター）キーを押して再起動する。

→ キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを起動している。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクを認識しない。

→ 本機とUSBフロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認する。

→ フロッピーディスクをUSBフロッピーディスクドライブからいったん取り出し、入れ直してみる。

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 80ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(84ページ)

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(84ページ)

→ 本機に取り付けたUSBフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクがきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(219ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(219ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ 本機に取り付けたUSBフロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ CD-RWドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(219ページ) をご覧ください。

次のページにつづく

CD-ROM／CD-RW／CD-R

CD-ROMが再生されない、または音楽CDの再生時、音がとぎれる。

→ CD-ROMをCD-RWドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくCD-RWドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を外側にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

→ 使用できないディスクの可能性があります。「再生できるディスク」（60ページ）をご覧ください。

CD-Rに書き込めない。

→ CD-Rは一度書き込むと書き換えはできません。

→ CD-Rはディスクがいっぱいになると、一度書き込んだデータを削除しても空き容量は増えません。

CD-RW／CD-Rへの書き込み時にデータの書き損じが起こる。

→ データの書き込み前に準備を行う。詳しくは、「データを記録する前にお読みください」（61ページ）をご覧ください。

書き込んだCD-RW／CD-Rが他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み込めない。

→「Direct CD」ソフトウェアで書き込んだCD-RW／CD-Rは、他のコンピュータのCD-ROMドライブで読み出すための設定が必要です。詳しくは、「「Direct CD」ソフトウェアを使ってデータを記録する」（65ページ）をご覧ください。

CD-RWを使用して作成した音楽CDがCDプレーヤーで再生できない。

→ CD-RWを使用して作成した音楽CDはCD-RWに対応しているドライブでのみ再生できます。

CD-RW／CD-Rが取り出せない。

→ CD-RW／CD-RはOPEN／CLOSEボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。取り出しかたについては「Direct CD」または「Easy CD Creator」ソフトウェアのオンラインマニュアルをご覧ください。

CD-RW／CD-Rへのデータ書き込み時にデータの書き損じが起こる。

→「データを記録する前にお読みください」（61ページ）をご覧ください。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字を入力をする」（45ページ）をご覧ください。

全角の「〜」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（46ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまで [ ]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~^] を押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選んで、[Shift]（シフト）キーを押しながら [~^] キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）画面のどこかをクリックするか、[Alt]（オルト）キーと [Tab]（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（画面の上の部分が青い色になります）。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字が入力できない場合は、キーボード右上の Num Lock（ナム・ロック）ランプが消灯していないかを確認してください。消灯しているときは、数字キーは矢印キーやコレクションキーと同じ働きをします。[NumLk ScrLk]（ナム・ロック）キーを押して、ランプを点灯させてから数字を入力してください。

→ 「コントロールパネル」ウィンドウの中の （システム）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブでキーボードの項目が「106日本語（A01）キーボード（[Ctrl]＋英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

次のページにつづく

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画を繰り返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。（32ページ）

モデム／インターネット

内蔵モデム／インターネット接続のトラブルについて詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」の「困ったときは」をご覧ください。

本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

→ 本機やターミナルアダプタが電話回線に正しく接続されているか確認する。

→ お使いの電話回線が、PBXなどの交換機や他の通信機器を経由していないか確認する。

→ お使いの内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認する。

→ 「オンラインカスタマー登録」ソフトウェアの使用時にISDN回線に接続していないか確認する。

→ 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードを使う。

→ 本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへテレホンコードがしっかりと奥まで接続されているか確認する。

→ 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげない。

本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

→ ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認する。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号を確認する。

→ 発信音を待ってダイヤルする設定になっている場合は設定を解除する。

→ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかります。3分以上時間をおいてからかけ直してください。

モデムやターミナルアダプタは発信しているが接続できない。

→ 電話回線の状態が良くなかったり、電話回線が混み合っている場合は、時間帯をずらして再度接続してみる。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の回線の状態が良くなかったり、回線が混み合っているか接続先のモデムが不調な場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみる。

→ 「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など他の電話番号に接続できるか試す。

→ お使いのソフトウェアの設定を確認する。

→ 内蔵モデムの通信速度を遅くしてから接続してみる。

ユーザー名やパスワードなどがプロバイダのサーバーによって認証されない。

→ ユーザー名やパスワードが正しく設定されているか確認する。

→ ユーザー名やパスワードを忘れた場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認するか、プロバイダにお問い合わせください。

→ 別冊の「はじめてのインターネット！」の「チェックシートを作成する」で作成したチェックシートを見て、ダイヤルアップネットワークの設定内容が正しいか確認する。

→ ダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから接続してみる。

ウェブブラウザ（「Intermet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

→ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定が正しいか確認する。

→ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLが正しいか確認する。

電子メールをやりとりできない。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

次のページにつづく

Windowsのメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（84ページ）

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ 本機に取り付けたUSBフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

「CMOS battery faild」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「CMOS checksum Error-Defaults loaded」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。詳しくは「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」の「Load Setup Defaults」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（16ページ）をご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

その他

ファンの音が急に大きくなった。

→ 本機内部のファンは自動制御されています。大きなCPUのパワーを使うソフトウェアをお使いになったり、周囲の温度が高い場所で本機をお使いの場合は、ファンの回転が速くなり、音が大きく聞こえるようになります。

本機は風通しの良いところに設置されることをおすすめします。

その他

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
また、本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「VShield」が働かないよう設定されています。この機能をご利用になるには、次ページの手順に従って操作してください。
また、本機能をご利用になる場合は、218ページの注意事項もあわせてご覧ください。
なお、「VirusScan」、「VShield」について詳しくは「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポート
電話番号：(03) 5428-1101

ご注意

次ページの手順を行うには、管理者権限（Administrators）のユーザーでログオンしている必要があります。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［設定］にポインタを合わせ、［コントロール パネル］をクリックする。**

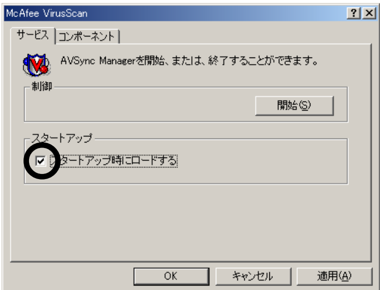
「コントロール パネル」ウィンドウが表示されます。

2 **（VirusScan）をダブルクリックする。**

「McAfee VirusScan」画面が表示されます。

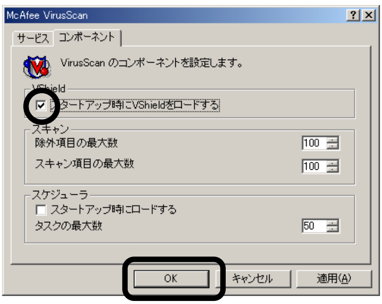


3 **［スタートアップ時にロードする］をクリックしてチェックする。**



4 **［コンポーネント］タブをクリックする。**

5 **［スタートアップ時にVShield をロードする］をクリックしてチェックし、 OK をクリックする。**



その他

次のページにつづく

「VShield」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VShield」を有効にすることにより、Windowsの起動時間が長くなる場合があります。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧ください。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。
なお、再セットアップ後に、付属のOffice 2000 Personalプレインストール パッケージでMicrosoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールし直してください。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。詳しくは「パーティションサイズを変更する」（226ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 2000だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。また、再セットアップ後に付属のOffice 2000 Personal プレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールし直してください。上記の操作を行わないと、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

保存しているデータは、次の方法で残しておくことができます。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。
  本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順4で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

「再セットアップする」の手順4で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- 別売りのUSBフロッピーディスクドライブを取りつけている場合は、取りはずしてください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。

Windows 2000が完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（223ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」(226ページ)をご覧ください。

ご注意

再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **本機の電源が入っている状態で、PCV-LX80/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 3」をCD-RWドライブに入れる。**

入れかたについて詳しくは、「ディスクを入れる」（54ページ）をご覧ください。

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。

2 **内容をよく読み、[次へ(N) >] をクリックする。**

3 **引きつづき内容をよく読んでから［同意する］をクリックし、[次へ(N) >] をクリックする。**

「メニュー選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

［同意しない］をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

4 **再セットアップの方法を選んで、をクリックしてにし、[次へ(N) >] をクリックする。**

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

5 **画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」のをクリックしてにし、[完了] をクリックする。**

再セットアップを中止するときは、[キャンセル] をクリックします。

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。

6 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、PCV-LX80/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 3」をCD-RWドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

7 **画面の指示に従って操作する。**

8 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

ちょっと一言

PCV-LX80/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 4 of 4」またはPCV-LX70/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

9 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」の手順に従って、Windows 2000をセットアップをする。**

10 **Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、

OK をクリックしてください。

11 **付属のOffice 2000 Personalプレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールする。**

Office 2000 Personal プレインストール パッケージには、2枚のCD-ROMが付属しています。次ページの手順でインストールしてください。

詳しくはパッケージに付属の活用ガイドをご覧ください。

① **「Microsoft® Office 2000 Personal」CD-ROMで、Office 2000 Personalをインストールする。**

「インストールの準備」画面が表示されたら、［カスタマイズ］をクリックしてください。さらに、「機能の選択」画面が表示されたら、「Microsoft Office」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから［マイコンピュータから全て実行］をクリックしてください。

② **再起動完了後、「Bookshelf® Basic」CD-ROMで、Microsoft/Shougakukan Bookshelf® Basicをインストールする。**

Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

1 **PCV-LX80/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 1 of 3」をCD-RWドライブに入れる。**

入れかたについて詳しくは、「ディスクを入れる」（54ページ）をご覧ください。

2 **Windows 2000が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**

Windows2000の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（30ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。**

しばらくするとCD-RWドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 **「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。**

メニュー画面が表示されます。

次のページにつづく

5 再セットアップの方法を選び、[Enter]（エンター）キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

6 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、[Y ん] キーを押して [Enter]（エンター）キーを押してください。

7 「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、PCV-LX80/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システムリカバリ CD-ROM Vol. 2 of 3」をCD-RWドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

8 画面の指示に従って操作する。

9 「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ちょっと一言

PCV-LX80/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 4 of 4」またはPCV-LX70/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

10 別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」の手順に従って、Windows 2000をセットアップをする。

11 Windows 2000**のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ** CD-ROM**」を**CD-RW**ドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

12 付属の Office 2000 Personal**プレインストール パッケージで、**Microsoft® Office 2000 Personal**のすべての機能をインストールする。**

Office 2000 Personal プレインストール パッケージには、2枚のCD-ROMが付属しています。下記の手順でインストールしてください。

詳しくはパッケージに付属の活用ガイドをご覧ください。

① **「**Microsoft® Office 2000 Personal**」**CD-ROM**で、**Office 2000 Personal**をインストールする。**

「インストールの準備」画面が表示されたら、［カスタマイズ］をクリックしてください。さらに、「機能の選択」画面が表示されたら、「Microsoft Office」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから［マイコンピュータから全て実行］をクリックしてください。

② **再起動完了後、「**Bookshelf® Basic**」**CD-ROM**で、**Microsoft/Shougakukan Bookshelf® Basic**をインストールする。**

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。詳しくは、「BIOSセットアップマニュアル」の「Exitメニュー」の「Load Setup Defaults」をご覧ください。「BIOSセットアップマニュアル」はデスクトップ画面上でお読みいただけます。詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（16ページ）をご覧ください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 2000はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやCD-RW／CD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **「再セットアップする」（220ページ）の手順1～3を行う。**

2 **再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズの変更」を選んで、 をクリックして にし、 [次へ(N) >] をクリックする。**

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。
[詳細情報] をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **一覧からパーティションサイズを選び、 [次へ(N) >] をクリックする。**

「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されます。

4 **「リカバリを開始する」の をクリックして にし、[完了] をクリックする。**

再セットアップを中止するときは [キャンセル] をクリックします。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、PCV-LX80/BPKでは「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 3」をCD-RWドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **画面の指示に従って操作する。**

7 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

ちょっと一言
PCV-LX80/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 4 of 4」またはPCV-LX70/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

次のページにつづく

8 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」の手順に従って、Windows 2000をセットアップをする。**

9 **Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、［OK］をクリックしてください。

10 **付属のOffice 2000 Personalプレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールする。**

Office 2000 Personal プレインストール パッケージには、2枚のCD-ROMが付属しています。下記の手順でインストールしてください。

詳しくはパッケージに付属の活用ガイドをご覧ください。

① **「Microsoft® Office 2000 Personal」CD-ROMで、Office 2000 Personalをインストールする。**

「インストールの準備」画面が表示されたら、［カスタマイズ］をクリックしてください。さらに、「機能の選択」画面が表示されたら、「Microsoft Office」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから［マイコンピュータから全て実行］をクリックしてください。

② **再起動完了後、「Bookshelf® Basic」CD-ROMで、Microsoft/Shougakukan Bookshelf® Basicをインストールする。**

Windows 2000が完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには

1 **「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」(223ページ)の手順1〜4を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「パーティションサイズの変更...」を選び、［Enter］(エンター)キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。

［Esc］(エスケープ)キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、[Enter]（エンター）キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、[N] キーを押してから [Enter]（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときは [Y] キーを押し、[Enter]（エンター）キーを押してください。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、PCV-LX80/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 4」を、PCV-LX70/BPKでは付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 3」をCD-RWドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

6 **画面の指示に従って操作する。**

7 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って、「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

ちょっと一言

PCV-LX80/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 4 of 4」またはPCV-LX70/BPKの「システム リカバリ CD-ROM Vol. 3 of 3」にはドライバなどが収められています。本機を再セットアップする際は使用しません。

8 **別冊の「はじめにお読みください」の「Windows 2000を準備する」の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。**

9 **Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をCD-RWドライブに入れる。**

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK] をクリックしてください。

次のページにつづく

10 付属のOffice 2000 Personalプレインストール パッケージで、Microsoft® Office 2000 Personalのすべての機能をインストールする。

Office 2000 Personal プレインストール パッケージには、2枚のCD-ROMが付属しています。下記の手順でインストールしてください。

詳しくはパッケージに付属の活用ガイドをご覧ください。

① **「Microsoft® Office 2000 Personal」CD-ROMで、Office 2000 Personalをインストールする。**

「インストールの準備」画面が表示されたら、[カスタマイズ] をクリックしてください。さらに、「機能の選択」画面が表示されたら、「Microsoft Office」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから [マイコンピュータから全て実行] をクリックしてください。

② **再起動完了後、「Bookshelf® Basic」CD-ROMで、Microsoft/Shougakukan Bookshelf® Basicをインストールする。**

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。
液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイの画面上に常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。
液晶パネルは非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

タブレットの取り扱いについて（PCV-LX80/BPKのみ）

- ガラスの表面をカッターや鋭利な刃物で傷つけないでください。汚れを落とすときは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、息をかけながら乾いた布で拭き取るか、水で少し湿らせた布で軽く拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジン、アセトン、アルコールなど有機溶剤はガラスを傷めることがありますので、使わないでください。また、付属のペン以外でガラス表面に触れないでください。
- 本機の近くにAMラジオは置かないでください。本機とAMラジオの周波数がお互いに干渉して双方で障害が発生します。本機とAMラジオは充分に距離をとって置いてください。
- タブレットを長時間使用していると、ガラスの表面の温度が高くなることがあります。低温やけどの原因になりますので、長時間使用しないでください。長時間使用するときは、液晶ディスプレイ右上の ☼（明るさ調節）ダイヤルを使って画面の明るさを下げてからご使用ください。また、「コントロールパネル」ウィンドウの （電源オプション）をダブルクリックして表示される「電源オプションのプロパティ」画面の「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」の時間設定は変更しないでください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

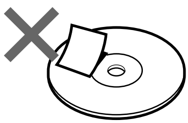
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをお読みください。

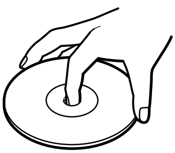
CD-ROM／CD-RW／CD-Rの取り扱いについて

CD-ROM／CD-RW／CD-Rに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。CD-RW／CD-Rは記録面が汚れるとデータの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- CD-RWやCD-Rのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと、記録面を傷つけ、データの書き込みができなくなることがあります。

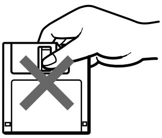
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

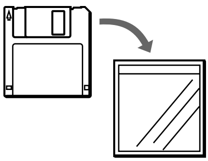
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。

次のページにつづく

- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
- 本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。また、本機のお買い上げ時の設定では、システムを自動監視する「VShield」が働かないように設定されています。この機能をご利用になるには、「コンピュータウイルスについて」（216ページ）の手順に従って操作してください。
- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」および「VShield」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポート
  電話番号：(03) 5428-1101

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。
データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 2000用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

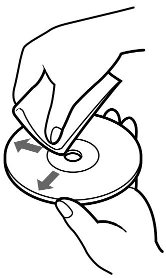
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切ってからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



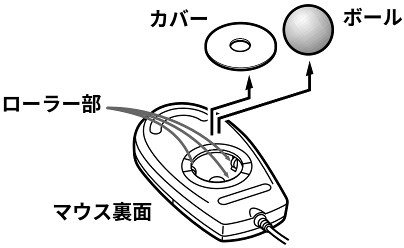
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

CD-RW／CD-Rのお手入れ

- CD-RW／CD-Rは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、マウスをキーボードから取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

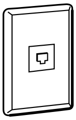
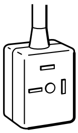
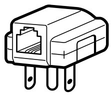
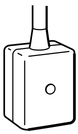
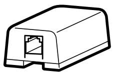
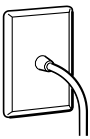
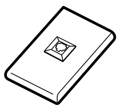
- **型名：**PCV-LX80/BPK, LX70/BPK
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。設置場所のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
モジュラ型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31 

[1] 直付けタイプからモジュラジャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

[2] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

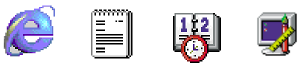
ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

用語集

五十音順

ア

アイコン
画面上に表示されるソフトウェア、文書や画像などを表す絵記号のことです。それぞれに固有のデザインがあり、直感的にわかりやすくなっています。



アクティブウインドウ
複数のウィンドウがデスクトップ画面上に開いているときに、作業中のウィンドウのことを言います。

アクティブデスクトップ
ホームページなど、インターネットのさまざまな情報を常に表示しておき、インターネットに簡単にアクセスできるデスクトップのことです。

アニメーションGIF形式
米CompuServe社が作った画像データ形式であるGIF形式の画像を複数集めて、動画にしたときのファイル形式です。

アプリケーションソフトウェア
→「ソフトウェア」をご覧ください。

イーサネット
複数のコンピュータをネットワーク(LAN)でつないだときのコンピュータ間のデータ通信方式です。

インストール(プリインストール)
ソフトウェアなどをコンピュータにコピーして組み込むことです。「プリインストール」とは、ソフトウェアなどがお買い上げ時にインストールしてあることです。

インターネットサービスプロバイダ
インターネットへの接続サービスなどを提供する業者のことです。

インフォメーションランプ
電子メールを受信したことを知らせてくれる表示ランプです。電子メールを受信すると、液晶ディスプレイ右上にあるランプが点灯します。

ウイルス
→「コンピュータウイルス」をご覧ください。

ウィンドウ
デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域のことで、フォルダの内容などが表示されます。ソフトウェアを使って文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

エクスプローラ
コンピュータの内容(ファイルやフォルダ)をツリー図で表示する機能のことです。作成したファイルなどが本機のどこに保存されているか、一目で確認できます。

オーバーレイ
CPU(246ページ)のプログラム領域に入りきれないような大きなプログラムを実行するときに、プログラムをいくつかのブロックに分けて、必要なブロックを次々にCPUに読み込ませて、実行するための方法のことです。

オンラインマニュアル
本書や別冊の「はじめにお読みください」などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアを使ってデスクトップ画面上に表示させ、読むことができます。

カ

カーソル
デスクトップ画面上で、文字や絵を挿入する位置を示す記号のことです。現在の位置を示すために点滅していることもあります。何か入力すると、カーソルの位置にその入力したものが挿入され、カーソルはその分移動して、次の挿入位置へと移動します。



壁紙
デスクトップ画面の背景を飾る画像のことです。好きな壁紙を選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」(169ページ)をご覧ください。

コントロールパネル
操作環境やハードウェアの環境を設定するためにWindows 2000に標準で装備されているツールです。詳しくは、「コントロールパネルとは」(178ページ)をご覧ください。

コンピュータウイルス
コンピュータの内容を破壊するプログラムのことです。単に「ウイルス」とも言います。インターネットなどの通信や、フロッピーディスクなどの記録メディアからコンピュータに感染します。コンピュータウイルスの侵入を監視するソフトウェアを使用することにより、感染を未然に防ぐことができます。本機には「VirusScan」ソフトウェアがインストールされています。また、感染したコンピュータウイルスを退治するには、「ワクチンプログラム」を使用します。

サ

周辺機器
プリンタやUSB機器など、コンピュータに接続する機器全般のことです。

ショートカット
ソフトウェアやファイルなどの分身を作ること、または分身そのもののことです。よく使うソフトウェアやファイルなどのショートカットをデスクトップ画面上に置いておくと、探す手間が省けて便利です。

ショートカットメニュー
マウスを右クリックして表示されるメニューのことです。クリックした状況に応じて、よく使われる機能を素早く選ぶことができます。

初期化
「フォーマット」とも言います。フロッピーディスクやハードディスクにデータの書き込みができるようにする作業のことです。データが保存されているディスクを初期化するとデータが消去されてしまうので注意が必要です。ハードディスクの中身をすべて消去してお買い上げ時の状態に戻したいときは、付属のリカバリ CDを使って初期化することができます。

スクリーンセーバー
電源を入れたまま長時間使わない状態の画面を、保護するためのソフトウェアのことです。同じ画面のまま長時間放置すると、輝いている部分の蛍光塗料が劣化して、その部分のみ発光しなくなったり、跡が残ったりするのを防ぎます。長時間、コンピュータへの入力がないときに自動的に起動して、画面を暗くしたり、模様を描いたりします。何かコンピュータへの入力(キーボードやマウスの操作など)を行えば自動的に解除し、元の画面に戻ります。
好きなスクリーンセーバーを選んで使用することができます。詳しくは、「ディスプレイの設定を変更する」(179ページ)をご覧ください。

スライダ
音量などを連続的に変えるための入力装置のことです。通常はマウスで操作します。

ソフトウェア
コンピュータを動かすための電子の信号でできた命令のかたまりのことです。略して「ソフト」とも言います。ソフトウェアには大きく分けて「基本ソフトウェア」(「OS」も参照)と「アプリケーションソフトウェア」があります。
「基本ソフトウェア」にはWindows 2000やMS-DOSなどがあります。「アプリケーションソフトウェア」は、「アプリケーション」または「ソフトウェア」、「プログラム」と呼ばれ、基本ソフトウェアの下で特定の目的のための機能を提供するソフトウェアです。「アプリケーションソフトウェア」にはワープロソフトや表計算ソフトなどがあります。
本書では、「アプリケーションソフトウェア」のことを「ソフトウェア」と表記しています。

タ

タスクトレイ
デスクトップ画面の右下の部分です。本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindows 2000の機能が表示されています。

タスクバー
初期状態でデスクトップ画面下辺に表示される横長の棒(バー)のことです。バーの左端にあるスタートボタンより各ソフトウェアを起動します。また、使用中のソフトウェアやフォルダがボタン化されて、横に並んだ状態で表示されますので、ボタンをクリックすることにより、ウィンドウの切り替えができます。

断片化
「フラグメンテーション」とも言います。
ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

チェックボックス
ウィンドウの中に表示される、チェック用の図形のことです。をクリックするとになり、選択されたことを示します。

チルダ
「~」と書く半角記号です。インターネットのホームページのアドレスを記入するときによく使う記号です。

デスクトップ
コンピュータを起動したときに表示される画面のことです。

デバイス
コンピュータに接続して使用するディスクやプリンタなどの装置のことです。

デフラグ(最適化)
ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ(最適化)により、データの読み出しや書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

電子メール
「Eメール」とも言います。
インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムのことです。実際の郵便と比べて、相手にメッセージが届くまでの時間がかからず、手軽に読んだり書いたりできます。再編集や保存が簡単なため、最近急速に普及してきています。

電子メールアドレス
「Eメールアドレス」とも言います。
電子メールを送る相手先の情報のことです。通常の郵便になぞらえて、「アドレス」と言っていますが、国名や番地を書く訳ではありません。電子メールアドレスは、世界に1つだけのものなので、使う人がどこにいようと配信され、読むことができます。

ドライバ
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。基本的なものはすでにWindows 2000に含まれていますが、それ以外の周辺機器を使用したいときは、その機器に必要なドライバをインストールする必要があります。

ハ

パーティション
ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルやソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

ハードウェアアクセラレータ
コンピュータの画面を高速にしたり、表示できる色数を増やすために、コンピュータに内蔵されている装置のことです。通常は「画面のプロパティ」画面で最大に設定します（190ページ）。

ハードディスク
コンピュータに接続する補助記憶装置の一つです。表面に、磁性体を塗った平らな円盤（ディスク）を回転させ、それに磁気ヘッドを近づけてデータの書き込み／読み出しを行います。大容量のデータを保存でき、書き込み／読み出しが高速で行えます。

パラレルポート
プリンタやモデムなどの周辺機器とコンピュータを接続するインターフェース規格のことです。複数のデータ線を通して、データをいくつか送り、同時に処理できる方式のことです。

ピクセル
画面上の点を示します。コンピュータの画面上やプリンタでは、文字や図形を小さな点の集まりで表しますが、この基本の単位となる最小の点のことです。「画素」や「ドット」とも言います。

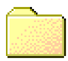
ビットマップ
文字や図形を小さな点の集まりで表現することです。現在のコンピュータの表示は、ほとんどがビットマップ方式です。

ファイル
データのことです。厳密に言えばデータをひとまとめにしたものですが、コンピュータでは区別が無くなっています。ファイルには、文字列として読み出すことのできるテキストファイル（文書ファイルなど）と、文字としては読み出せないバイナリファイル（実行形式のファイルなど）があります。



フォーマット
→「初期化」をご覧ください。

フォルダ
ペーパーフォルダの形をしたアイコンのことで、ファイルを保存しておく場所のことです。ソフトウェアや文書は「ファイル」として保存されますが、ファイルを整理して、使いやすくするためにフォルダの中に分類することができます。紙の資料（ファイル）を紙ばさみ（フォルダ）に入れて整理、保管することをデスクトップ画面上で行うようなものです。



プラグアンドプレイ
周辺機器を接続したり、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使える状態になる機能です。本機に取り付けられているPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。

プログラマブルパワーキー
押すだけで目的のソフトウェアを起動できるキーです。本機の電源が切れている状態で押すと、電源の投入から目的のソフトウェアの起動までを自動的に行います。

プロバイダ
→「インターネットサービスプロバイダ」をご覧ください。

プロパティ
OS上のソフトウェアからアクセスできる属性のことです。プロパティは、ユーザーの使いやすいように設定することができます。

プロファイル
Windows 2000のユーザー設定をまとめたもので、ユーザーごとに保持されます。

マ

マイコンピュータ
デスクトップ画面上にあるアイコンの一種で、お使いのコンピュータで使用できるデバイスやツール（道具）の集まりを示します。
マウスでダブルクリックすると、使用中のコンピュータの各種情報や、コントロールパネル、フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブといったデバイスやフォルダなどが表示されます。



メモリ
コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

モデム
コンピュータの情報を電話回線を通じてやりとりするために必要な機器です。本機には内蔵されています。

ラ

リソース
もともとは、「資源」という意味です。
コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。リソースには限りがあるため、不要なソフトウェアが占有しないようにすることが必要です。

リフレッシュレート
コンピュータでは、デスクトップ画面上の表示を一定の間隔で書き換えています。この書き換えの間隔のことを「リフレッシュレート」と言います。数値が多い方が書き換えが高速で、目に優しい表示ですが、コンピュータによって、リフレッシュレートには上限があります。

リムーバブルディスク
データを読み書きできる取り外し可能な記録メディアのことです。

アルファベット順

AVI形式
Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。

BIOS
「バイオス」と読みます。基本入出力システムのことです。コンピュータの本体と、周辺機器（マウス、キーボード、プリンタ、ディスプレイなど）との間でのデータのやり取りを行います。コンピュータにとって最も基本的なプログラムの一つです。

CD-R
「シーディーアール」と読みます。CD-ROMと外見は似ていますが、コンピュータで扱うプログラムやデータを一度だけ書き込むことができるコンパクトディスクです。フロッピーディスクに入り切らない大容量のデータを保存することができます。

CD-ROM
「シーディーロム」と読みます。コンピュータで扱うソフトウェアやデジタルデータが記録された、読み取り専用のコンパクトディスクです。読み取り専用なので、自分で作った文書ファイルなどを保存することはできません。

CD-RW
「シーディーアールダブリュー」と読みます。CD-ROMと外見は似ていますが、コンピュータで扱うプログラムやデータを何度も書き込んだり消去したりすることができるコンパクトディスクです。フロッピーディスクに入り切らない大容量のデータを保存することができます。

CPU
「シーピーユー」と読みます。中央演算処理装置のことで、コンピュータの中枢部分のことです。入出力装置からデータを受け取り、演算し、記憶し、結果を出力します。コンピュータでは、CPUの機能を一つにまとめて、マイクロプロセッサとして使用されています。なお、CPUは同時に処理できるデータ数によって、8ビット、16ビット、32ビット、64ビットなどに分けられ、ビット数の大きいものほど一般には処理速度は速くなる傾向があります。

DV形式
ソニーデジタルビデオカメラレコーダーなどDV形式のデジタルビデオ機器からテープ上に映像／音声をデジタル記録する際のデータ圧縮形式です。

Eメール
→「電子メール」をご覧ください。

Eメールアドレス
→「電子メールアドレス」をご覧ください。

I/Oポート
「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブや、ハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

i.LINK
「アイリンク」と読みます。次世代のI/Oの規格でIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様（通称IEEE1394）の本格的な普及を目指すためソニーが開発・提唱している呼称です。コンピュータどうしまたは、コンピュータとデジタルビデオカメラレコーダーなどを接続して、データを転送・編集したり、接続した機器をコンピュータからコントロールすることができます。

IRQ
「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて、CPUに割り込み命令を出して、実行中の処理を一時的に中断し、割り込みした処理を行います。

ISDN
NTTのデジタル通信網を使った電話で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

JPEG形式
カラーの静止画を圧縮する方式のことです。インターネット上で扱う静止画圧縮方式の代表的なものです。

MO
「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記録メディアです。

MPEG1
カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮率が得られます。主にビデオCDなどに使われています。

OS
「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機はOSとしてWindows 2000を使っています。

PPK
→「プログラマブルパワーキー」をご覧ください。

SCSI
「スカジー」と読みます。コンピュータとMOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。

URL
「ユーアールエル」と読みます。インターネット上の情報（ホームページ）のアドレスのことです。本機に付属の「Internet Explorer」ソフトウェアなどのウェブブラウザ上で「http://www.sony.co.jp/」と入力すると、ソニーのホームページにジャンプして見ることができます。ただし、1文字でも間違えると、閲覧したいホームページにジャンプできなかったり、何も表示されないことがあります。

USB
「ユーエスビー」と読みます。キーボードやマウスなどの比較的低速な周辺機器を接続するインターフェイス規格のことです。USB機器は電源が入ったままの状態で接続または取りはずしができます。また、USBはハブと呼ばれる接続器を仲介して、最大で127台までの周辺機器を接続することができます。

索引

五十音順

ア

カ

サ

タ

次のページにつづく

その他

ナ

ハ

アルファベット順

次のページにつづく

この説明書は再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。
コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。
工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）および MEMORY STICK™ は、ソニー株式会社の商標です。
- “AIBO”とAIBOロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i "は商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows、OutlookおよびBookshelfは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Adobe®およびAdobe® Acrobat® ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
-
  Adaptec および Adaptec社のロゴは、Adaptec, Incの登録商標です。
  Easy CD Creator、DirectCDは，Adaptec, Inc. の商標です。
- VirusScanは日本ネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

Printed in Japan